

万博国際交流プログラム 交流計画の進捗状況

<特別交付税措置対象地域>

令和7年 3月
内閣官房 国際博覧会推進本部事務局

本資料は、万博国際交流プログラムの登録自治体からの報告を基に、内閣官房国際博覧会推進本部事務局が取りまとめたもの。

交流計画の進捗状況

・北海道東川町(ラトビア)..... 5	・岐阜県(フランス)..... 52
(カナダ)..... 8	(ポーランド)..... 57
	(リトアニア)..... 60
・岩手県岩手町(アイルランド)..... 11	(英国)..... 63
	(ハンガリー)..... 65
・山形県村山市(ブルガリア)..... 15	・岐阜県・多治見市(中国)..... 67
・茨城県(イタリア)..... 18	・岐阜県・関ヶ原町(米国)..... 69
・栃木県那須塩原市(オーストリア)..... 21	(ベルギー)..... 72
・群馬県甘楽町(中国)..... 26	・岐阜県岐阜市(中国)..... 75
・東京都渋谷区(米国)..... 30	・岐阜県恵那市(ポーランド)..... 78
・新潟県(ベトナム)..... 32	・岐阜県八百津町(リトアニア)..... 82
・石川県(韓国)..... 35	・静岡県(中国)..... 89
・福井県福井市(スロベニア)..... 38	・愛知県美浜町(シンガポール)..... 91
・山梨県(米国)..... 44	・滋賀県(バチカン)..... 94
・長野県駒ヶ根市(ネパール)..... 46	・滋賀県長浜市・滋賀県(米国)..... 96
・長野県宮田村(韓国)..... 49	・京都府(インドネシア)..... 99
	(英国)..... 101
	(カナダ)..... 103
	(中国)..... 105

交流計画の進捗状況

・京都府(フランス).....107	・大阪府富田林市(米国).....165
(米国).....109	
(ベトナム).....111	・大阪府河内長野市(米国).....168
・京都府亀岡市(ウクライナ).....113	・大阪府松原市(オーストラリア).....171
(オーストラリア).....115	(韓国).....173
(中国).....118	・大阪府泉南市(フィリピン).....175
(米国).....121	
・大阪府(フランス・米国・オーストラリア・ベトナム・(アラブ首 長国連邦)・イタリア・中国・インドネシア).....124	・兵庫県三木市(フランス).....181
・大阪府大阪市(オーストラリア).....127	・奈良県(ウズベキスタン).....186
(韓国).....129	・島根県海士町(ブータン).....193
(中国).....132	・岡山県(韓国).....196
(ドイツ).....135	・広島県福山市(リトアニア).....199
(ベトナム).....142	・山口県山口市(スペイン).....202
・大阪府堺市(チェコ).....145	・徳島県東みよし町(カナダ).....205
・大阪府岸和田市(フランス).....148	
・大阪府豊中市(米国).....151	・香川県(イタリア).....208
・大阪府吹田市(スイス).....154	(ベトナム).....211
	(中国).....214
・大阪府八尾市(中国).....159	・香川県・丸亀市(スペイン).....217
(米国).....162	

交流計画の進捗状況

・愛媛県愛南町(カナダ).....	223
・佐賀県(オランダ).....	226
・長崎県雲仙市(デンマーク).....	229
・長崎県東彼杵町(オランダ).....	232
・大分県(英国).....	235

東川町交流計画の進捗状況

自治体名	東川町
相手国・地域	ラトビア

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

東川町は2008年にラトビア・ヴァルミアラ県と姉妹都市提携を締結し、長年にわたり学生交流や職員研修を実施してきた。また、写真文化を活用した国際交流を推進し、世界に開かれた町づくりを進めている。大阪・関西万博を契機に、ラトビアとの人的・文化的交流をさらに深め、多文化共生や地域活性化の促進を目的とする。

イ 目標

高校生派遣を通じた国際理解の促進、高校生国際交流写真フェスティバルの実施による国際的な交流拡大、ラトビア大使館との連携による交流の深化、万博を活用した地域経済の活性化と国際的認知度向上。

(2) 1 事業内容

【高校生海外交流事業】

- ①スケジュール(派遣⇒募集:5月8日、実施:9月7日～22日/受入⇒募集:5月8日、実施:10月17日～10月29日)
- ②体制及び内容(派遣⇒東川町在住の高校生を対象に参加者を公募し、4名をラトビアルーイエナ高校へ派遣し研修した。期間中はホームステイや宿泊施設に滞在した/受入⇒ルーイエナ、ヴァルミアラの高校生を対象に参加者を公募し、4名を東川高校で受け入れ研修した。期間中はホームステイや宿泊施設に滞在)
- ③効果(特徴ある文化や習慣等を交流成果として青少年を中心に広く共有することにより、青少年のバランスのとれた国際感覚を育成する)
- ④当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

【高校生国際交流写真フェスティバル】

- ①スケジュール(募集:5月16日、参加国決定:6月上旬、フェスティバル:8月19日～8月25日)
- ②体制及び内容(現地コーディネータを通じてラトビア国内で作品を公募したのち、審査を実施し参加国を決定。フェスティバル期間中は、東川町内の宿泊施設に滞在しながら、町内を撮影した)
- ③効果(写真文化と世界の人々を繋ぎ、次代を担う高校生同士が会話を深め、友情の輪を拡大し、世界の恒久平和へ繋げることが期待できる)
- ④当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

【2025大阪・関西万博 地方創生SDGsフェス出展】

- ①スケジュール(5月28日～6月1日)
- ②体制及び内容(東川町CIRを含む職員がブース出展し、写真文化やリサイクル事業について発信する)
- ③効果(多文化共生社会の実現や資源問題などの社会課題の解決に寄与する)
- ④当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

(2)ー2 事業内容

【高校生海外交流事業】

東川町と良好な国際交流を図っている各国及び地域のうち、姉妹都市であるラトビア・ヴァルミエラ県へ高校生を派遣し、語学研修や異文化体験、地元高校生との交流を図る。特徴ある文化や習慣等を交流成果として青少年を中心に広く共有することにより、青少年のバランスのとれた国際感覚を育成する。

事業実施日 派遣:2024年9月7日から9月22日までの16日間(移動日を含む)/受入2024年10月17日から10月29日までの13日間

(2)ー2 事業内容

【高校生国際交流写真フェスティバル】

「写真文化首都」写真の町東川町が目指す写真文化を中心とした未来に向かって均衡ある適疎な町づくりを実現するため、写真文化と世界の人々を繋ぎ、次代を担う世界の高校生同士が写真文化を通じて、会話を深め、友情の輪を拡大し、世界の恒久平和を願うことを目的として行った。

東川町と交流のある国・地域の中から、それぞれテーマに沿った作品(組写真)を募集し、国・地域ごとに作品審査を行い、フェスティバルへの参加校を決定した。各国のフェスティバル参加校は、東川町に滞在しながら撮影を行うことで、写真文化と世界の人々を繋ぎ、次代を担う高校生同士が会話を深め、友情の輪を拡大し、世界の恒久平和へ繋げることを期待し実施した。ラトビアより高校生3名、指導者1名参加。

事業実施日 2024年8月19日～2024年8月25日までの7日間(招へい期間)

(2)ー2 事業内容

【2025大阪・関西万博 地方創生SDGsフェス出展】

日本の言語や社会・文化、そしてリサイクル技術を学び、世界各地で直面する資源リサイクル問題に挑戦する人材を輩出することで、多文化共生社会の実現や資源問題などの社会課題の解決に寄与します。

本展示では、北海道東川町の写真文化を活かした社会課題解決のプロジェクトを広くPRするため、ブース内にて、万博や町をモチーフとした記念写真を撮影するフォトブースを設置し、写真家による撮影を体験できる場を提供します。取り組みを通じてラトビアからの来場者にも写真文化を通じた交流を期待し実施します。

事業実施日 2025年5月28日～2025年6月1日までの5日間

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

本事業の実施により、高校生の異文化理解が促進され、国際的な視野の育成に寄与しました。また、万博を活用した地域のPRにより、東川町の国際的認知度が向上し、観光誘致や地域活性化にもつながる成果が期待されます。さらに、ラトビア大使館や協賛企業との連携を深めることで、地域と万博関係者のつながりが強化する。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博閉幕後も、本事業を継続するために、CIR(ラトビア人国際交流員)の継続雇用や、国際交流プログラムの発展に取り組みます。これにより、地域の国際化と多文化共生の推進を図り、地方創生の一環として、観光誘致や国際的な人材育成にも貢献することを目指します。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

本事業は、長年にわたる姉妹都市交流が基盤となっており、関係者との調整が比較的スムーズに進められました。また、高校生の参加意欲が高く、今後の交流発展への期待が高まっています。

●苦勞した点

事業の継続性を確保するための資金や人的リソースの確保も課題として浮上しました。

6 今後の展開

今後は、文化体験プログラムの拡大や企業との連携強化を図り、交流の内容をさらに充実させます。また、万博閉幕後も継続的な交流を維持するための枠組みを確立し、国際交流の発展に向けた取り組みを進めます。

7 今後の展開における課題

交流事業を継続するためには、安定的な資金調達と支援体制の強化が必要です。また、より多くの町民が交流に参加できるよう、さらなる普及啓発と体制整備が求められます。



【高校生海外交流事業】
東川町受入れ時に地元高校生とともに町内施設を訪れ、日本の文化や伝統に触れた



【高校生国際交流写真フェスティバル】
東川町歓迎セレモニーにおける参加国の全体セッションでのワンシーン



【高校生国際交流写真フェスティバル】
フェスティバル後の交流会における食体験や地元住民とのふれあいを実施

東川町交流計画の進捗状況

自治体名	東川町
相手国・地域	カナダ

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

東川町は1989年にカナダ・キャンモア町と姉妹都市提携を締結し、長年にわたり学生交流や職員研修を実施してきた。また、写真文化を活用した国際交流を推進し、世界に開かれた町づくりを進めている。大阪・関西万博を契機に、ラトビアとの人的・文化的交流をさらに深め、多文化共生や地域活性化の促進を目的とする。

イ 目標

高校生派遣を通じた国際理解の促進、高校生国際交流写真フェスティバルの実施による国際的な交流拡大、カナダ大使館との連携による交流の深化、万博を活用した地域経済の活性化と国際的認知度向上。

(2) 1 事業内容

【高校生海外交流事業】

- ①スケジュール(派遣⇒募集:5月8日、実施:9月20日～10月6日)
- ②体制及び内容(派遣⇒東川町在住の高校生を対象に参加者を公募し、4名をキャンモア高校へ派遣し研修した。期間中はホームステイや宿泊施設に滞在する/受入⇒キャンモアの高校生を対象に参加者を公募し、4名を東川高校で受け入れ研修した。期間中はホームステイや宿泊施設に滞在)
- ③効果(特徴ある文化や習慣等を交流成果として青少年を中心に広く共有することにより、青少年のバランスのとれた国際感覚を育成する)
- ④当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

【高校生国際交流写真フェスティバル】

- ①スケジュール(募集:5月16日、参加国決定:6月上旬、フェスティバル:8月19日～8月25日)
- ②体制及び内容(現地コーディネータを通じてカナダ国内で作品を公募したのち、審査を実施し参加国を決定。フェスティバル期間中は、東川町内の宿泊施設に滞在しながら、町内を撮影した)
- ③効果(写真文化と世界の人々を繋ぎ、次代を担う高校生同士が会話を深め、友情の輪を拡大し、世界の恒久平和へ繋げることが期待できる)
- ④当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

【2025大阪・関西万博 地方創生SDGsフェス出展】

- ①スケジュール(5月28日～6月1日)
- ②体制及び内容(東川町CIRを含む職員がブース出展し、写真文化やリサイクル事業について発信する)
- ③効果(多文化共生社会の実現や資源問題などの社会課題の解決に寄与する)
- ④当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

(2)ー2 事業内容

【高校生海外交流事業】

東川町と良好な国際交流を図っている各国及び地域のうち、姉妹都市であるカナダ・キャンモア町へ高校生を派遣し、語学研修や異文化体験、地元高校生との交流を図った。特徴ある文化や習慣等を交流成果として青少年を中心に広く共有することにより、青少年のバランスのとれた国際感覚を育成した。

事業実施日 2024年9月20日から10月6日までの17日間(移動日を含む)

(2)ー2 事業内容

【高校生国際交流写真フェスティバル】

「写真文化首都」写真の町東川町が目指す写真文化を中心とした未来に向かって均衡ある適疎な町づくりを実現するため、写真文化と世界の人々を繋ぎ、次代を担う世界の高校生同士が写真文化を通じて、会話を深め、友情の輪を拡大し、世界の恒久平和を願うことを目的として行った。

東川町と交流のある国・地域の中から、それぞれテーマに沿った作品(組写真)を募集し、国・地域ごとに作品審査を行い、フェスティバルへの参加校を決定した。各国のフェスティバル参加校は、東川町に滞在しながら撮影を行うことで、写真文化と世界の人々を繋ぎ、次代を担う高校生同士が会話を深め、友情の輪を拡大し、世界の恒久平和へ繋げることを期待し実施した。カナダより高校生3名、指導者1名参加。

事業実施日 2024年8月19日～2024年8月25日までの7日間(招へい期間)

(2)ー2 事業内容

【2025大阪・関西万博 地方創生SDGsフェス出展】

日本の言語や社会・文化、そしてリサイクル技術を学び、世界各地で直面する資源リサイクル問題に挑戦する人材を輩出することで、多文化共生社会の実現や資源問題などの社会課題の解決に寄与します。

本展示では、北海道東川町の写真文化を活かした社会課題解決のプロジェクトを広くPRするため、ブース内にて、万博や町をモチーフとした記念写真を撮影するフォトブースを設置し、写真家による撮影を体験できる場を提供します。取り組みを通じてカナダからの来場者にも写真文化を通じた交流を期待し実施します。

事業実施日 2025年5月28日～2025年6月1日までの5日間

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

本事業の実施により、高校生の異文化理解が促進され、国際的な視野の育成に寄与しました。また、万博を活用した地域のPRにより、東川町の国際的認知度が向上し、観光誘致や地域活性化にもつながる成果が期待されます。さらに、カナダ大使館や協賛企業との連携を深めることで、地域と万博関係者のつながりが強化する。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博閉幕後も、本事業を継続するために、CIR(カナダ人国際交流員)の継続雇用や、国際交流プログラムの発展に取り組みます。これにより、地域の国際化と多文化共生の推進を図り、地方創生の一環として、観光誘致や国際的な人材育成にも貢献することを目指します。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

本事業は、長年にわたる姉妹都市交流が基盤となっており、関係者との調整が比較的スムーズに進められました。また、高校生の参加意欲が高く、今後の交流発展への期待が高まっています。

●苦勞した点

事業の継続性を確保するための資金や人的リソースの確保も課題として浮上しました。

6 今後の展開

今後は、文化体験プログラムの拡大や企業との連携強化を図り、交流の内容をさらに充実させます。また、万博閉幕後も継続的な交流を維持するための枠組みを確立し、国際交流の発展に向けた取り組みを進めます。

7 今後の展開における課題

交流事業を継続するためには、安定的な資金調達と支援体制の強化が必要です。また、より多くの町民が交流に参加できるよう、さらなる普及啓発と体制整備が求められます。



【高校生海外交流事業】
カナダ派遣時におけるホームステイ先での交流の様子



【高校生国際交流写真フェスティバル】
東川町歓迎セレモニーにおける参加国の全体セッションでのワンシーン



【高校生国際交流写真フェスティバル】
フェスティバル後の交流会における食体験や地元住民とのふれあいを実施

岩手町交流計画の進捗状況

自治体名	岩手県 岩手町
相手国・地域	アイルランド

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

●岩手町は2020年に内閣府のSDGs未来都市に選出された。岩手町SDGs未来都市計画は、①シビックプライドの醸成・向上を図ること、②町のブランド価値を高めること、③国内外のSDGs姉妹都市連携、この3つの方針を掲げている。これに基づき、リビングラボ及び地域共創人材育成により、岩手町の特徴である「農業」「健康・スポーツ」「芸術・ものづくり」の3つの側面をSDGsの視点で磨き上げ、持続可能性を高めて行くこととした。2021年度からスタートした岩手町総合計画は、この岩手町SDGs未来都市計画の理念・コンセプトに従った内容となっている。岩手町万博国際交流プログラムは、岩手町SDGs未来都市計画のうち「SDGs姉妹都市連携」の実現のため実施しようとするものである。

●岩手町は、東京2020オリンピックにおいてアイルランドのホストタウンとなり、アイルランド女子ホッケーチームの事前合宿を受け入れたことが契機となり、岩手町においてアイルランドの文化等を紹介する取組が始まった。東京2020オリンピック開催翌年度の2023年3月には初めて地元岩手県立沼宮内高等学校生徒5名をアイルランドのダブリン市にあるマウントテンプレ・コンプリヘンシヴ・スクールに研修に派遣することができた。翌2024年2月にも同様の派遣事業を実施した。さらに2024年10月にはこの受入れ校の高校生4名が初来町し、ホームステイしながら高校生や町民と交流した。これまでのアイルランド紹介事業、高校生による交流が契機となり、このたびの大阪・関西万博関連でのアイルランドとの、幅広い世代・業種でのさらなる交流が実現することで、岩手町の「農業」、「健康・スポーツ」、「芸術・ものづくり」に磨きがかかり、「SDGs姉妹都市連携」の実現に向けた機運醸成につながるものと考えている。

イ 目標

●このたびの大阪・関西万博におけるアイルランドのテーマは、「クリエイティビティが人と人をつなぐ」であり、岩手町の特徴、強みである「農業」「健康・スポーツ」「芸術・ものづくり」の3つの分野で岩手町民がアイルランドの人々となつたり合うことを大きな成果として目指すものである。そしてその先には、SDGsの視点でお互いの特色を高め合い、持続可能性を創造し合うような姉妹都市連携を目指す町との交流に深化させていきたい。

(2) - 1 事業内容

【クアオルト健康ウォーキング】

①スケジュール: 9月下旬事業打合せ～10月中旬参加者募集開始～11月22日事業実施

②体制: 東北経済産業局、株式会社近藤設備、岩手町

③内容: 令和6年11月22日10時～16時、岩手県北上市the campus、クアオルト健康ウォーキング体験及び東北経済産業局より万博の紹介、15名、報道対応特になし

④効果

自治体内への波及効果: 万博と健康増進への理解が増した

実施により達成できた成果: 万博の企画・運営に関わる日本側の関係者との交流

相手国への波及効果: アイルランドの万博のテーマは「創造性が人々をつなぐ」である。クアオルト健康ウォーキングという新たな視点の健康づくりから参加者の交流ができ、アイルランド万博テーマに沿った活動となった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

(2)ー2 事業内容

【高校生アイルランド派遣事業】…に関する交流イベントの実施

①スケジュール: R6年11月上旬委託業者契約及び事業打合せ～R7年2月20日～27日事業実施

②体制: ㈱スポーツユニティ、アイルランドダブリン市マウントテンプレル高校、岩手県立沼宮内高校、岩手町

③内容: 出国前に駐日アイルランド大使館を表敬訪問、アイルランド到着後、在アイルランド日本大使を表敬訪問、その後アイルランドの高校生と万博のテーマを含めた交流を行った。

④効果

自治体内への波及効果: 高校生という若い世代が交流することで、改めて地元の地域文化への関心が深められ、また、世界とつながる体験により、より視野の広い人材育成につながった。

実施により達成できた成果: 今回アイルランドが万博で掲げたテーマは「創造性が人々をつなぐ」である。今回の派遣により、沼宮内高校生は、普段自らの生活で行っているSDGsへの活動と、アイルランドで取り組まれているSDGsの活動を比較することで得た学びは、彼らの創造性を磨き、アイルランドの高校生との交流で得たつながりは、今後彼らや町の財産となる。

相手国への波及効果: 日本の高校生が対面で文化を紹介し、アイルランドの日本語を学んでいる高校生を主に交流が行われた。距離的には遠い国どおしだが、DXにより文化、情報の交流は容易な環境となっており、今回の対面での交流により、より身近な存在であることを印象付けることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー3 事業内容

【グリーンアイルランドフェスティバル2025出展】

①スケジュール: R7年1月出店に向けた情報収集～2月出店申込～3月出展物決定～R7.3.15-16イベント参加

②体制: グリーンアイルランドフェスティバル実行委員会・町

③内容: 令和7年3月15日～16日、東京都渋谷区代々木公園において開催された、アイルランド文化を体験する日、グリーンアイルランドフェスティバルに出展参加し、岩手町とアイルランドの交流の状況を発信した。参加者は町関係者9名。報道対応は特になし。

④効果: アイルランドに興味を持つイベント来場者に岩手町とアイルランドとのつながりを紹介することができ、岩手町をPRすることができた。また、在日アイルランド人の方や駐日アイルランド大使館の方にも岩手町出展ブースを紹介することができ、アイルランドの方にも岩手町をPRすることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー4 事業内容

【岩手町アイルランドフェスティバル2025】

①スケジュール: R6.11月イベント打合せ～R6.12月アイルランド大使館職員の派遣要請～R7.3.22イベント実施

②体制: 岩手町アイルランドフェスティバル実行委員会、アイルランド大使館

③内容: R7.3.22に岩手町広域交流センターにおいて、岩手町アイルランドフェスティバルを開催。多数の来場者がある中で、アイルランド大使館職員からアイルランドとアイルランドの文化の紹介、大阪・関西万博でのアイルランドのパビリオンの紹介をしてもらうなどアイルランドの文化に触れるイベントを行った。

④効果: 実際にアイルランド大使館職員が来町してアイルランドの文化と万博でのアイルランドパビリオンの紹介がされ、アイルランドという国と文化や万博がより町民に身近なものとなった。また、近隣のアイルランドの方の来場もあり、アイルランドの方に岩手町を紹介することができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

●このたびの大阪・関西万博におけるアイルランドのテーマは、「クリエイティビティが人と人をつなぐ」であり、岩手町の特徴、強みである「農業」「健康・スポーツ」「芸術・ものづくり」の3つの分野で岩手町民がアイルランドの人々となつながら合うことを大きな成果として目指すものである。今年度行った事業は、アイルランドの文化の理解と人的交流による人とのつながりが主となっている。互いの文化を理解することは、SDGsの視点でお互いの特色を高め合うことにつながっていく。また、若い世代での人的交流は、ICT技術の発展により、距離の壁を乗り越えている。これが将来的に、持続可能性を創造し合うような姉妹都市連携を目指す町との交流につながる可能性があると考えている。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後の事業継続性や自治体の地方創生への寄与の状況

●国際交流を行うことの効果は、「さまざまな価値観に触れる事」「お互いの地域特性の理解(特に地元地域特性の再認識)」「地域社会や文化の再構築」「人材育成」「文化・産業・経済の交流」にあると考えている。大阪・関西万博を契機に、NPO 法人岩手町国際交流協会との連携が深まり、国際交流の効果を町民と共有し、国際交流に係る人材育成の育成に連携して取り組むための素地ができた。

●岩手町がSDGs未来都市に選定された際、岩手町SDGs未来都市計画は「小さな自治体でありながら持続的なまちづくりを戦略的に行う活動」と評価を受けた。岩手町SDGs未来都市計画の実現を目指し、取り組んできた中で、東京2020 オリンピックのレガシーとしてアイルランドとの交流を深めてきたように、大阪・関西万博を契機に行った令和6年度の事業と今後行う令和7年度の事業は、さらに進化した交流の発展と継続につながるものと考えている。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

6年度に計画した事業は予定通り実行することができた

●苦勞した点

初参加となるイベントの参加は経験値がなかったため苦勞した

6 今後の展開

令和7年度事業は、万博でのアイルランドナショナルデーへの参加、町関係団体代表者のアイルランド訪問等、今後の交流の深化に向けた事業を実施する。東京オリンピックのレガシーに大阪・関西万博のレガシーを積み上げ、国際交流の推進を図る。

7 今後の展開における課題

今後の交流は特にアイルランド大使館との打合せ、情報交換が重要となることから、コンタクトを密にとり、準備を万全に行いたい。



クアオルト健康ウォーキング体験



グリーンアイルランドフェスティバル2025



岩手町アイルランドフェスティバル2025

村山市交流計画の進捗状況

自治体名

山形県村山市

相手国・地域

ブルガリア共和国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

ブルガリアと村山市の共通事項から、バラ産業振興や新体操振興、その他インバウンド推進を行う。村山市とブルガリアがwin-winとなる交流、PRを中心に、相手国との交流や協力体制を構築する。会場内のパビリオンブース参画に加えて、会場外の取り組みとして村山市でブルガリアフェア(日本ブルガリア協会山形県村山支部との協力)により、万博のPRと地域振興をはかる。

イ 目標

バラ産業振興、新体操振興、インバウンド推進などの相乗PR。万博に向けた協力体制の構築。会場外の取り組み。

(2)ー1 事業内容

【新体操講習会】

- ①スケジュール(令和6年10月9日～16日)
- ②体制(村山市生涯学習課、むらやま新体操教室、ブルガリア新体操連盟)
- ③内容(令和6年10月12日～13日、村山市民体育館、新体操講習会、参加者約100名、報道対応等)
- ④効果(国際交流、新体操振興、地域活性化、交流人口の増加、万博機運醸成)
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(イ 万博参加国・地域の関係者)

(2)ー2 事業内容

【万博担当大臣村山市視察】

- ①スケジュール(令和6年6月28日～29日)
- ②体制(村山市長、村山市政策推進課、村山市観光物産協会、ブルガリア共和国中小企業促進庁)
- ③内容(令和6年6月28日～29日、村山市内、視察と懇談、参加者約20名、報道対応等)
- ④効果(国際交流、相互理解、万博機運醸成、万博参画の基本合意)
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(イ 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者)

(2)ー3 事業内容

【ブルガリアフェア】

- ①スケジュール(令和6年6月30日)
- ②体制(村山市生涯学習課、むらやま新体操教室、日本ブルガリア協会山形県村山支部)
- ③内容(令和6年6月30日、東沢ばら公園、マルテニツァワークショップ等、参加者約100名、報道対応等)
- ④効果(国際交流、文化交流、新体操振興、地域活性化、交流人口の増加、万博機運醸成)
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者)

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

新体操振興によるイベントの実施と関係人口の創出。
相手国万博担当との協力体制の構築と調整。
ブルガリアフェアや日本語弁論大会等の会場外の取り組み実施による地域活性化と関係人口の創出。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

新体操振興やバラ産業振興、ブルガリアフェア、日本語弁論大会について、市民団体レベルで継続した交流を実施予定。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

・当初、市が主導して実施したイベントが市民の盛り上がりにより市民団体が継承して実施するなど地域に根差した交流として継続している。

●苦勞した点

・ブルガリアパビリオンやナショナルデーの相手国側の検討が進んでいなかったため、相手国担当者との調整が難航した。

6 今後の展開

ブルガリアナショナルデーでの共同参画
ブルガリアパビリオン村山デーでの出展
継続した市民交流(新体操交流、ブルガリアフェア等)での万博機運醸成とPR

7 今後の展開における課題

ブルガリアとの万博共同参画の際にwin-winになるような仕掛けづくりと調整
村山市から大阪までの物理的な距離を払拭するような万博PRと機運醸成づくり

◆ 村山市での交流記録



新体操講習会(ブルガリア新体操)



ブルガリアフェア(マルテニツァワークショップ)



万博担当大臣視察

茨城県交流計画の進捗状況

自治体名	茨城県
相手国・地域	イタリア共和国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

茨城県は約280万人の人口（R7.1月現在）を有し、県北地域においては、日立製作所の協力企業を中心に電機・機械産業等が集積するとともに、県南地域のつくばでは、国等の教育・研究機関などが多数集積するなど、産業拠点としての発展を遂げている。また、つくばエクスプレスや茨城空港、茨城港など陸海空の広域交通ネットワークが充実し、国内外との物流拠点としても整備が進むとともに、豊富な農林水産物にも恵まれ、農業産出額が全国第3位の農業県でもある。

一方、県北地域を中心に人口減少、高齢化が進んでおり、地域産業の担い手確保等が課題として挙げられるところである。

エミリア・ロマーニャ州は、本県同様、農業県であり工業も盛んである一方、人口減少や農業就業人口減の課題等を抱えている。

こうした中、本県同様の強み弱みを持つ両地域が、万博を契機とした人的交流・経済交流を進めることにより、住民の国際化の意識向上のみならず、県産品のPR等を通じた地域の活性化に繋げていきたい。

イ 目標

両地域の住民同士の相互交流の機会創出や、両地域の強みを生かした経済交流等を促進する

(2) 事業内容

【事業名】 イタリア（エミリア・ロマーニャ州等）との経済・文化等を通じた国際交流の推進

①スケジュール（2024年10月10日から11月10日）

②体制（イタリア＝エミリア・ロマーニャ州政府、在ミラノ日本国総領事館及びジェトロミラノ事務所）

③内容（日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等）

○ エミリア・ロマーニャ州での交流（10/12～10/31）

- ・ 笠間焼や結城紬などの県の伝統工芸品や大阪万博ポスター等の展示会を開催
- ・ 展示会オープニングセレモニーでは、在ミラノ総領事館の首席領事、ファエンツァ市役所関係者、地元国際交流協会関係者及び100名を超える現地の住民が参加
- ・ 県産陶器を使用した茶会（4回）の開催や、県伝統工芸体験、本県出身音楽家による近代日本音楽コンサートにおいて、延べ200名の現地住民と日本文化に触れてもらう交流イベントを開催。

・ 併せて、州政府と今後の万博国際交流プログラム事業についての協議のほか、ファエンツァ市及びラヴェンナ市の市役所を訪問し、本県とエミリア・ロマーニャ州との取組や大阪万博の紹介等を実施。

・ 在ミラノ総領事館のウェブサイト及び運営者であるラヴェンナ伊日交流協会のウェブサイトやインスタグラム等においても本県の取組が紹介された。

○ ミラノ現地での交流（11/4～11/10）

・ ミラノ市内のTenoha Milanoの展示スペースにおいて、県伝統工芸品の展示会、県内事業者も参加しての県産食材等による試食会などを開催。会期中計6回県工芸品体験ワークショップを実施し、現地住民約50名が参加する相互交流を実施。展示会運営者によりインスタグラムでイベントを案内。

④効果（自治体内への波及効果）（実施により達成できた成果）（相手国への波及効果）

エミリア・ロマーニャ州の現地において、友好提携都市としての茨城県の認知度向上に繋がった。

- ・ 県内事業者に、イタリアでの県産品PR事業を理解してもらい、事業者の経済交流の意欲に繋がった。
- ・ 茶会や工芸品の体験イベント等を通じて、日本の伝統文化を伝えることに繋がった。
- ・ 本県及び現地事業者同士による取引に繋がった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2（1）ア～ウから選択）

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

・2024年度事業においては、相手国の住民や本県関係者との交流が図られ、万博の開催や本県についてのPRなど当初の目的を一定程度達成できた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後の事業継続性や自治体の地方創生への寄与の状況

・2024年度の取組みを契機に、エミリア・ロマーニャ州から高齢化社会や少子化対策などの新たな分野での連携の提案を受けており、今後実現に向け調整する。

5 特に良かった点、苦労した点

●良かった点

- ・体験型の催しを取り入れたことで、現地のイタリア人の日本、茨城に対する関心をより引くことができた。
- ・ラヴェンナ伊日交流協会から現地での催しについて会場選定や茶会講師選定、人的支援等の協力を得られた。

●苦労した点

- ・現地は夏休み期間が長いため、調整に想定以上の時間を費やした。
- ・現地の降雨災害により、催事の開催実施が危ぶまれた。
- ・郵便事情の不便により、物品の輸送に苦労した。

6 今後の展開

本年度は大阪万博への来日関係者を中心に人的・技術的交流を行うと共に、昨年度同様イタリア現地でも人的・経済的交流活動を実施する。

7 今後の展開における課題

・エミリア・ロマーニャ州政府と本県の動きとに文化的な違いがあり、イベント内容について直前での決定となることが多かったため、相手側との密な事前調整が必要となる。



ファエンツァでの工芸品の展示会



ファエンツァでの茶会及び折り紙体験



ファエンツァでの野口雨情コンサート

栃木県那須塩原市交流計画の進捗状況

自治体名	栃木県那須塩原市
相手国・地域	オーストリア共和国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的
那須塩原市は、豊かな自然と温泉、酪農を中心とした農業が盛んな地域であり、首都圏からのアクセスも良好なことから、観光地としても発展してきた。しかし、近年は全国的な傾向と同様に、少子高齢化や労働人口の減少が進み、地域経済の活力低下が懸念されている。また、国際化の進展に伴い、外国人住民との共生も重要な課題となっている。

那須塩原市は、大阪・関西万博を契機としたオーストリア共和国との国際交流を通じて、これらの課題を解決することを目指す。

イ 目標

- ・万博を契機に那須塩原市の魅力を国内外に発信し、地域活性化を図る。
- ・子どもたちの国際感覚を養い、多様性を尊重する心を育むことで、外国人住民との相互理解を深め、多文化共生社会の実現に貢献する。
- ・国際交流を通じて、次世代を担う子どもたちの夢や創造性を育み、将来の地域リーダーを育成する。
- ・ホストタウンレガシーを万博レガシーへ繋げる。

(2)ー1 事業内容

【那須塩原×オーストリア オンライン交流】

- ①令和6年4月～令和7年1月
- ②市担当課、塩原小中学校、東那須野中学校、共英小学校、西那須野キッズハウス(幼稚園)、ツルンドルフ校(オーストリア交流校)、クロイツシュヴェステルン実習幼稚園(オーストリア交流校)、オーストリアパラリンピック委員会
- ③令和6年5月31日、10月21日、12月2日、令和7年1月16日に、それぞれ、市内の幼稚園、小中学校とオーストリアの学校やパラアスリートをオンラインで繋いで英語での交流を行った。これらの取り組みは各種メディアに取り上げられた。
- ④オンライン交流は、児童・生徒の国際的な視野を広げ、パラアスリートとの交流は共生社会への理解を深めることに繋がった。また、オーストリア関係者が日本への関心を高めるきっかけになった。
- ⑤イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー2 事業内容

【在日オーストリア大使館表敬訪問】

- ①令和6年6月～11月
- ②市担当課、在日オーストリア大使館、オーストリア文化フォーラム東京
- ③那須塩原の市長と副市長が、それぞれ6月25日と11月27日に在日オーストリア大使館を訪問し、駐日オーストリア大使と面会した。万博に向けた意見交換を行うとともに、那須塩原市の「万博国際交流プログラム」への協力を依頼した。会談には、オーストリア文化フォーラム所長も参加した。
- ④首長自らが大使館を訪問したことで、市職員や市民の国際交流に取り組む意識が向上した。また、大使館との間で万博に関する情報交換や協力体制が構築された。
- ⑤ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

(2)ー3 事業内容

【中学生海外派遣研修】

- ①令和6年4月～10月
- ②那須塩原市中学生海外交流事業実行委員会、アウホフ校(オーストリア交流校)、在オーストリア日本国大使館、那須塩原市国際交流協会
- ③那須塩原市の中学生が、10月8日から17日にかけて海外派遣研修の一環としてウィーン市内とリンツ市内の各所を訪問し、国際交流を行いながら、現地の学生らと互いの文化や万博について意見交換を行った。
- ④研修に参加した生徒が学校を越えて経験を共有したことで、市内の学校や地域社会で国際交流への関心が高まった。海外の文化や生活に触れたことで、生徒の国際的な視野が大きく広がり、異文化理解やコミュニケーション能力の向上に繋がった。また、オーストリア関係者が日本への関心を高めるきっかけになった。
- ⑤イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー4 事業内容

【オーストリア創作料理レシピ開発】

- ①令和6年4月～12月
- ②市担当課、栃木県立那須拓陽高等学校、リンツ市エルムベルグ校(オーストリア交流校)、(株)八芳園
- ③11月15日、那須拓陽高等学校を会場に、那須拓陽高等学校の高校生がエルムベルグ校の高校生とオンラインで交流して考案したオーストリア創作料理の完成試食会を行った。これらの取り組みは各種メディアに取り上げられた。
- ④両国の学生が交流を行いながら両国の食文化を融合させた料理を開発し、万博出展を目指すこの取り組みは、両国の文化交流を促進するとともに、参加した学生や関係者の今後の国際交流や万博への期待を高めることにつながった。
- ⑤イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー5 事業内容

【オーストリア文化交流イベント「オーストリアの食と音楽のハーモニー」】

- ①令和6年5月～令和7年1月
- ②市担当課、那須マロニエホテル、在日オーストリア大使館、オーストリア文化フォーラム東京、オーストリア万博事務局
- ③1月18日に那須マロニエホテルで開催されたイベントでは、本市の高校生がリンツ市の高校生とオンラインで交流して考案したオーストリア創作料理が提供され、本市の市民、相手国の大使館関係者、相手国の万博関係者らが参加した。これらの取り組みは各種メディアに取り上げられた。
- ④地域住民が直接、オーストリアの文化や学生の国際交流の成果に触れたことで、市民の国際交流の理解促進と万博への意識向上、オーストリア関係者の日本文化への関心喚起や友好関係の促進につながった。
- ⑤ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

(2)ー6 事業内容

【万博出展記念プレ事業「那須塩原×リンツ」オンライン合唱発表会】

①令和7年1月～令和7年3月

②市担当課、那須塩原市内中学校、・アダルベルト・シュティフター校(オーストリア交流校)、在日オーストリア大使館、オーストリア文化フォーラム東京、オーストリア万博事務局、在オーストリア日本国大使館、2025年日本国際博覧会協会、内閣官房国際博覧会推進本部事務局

③3月2日にGUNEI三島ホール(ZOOMとのハイブリッド)で開催されたイベントで、大阪・関西万博に向けて練習を重ねてきた那須塩原市合唱団とリンツ市合唱団の合唱が披露され、本市の市民、両国の学生、両国の万博関係者、駐オーストリア日本国大使らが参加した。これらの取り組みは各種メディアに取り上げられた。

④音楽(合唱)を通じた両市の文化交流は、那須塩原市とリンツ市の魅力発信にとどまらず、関係者や参加者の国際交流や万博への意識向上に繋がった。また主体的に参加している子どもたちの国際感覚を養い、多様性を尊重する心を育むことにつながった。

⑤イ 万博参加国・地域の関係者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

- ・在日オーストリア大使館への表敬訪問、創作料理の共同開発、文化交流イベントなどがメディア報道やSNSで発信されたことにより、那須塩原市の認知度向上が図られた。
- ・中学生海外派遣研修やオンライン交流を通して、学生間の相互理解と多様性を尊重する心が育まれた。また、パラアスリートとの交流は共生社会への理解を深めることに繋がった。
- ・学生が主体的に参加することで、次世代を担う子どもたちの夢や創造性を育みことに繋がった。
- ・各事業において両国の地域住民や万博関係者と交流することができ、これまでのホストタウンとして実績と万博に関する情報を発信することで、万博への機運を高めるとともに、ホストタウンのレガシーを万博のレガシーへとつなげることができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- ・万博期間中に構築されたオーストリアや関係機関とのネットワークは、今後の交流の基盤となることを期待できる。
- ・食や音楽を通じた文化交流は市民レベルでの相互理解を促進し、万博で生まれた文化交流が地域へ定着することを後押しするとともに、継続していくことが期待される。
- ・オーストリアとの国際交流は、子どもたちの国際感覚を養い、地域の国際化を推進し、地域発展を支える人材を育成することに繋がる。
- ・万博で培われた交流事業を継続するなど、多様な文化に触れる機会を設けることで、ホストタウンレガシーや万博レガシーを継承していくことが期待できる。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

様々な国際交流の機会を市民に提供し地域の活性化を図るとともに、学生主体の事業は次世代育成に大きく貢献しており、積極的な情報発信と関係機関との連携により、市の認知度向上とイメージアップに繋がった。

●苦勞した点

関係機関の理解と連携強化、市民の主体的な参加を促すプログラムの構築が課題だった。また、言語や文化の壁に加え、オーストリアとの時差も大きな課題だった。

6 今後の展開

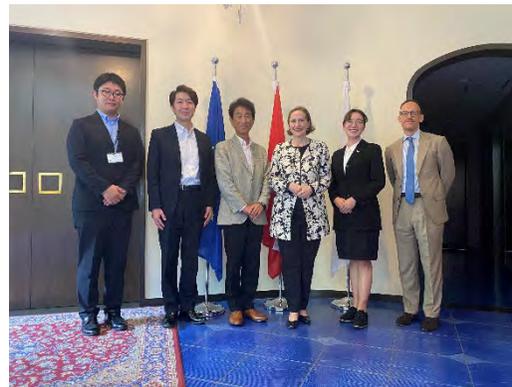
- ・万博で築いたネットワークを活かし、万博のレガシーを継承し、持続可能な交流を行うことを目指す。
- ・食や音楽に加え、芸術やスポーツなど多様な文化交流を行政主体ではなく、市民参加型、市民主催で展開することを目指す。
- ・多文化共生社会の実現に向けて外国人住民との交流を促進し、国際的な人材の育成を目指す。
- ・これらの交流の成果と那須塩原市の魅力を国内外へ発信し、地域活性化を図る。

7 今後の展開における課題

- ・持続可能な交流を進めるために、安定した財源の確保、語学力・国際感覚を持つ人材の育成、魅力的な交流プログラムが必要になる。
- ・多様で魅力的な交流プログラムは、市民参加を促すためにも必要になる。
- ・地域住民への情報共有と理解促進を図る必要がある。
- ・適宜、交流事業の効果を評価し、新たな交流の形を模索していく必要がある。



那須塩原×オーストリア オンライン交流



在日オーストリア大使館表敬訪問



中学生海外派遣研修



オーストリア創作料理レシピ開発



オーストリア創作料理レシピ開発



オーストリア創作料理レシピ開発



オーストリア文化交流イベント



オーストリア文化交流イベント



オーストリア文化交流イベント



オンライン合唱発表会



オンライン合唱発表会



オンライン合唱発表会

甘楽町交流計画の進捗状況

自治体名

群馬県甘楽町

相手国・地域

中国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

甘楽町は都心から約100kmに位置する、自然と歴史豊かな人口約12,000人の町である。2022年に策定した第6次総合計画において、地域の魅力を生かした共創のまちづくりを通じた「しあわせホームタウン甘楽」の実現を目指しており、万博を契機として、町民が多文化共生、国際交流に参加しやすい環境づくりを推進する。

イ 目標

甘楽町はイタリア国チェルタルド市との姉妹都市交流を40年以上、中華人民共和国ハルビン市との友好都市交流を30年以上続けている他、オリパラ東京2020大会でニカラグアのホストタウンとなったことを契機として、同国との交流も活発となっている。中国との交流計画を実施することにより、ハルビン市だけでなく中国の他都市・地域に対する町民の理解を促進する。

(2)ー1 事業内容

【中国ハルビン市へ甘楽町訪問団を派遣】

①スケジュール

2025年2月5日より2月9日まで

②体制

森平町長を団長とする甘楽町訪問団3名を中国ハルビン市に派遣

③内容

ハルビン市教育局を訪問し、万博に係る意見交換を行い、中国側関係者との交流を促進する。

④効果

中国側関係者との万博関連の情報を共有し、意見交換を行うことにより、イベントの企画・運営に関する検討を促進する機運を醸成した。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

(2)ー2 事業内容

【中国ハルビン市と甘楽町との相互訪問交流】

1. ハルビン市の甘楽町訪問

①スケジュール

7月26日より7月30日まで

②体制

ハルビン市教育局等5名、市内小学生16名、総勢21名からなる研修団が甘楽町を来訪

③内容

楽山園等の町内施設や中学校を訪問

④効果

異なる文化や歴史、習慣などを実際に体験することで、中国関係者の甘楽町及び日本に対する理解が深まった。また、甘楽町中学校での行事に参加し、子どもたち同士の相互理解の促進が図られた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者

2. 甘楽町のハルビン市訪問

①スケジュール

8月16日より8月23日まで

②体制

(公財)甘楽町国際交流振興協会2名、通訳1名、甘楽町役場職員1名、甘楽町中学生7名、総勢11名からなる交流団を中国ハルビン市に派遣

③内容

ハルビン市の博物館や小学校、幼稚園を訪問

④効果

異なる文化や歴史、習慣などを実際に体験することで、発展著しいハルビン、中国への理解が深まった。また、交流団から日本の文化を紹介し、相互理解の促進が図られた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

甘楽町町長をはじめとする役場や団体関係者、中学生が、中国ハルビン市教育局関係者や小学生と対面で交流し、また相互の歴史や文化に親しむことで、相互の理解が促進された。またこれら一連の取組が、令和7年度に開催される万博に向けての機運の醸成にも繋がった。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

中国ハルビン市と甘楽町とは30年以上の交流の歴史がある。日本にとって中国との関係は重要であるが、地政学的な変化など世界情勢が大きく変動する状況下においては、草の根レベルの国際交流を継続、強化していくことが二国間関係の発展にとって必要不可欠である。また甘楽町には、地方創生の担い手となっている中国籍の人たちも一定数居住しており、そうした外国人への理解を深める契機ともなった。今回の交流で、未来を担う子供たちを中心に、相互理解を深めることができたことは、大阪・関西万博が掲げるSDGsの達成への貢献や地方創生に大きく貢献があった。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

コロナの影響により一時期対面での交流が中止されていたが、令和6年度において対面での交流が実現できたことにより、参加者の相互理解が進んだことに加え、役場や関係者の交流事業継続に対するコミットメント、事業経験の蓄積にもプラスのインパクトがあった。

●苦勞した点

事前のスケジュールや参加者の調整やイベント内容の企画に関し、時間や労力を要した。

6 今後の展開

【甘楽町の産業・文化に関する交流】

①スケジュール

9月13日(土) 万博パビリオンを往訪

②体制

交流にあたっての企画・運営に関し、外注費の活用による委託を検討中

③内容

万博中国パビリオンにて甘楽町の産業振興等の関係者と中国側関係者との交流

④効果

イベント参加者間のネットワークの構築と広報を通じた町民の多文化共生、国際交流に関する認知度の向上を期待

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

※上記の他、学校給食で中国に関連した献立を提供し、広報などを通じて町民へ発信することを検討中

7 今後の展開における課題

万博会場滞在時間が限られる中での、効果・効率的な交流の企画が課題



森平町長とハルビン市教育局 何泉局長



ハルビン市小学生の甘楽中学校校訪問



甘楽町中学生のハルビン市小学校訪問

渋谷区交流計画の進捗状況

自治体名	渋谷区
相手国・地域	米国

(1) 背景と目標等

- ア 背景と目的**
渋谷区は、令和6年5月にアメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市と「姉妹都市提携に関する覚書」を締結している。今般の万博を契機に、相互の更なる交流、事業連携を進めて行く中で、スポーツ交流を通じて、アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市との人的・経済的・文化的な相互交流を図るとともに青少年の交流機会を創出することを目的としている。
- イ 目標**
スポーツ交流を通じて、渋谷区とホノルル市との国際的な交流を推進し、相互理解を深める。成熟した国際都市渋谷の実現に向けて「ダイバーシティとインクルージョン」という考え方の浸透を図る。

(2) 1 事業内容

- 【渋谷区とアメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市とのスポーツ国際交流プログラム】**
- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
令和6年5月の覚書締結後、6月にハワイ大学女子バスケットボール部による区内小学生対象のクリニックが行われた。その後、12月に渋谷区はホノルル市に親善訪問を行い、ホノルル市長の表敬訪問や学校訪問を行った。その訪問の中で、米国で流行している「ピックルボール」の体験交流を実施し、今後、渋谷区においても気軽にできるスポーツとして、ピックルボールの普及を図り、ホノルル市とのスポーツ交流を図ることとなった。令和7年1月に、交流事業の計画策定を行った。
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
交流事業の実施に向けて、ホノルル市、ハワイ州観光局日本支局及び一般財団法人ピックルボール日本連盟の事務局と連携し、万博を通じた交流事業の検討体制を整備した。また、万博期間中の交流について、助言を得るため、米国エキスポパートナーズとの意見交換を実施した。
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)
令和6年6月8日、渋谷区スポーツセンター、ハワイ大学女子バスケットボール部による区内小学生対象のクリニック、小学生60名参加(報道なし)
令和6年12月10日～14日、ホノルル市、ハワイ日本文化センター訪問、ホノルル市長表敬訪問、現地中学校訪問、ピックルボール体験、副区長、区議会議長含む区議、区職員、その他現地訪問先の関係者等(報道なし)
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
令和7年度よりピックルボールの普及、大会開催に向けて、具体的な事業計画を行い予算化した。区内で実施する大会の優勝者やホノルル市で開催されるピックルボール大会へ招待する計画となっており、区内でのピックルボールに対する関心が高まった。ホノルル市で開催される大会に渋谷区から派遣される選手等が参加できるよう調整が行われた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

「ピックルボール」というスポーツに焦点を絞ることによって、具体的な交流計画づくりにつながった。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博閉会後においても、ピックルボール等のスポーツを通じた、米国・ハワイ州ホノルル市と交流を継続し、成熟した国際都市渋谷の実現に向けて「ダイバーシティとインクルージョン」という考え方の浸透を図っていくとともに、万博のレガシー創造へ寄与する。

5 特に良かった点、苦労した点

●良かった点

渋谷区とホノルル市との間で姉妹都市提携を締結した際には、具体的なスポーツ交流の計画はなかったが、6月、12月のスポーツ交流・体験を経て、大阪・関西万博の開催や万博国際交流プログラムの事業があったことによって、米国・ハワイ州ホノルル市との交流を具体的に考え、実行していくことにつながった。

●苦労した点

当初、万博国際交流プログラムの申請を想定していなかったため、気が付いたときには申請期限が迫っており、準備に係るスケジュールがタイトだったこと。

6 今後の展開

万博開催中の交流プログラム等の実施に向けて、関係者や協力者と連携を図り、交流計画を推進していく。

7 今後の展開における課題

万博開催中の青少年の交流機会の創出に向けた、具体的な実施計画づくり。

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

新潟県では、今後8年間の計画期間において分野横断的に対応すべき6つの重要課題の1つとして「国際拠点化と戦略的な海外展開・交流促進」を掲げ、その中で、「海外との交流拡大、グローバル人材の育成、多文化共生の推進など、県民が世界をより身近に感じる環境づくりを促進する」としており、本交流はその取組の一環である。

県内における在留外国人数は、国・地域別ではベトナムが最も多く、就労者や留学生等のベトナムからの外国人材が増えている状況の中で、より深い相互理解の促進が求められている。また、県では令和5年にベトナムビンロン省及びタインホア省と交流協力に関する覚書を締結し、人材交流等を進めることとしている。

こうした中、万博という世界に向けて日本をアピールできる貴重な機会を活かし、多文化共生に対する本県の姿勢について広く発信することや、「にいがたベトナムフェスティバル(仮称)」を通じた、ベトナムの文化に触れ親しむ機会を提供することにより、国際理解の促進を図るとともに、県内在住のベトナムからの就労者等との交流を促し、多文化共生やベトナムとの交流の推進を図るものである。

イ 目標

「多様な人や文化が交わる賑わいのある新潟」の実現に向けて、本プログラムに取り組むことにより、新潟県における多文化共生やベトナムとの交流の推進へつなげる。

にいがたベトナムフェスティバルの開催(1回) 来場者数7,000人を目指す。(3,500人/日)

<参考>

- ・新潟春節祭2025/韓日ハンガウイ祭りin新潟2024 1,500名/1日のみ開催
- ・ベトナムフェス2024 in Nagaoka 4,000名/2日間開催
- ・ぐんまベトナム交流祭2025 7,000名/2日間開催

(2)ー1 事業内容

【ベトナム省市向けオンラインセミナー】

- ① 時 期: 令和7年3月21日(金) 15:30~17:00(ベトナム時間: 13:30~15:00)
- ② 参加者: ベトナム省市(ビンロン省、タインホア省、ハイフォン市、カントー市)の自治体関係者7名参加
- ③ 内 容:
 - ・大阪万博の意義(2025年日本国際博覧会協会職員による説明)
 - ・大阪・関西万博における新潟県関係の取組について
 - ・ベトナム交流イベントの説明(新潟県職員による説明)等
- ④ 効 果: 大阪・関西万博への訪問の促進、新潟県及びベトナム関係省市の双方における交流促進
- ⑤ 交流した交流相手の類型: イ、ウ

(2)ー2 事業内容

【ベトナム交流イベントの開催PR】(実施調整中)

- ① 時 期:ベトナムデー(9月9日)に実施
- ② 場 所:万博会場内
- ③ 参加者:万博来場者
- ④ 内 容:ベトナム人を含む県職員が、(2)ー3のベトナム交流イベントの開催に向けて、万博内で広報活動を実施する
- ⑤ 効 果:世界とつながることができる万博会場内にて、多文化共生に対する新潟県の姿勢を広くPRし、ベトナムとの交流の機運醸成を図る
- ⑥ 交流した交流相手の類型:ア

(2)ー3 事業内容

【ベトナム交流イベント「にいがたベトナムフェスティバル(仮称)」の開催】(実施調整中)

- ① 時 期:万博会期中または事後
- ② 場 所:新潟市内
- ③ 参加者:本県在住のベトナム人を含む県民等
- ④ 内 容:新潟市内でベトナム交流イベントを実施(ベトナム料理ブース出展等、ベトナム文化の紹介)を開催
- ⑤ 効 果:多文化共生の取組の一環として、県民とベトナム人等との交流機会を創出し、人的交流の拡大につなげる
- ⑥ 交流した交流相手の類型:イ

(2)ー4 事業内容

【ベトナム人によるベトナム交流イベントのSNS等での発信】(実施調整中)

- ① 時 期:万博会期後(令和7年12月頃予定)
- ② 内 容:ベトナム人等による、イベントの情報発信、新潟のPR
- ③ 効 果:「ベトナム交流イベント」を県内外(海外を含む)へ、SNS等を活用して情報を発信することで、新潟に対しての興味・関心を持ってもらい、将来の交流機会の創出へとつなげる。
- ④ 交流した交流相手の類型:イ

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

- ・ 県内在留外国人の増加に対応した多文化共生や国際理解の促進
- ・ 地域が取り組んでいる国際社会との交流を発信し、世界中から興味・関心を持ってもらうことによる人的交流の促進

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博開催を契機とした交流事業の発展・深化を努め、多文化共生の推進などの県民が世界をより身近に感じる環境づくりや、ベトナムとの人的交流を促進する。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

大阪・関西万博を契機にベトナム省市向けオンラインセミナーを開催したことで、「新潟とベトナムの交流推進事業」におけるキックオフとして、大阪・関西万博への訪問の促進等について直接訴求できたことに加え、当県関係の地方政府と今後の交流について意見交換を行い、交流を促進していく機運醸成を図る良い機会となった。

●苦勞した点

-

6 今後の展開

万博会期中・事後に開催予定の交流イベントに向けた準備や情報発信を着実にいき、新潟とベトナムの双方にメリットのある交流を促進する。

7 今後の展開における課題

- ・ ベトナムとの様々なネットワークを活用し、民間事業者とも連携を図りながら、交流の拡大につなげていく。



(2)ー1 ベトナム省市向けオンラインセミナー

石川県交流計画の進捗状況

自治体名	石川県
相手国・地域	韓国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

- ・2001年に「友好交流に関する合意書」を締結し、行政・産業・文化・スポーツなど各分野で交流の推進を図ることとした。
- ・2023年8月には、石川県知事が全北特別自治道(旧全羅北道)を訪問し、大阪・関西万博に向けて国際文化交流をさらに推進していくことを、道知事と合意した。
- ・万博という舞台への参加を通じて、これを一つの契機に、さらなる「文化交流の推進」を図ることを目的とするものである。

イ 目標

- ・行政・産業・文化・スポーツなど各分野で交流の推進を図ること。

(2) ー1 事業内容

【大阪・関西万博を見据えた国際文化交流推進事業】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

- ・2023年10月 「いしかわ国際交流フェスタ」において、全北特別自治道から文化団体(道立国楽院芸能団)を本県に招聘し、韓国の代表的な伝統芸能であるパン ソリや舞踊、音楽を披露していただいた。
- ・2024年8月 全北特別自治道で開催される、国際的な音楽芸術祭である「全州世界ソリ祭り」に、本県から文化団体の派遣を行う。
- ・2025年8月 全北特別自治道から文化団体を招聘し、万博会場内で本県の祭りの披露と合わせて公演してもらうほか、本県と道の文化団体のコラボを計画している。

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

石川県、韓国・全北特別自治道、両国文化団体など

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

日時 2024年8月14日(水)～18日(日)

場所 韓国・全北特別自治道

取組内容 全北特別自治道で開催された国際音楽祭「全州世界ソリ祭り」で、本県の文化を披露するため、中能登町の武部獅子舞保存会を派遣し、文化交流を実施した。

また、伝統工芸士の指導の下、金箔を小皿やハガキに貼り付ける体験会も開催し、韓国の現地の方々に石川の文化に触れる機会を提供した。

参加者 武部獅子舞保存会(28名)、金沢箔伝統工芸士(2名)

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

2025年大阪・関西万博を見据えて、石川県の友好交流地域である韓国・全北特別自治道において開催される「全州世界ソリ祭り」に、本県の文化団体を派遣し公演することで、本県文化への理解を深め、国際文化交流を推進した。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

万博という舞台への参加を通じて、これを一つの契機に、さらなる「文化交流の推進」を図ることを目的とするものである。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後の事業継続性や自治体の地方創生への寄与の状況

文化を通じた交流は、相手への尊敬や信頼を生み、互いへの理解を深めるものであり、こうした友好の輪が世界に広がれば、ひいては世界平和につながっていくと考えられるため、継続して国際文化交流に取り組んでいく。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

万博本番に向けて、韓国・全北特別自治道の担当者や文化団体と連携・交流を深めることができた。

●苦勞した点

韓国全北特別自治道との国際文化交流事業については、派遣団体の選定のため、会場や輸送物、リハーサル等の制約について聞き取りを行ったが、相手国との調整が難しく、準備期間がタイトな中で、実施することとなった。

6 今後の展開

大阪・関西万博において、石川県は、韓国との国際文化交流を盛り込んだ催事を検討している。

催事に訪れた世界各国の多くの来場者に、石川県や韓国の文化を発信するため、石川県と韓国・全北特別自治道の文化団体のコラボ公演や、互いの文化を紹介するブース出展を行う予定である。

7 今後の展開における課題

石川県と韓国・全北特別自治道の文化団体のコラボ公演について、事前の練習、内容の調整などをタイトなスケジュールで実施する必要がある。



武部獅子舞の単独公演



コラボ(天狗と全州旗折ノリ仮面)



金箔貼体験会

福井市交流計画の進捗状況

自治体名	福井市
相手国・地域	スロベニア共和国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

本市では、2021年の東京オリンピック・パラリンピックにおいてスロベニア共和国のホストタウンに登録されたことを契機とし、同国との交流を国際化推進施策の大きな柱の一つとして位置付け取組を進めてきた。今回、同国が大阪・関西万博に公式参加し、会場内でパビリオン出展やナショナルデーを開催することとなり、同国の魅力を直に感じることができる機会であることから、本プログラムを通じて関係機関と連携しながら取組をさらに推し進め、持続可能な友好関係の実現を図るとともに、市民間における相互理解の促進を目指す。

イ 目標

姉妹友好都市締結後の市民間での文化交流や、民間でのビジネス交流、観光交流など多方面での交流につなげるため、市民の興味関心を高め、互いのまちの相互理解や人的ネットワーク構築を図る。

(2) 1 事業内容

【事業名】スロベニア・クラン市代表団の来訪に関する市民交流の実施

令和6年4月1日～4月4日にスロベニア共和国クラン市長一行（市長夫人、副市長、市職員、クラン市企業代表夫妻）が、本市を来訪するのに合わせて市民団体等との交流会を実施した。

【体制】（交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制）

スロベニア・クラン市長等の代表団の日程調整をクラン市 市長室長 モイツァ・フィンツ氏と実施。福井市内での訪問・視察先や交流先との調整を福井市が行った。

【内容】

日時：令和6年4月3日（水）

■交流①：市民団体との交流

場所：福井県国際交流会館 多目的ホール

取組内容：福井市少年少女合唱団は童謡「ふるさと」などの合唱を披露。清明国際交流クラブが、外国人との交流など、これまでの活動を英語で紹介し代表団のメンバーに書道を体験してもらうなど日本文化に触れてもらった。

■交流②：市内中学生との交流

場所：明道中学校

取組内容：令和5年度から開始したクラン市と交流の取組について生徒が英語で発表した後、合唱を披露した。

【効果】

市長をはじめ、各分野の代表者との面会を通じてクラン市との信頼関係の構築を図ることができ、交流の担い手となりうる学校や団体を紹介し、市民レベルでの交流推進を図ることができた。

教育・文化交流と併せて、市内及び県内の主要な観光文化施設等を紹介し、本市の魅力をPRすることで、クラン市をはじめ、スロベニアにおける本市の知名度向上と将来的な観光誘客（インバウンド獲得）につなげる機会となった。



書道を体験する代表団メンバー



明道中学校での交流の様子

【当該事業において交流した交流相手の類型】 イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー2 事業内容

【事業名】市内小中高校生とスロベニアの学校との交流事業

クラン市をはじめとしたスロベニア共和国の各都市のこどもたちと、オンライン交流や手紙・ビデオレターの交換などによる学校間交流を行った。

【取組①：明道中学校とコチェウイェ市オブ・リンジ小学校のオンライン交流】

- ・令和5年度からコチェウイェ市オブ・リンジ小学校と交流している明道中学校の生徒が、令和6年4月26日にオンラインで2回目の交流を実施。
- ・オブ・リンジ校の生徒らは、スロベニアの劇を日本語とスロベニア語を使って披露したほか、日本語とスロベニア語が書かれた自作のフリップを使い、明道中学校の生徒にスロベニア語を教えるなどして交流を図った。
- ・明道中学校の生徒は、英語と日本語が書かれた自作のフリップを使って、スロベニアの生徒が疑問に思っている内容を想定して、質疑応答を行った。
- ・交流の最後に、明道中学校の生徒が日本で流行しているアニメ主題歌の振り付けを踊り、スロベニアの生徒らに振り付けを教えるなどして交流を深めた。

【取組②：福井商業高校とフランツェ・プレシェーレン高校との交流】

- ・令和6年6月10日、福井商業高校3年生3名と2年生6名の有志が相手校生徒13人に向けて学校紹介を行った。同月20日には第2回目が行われ、相手校からクラン市と福井市の類似点などがプレゼンテーションされた。
- ・スロベニアの新学期となる9月に第3回目、11月に第4回目を行い、生徒同士がオンラインにて交流を楽しんだ。
- ・11月6日には、福井商業高校の生徒は、本市ゆかりの詩人「橘曙覧」の作品を英語で紹介したほか、書道部員が書道のライブ配信を行うなど、福井や日本の文化を紹介。クラン市の高校生は、スロベニアの伝統文化の紹介を行った。

【取組③：ヤコブ・アルジャジャ校との美術交流】

令和7年1月18日、ヤコブ・アルジャジャ校 校長より、ダダ・美術コンテストの招待状を受領し、「深海」をテーマとしたA3サイズの絵画作品の出品及び市内各学校への共有依頼を受け、別の作品展で展示した作品の中からテーマに沿う作品を選びエキシビジョン（選考外作品）として絵画データを12点提供。加えて、ヨーロッパにおいて書道作品が「カリグラフィー」として高く評価を受けていることから、書道作品6品を出品した。

【効果】

学校間での交流では、英語学習の実践の場となるとともに、オンラインによる交流を行うことで、他国の児童生徒とリアルタイムでの異文化交流を行うことができ、児童生徒の異文化理解を図る貴重な機会となっている。

【当該事業において交流した交流相手の類型】 イ 万博参加国・地域の関係者



福井商業高校とフランツェ・プレシェーレン校とのオンライン交流の様子



明道中の生徒が質疑応答を行う様子



オブ・リンジ校の生徒が、スロベニア語を教える様子

(2)―3 事業内容

【事業名】福井市行政調査団 スロベニア共和国・クラン市訪問

2025年の姉妹都市締結を目指し、教育、観光、経済、文化、行政の各分野での交流進展の可能性を探るべく、主要施設の視察や関係者と面談・意見交換を行った。

【内容】

日程：令和6年6月30日～7月6日

訪問者：福井市長、福井市議会議員ほか 計7名

- ・クラン市役所において両市長が姉妹都市締結に向けた意向表明書に署名。
- ・学校や図書館、観光地などを視察し、福井市内の小学校とビデオレターなどで交流する現地の小中学校では、こどもたちだけでなく教師間の交流を含めた教育交流に向けて意見交換を行った。
- ・起業家支援の充実したプログラムを行う施設を訪問したり、同市の観光文化局で観光PRについて意見交換をしたりするなど、今後の具体的な交流事業について考えを深めた。

【効果】

現地での視察・交流を通して、姉妹都市締結に向けた両国の関係性の構築や締結後の交流事業についてより具体的に検討することができた。また、この取組を地元紙に報じてもらうことにより、本市とクラン市の交流進展について、広く市民に周知することとなった。

【当該事業において交流した交流相手の類型】 イ 万博参加国・地域の関係者



ギムナジウム(フランツェ・プレシェーレン校)訪問の様子



クラン市重要施策プレゼンテーション出席の様子



クラン音楽学校訪問の様子

(2)ー4 事業内容

【事業名】国際博覧会協会職員による小学生を対象とした出前授業

本市から博覧会協会へ派遣している職員を講師に、市内の小学校において万博の開催内容や万博での本市の取組、スロベニア共和国との交流についてを紹介する出前講座を企画し、開催を希望した学校で実施した。

【内容】

日時:令和7年1月29日(水) 13時15分～14時00分 (5限目)

場所:大安寺小学校 3階 多目的ホール

参加者:4年生 10人、5年生 8人

- ・令和7年4月から開催される万博について、開催の目的から、歴史、今回の万博の見どころ等を博覧会協会の職員から児童に対して説明した。
- ・万博への福井県・福井市の関わりとして、インバウンド誘客につなげる取組を紹介し、会期中の出展内容や、本市が交流を行うスロベニア共和国の出展についても紹介した。
- ・スペシャルゲストとして大阪・関西万博公式キャラクター「ミャクミャク」が来場し、ボールペンやパンフレット等のノベルティをプレゼントし、記念撮影を行った。
- ・地元新聞紙(福井新聞)やテレビ局(福井放送)から取材を受け、当日の様子を報じてもらった。

【効果】

万博をよく知らない児童が多く、児童から「開催都市はどのように決めるのか」「ミャクミャクは何でできているのか」など多くの質問を受けたほか、「珍しい展示品や建物があることを知り、実際に行ってみたくなった」との感想が聞かれるなど、万博への興味・関心を高め、機運醸成につなげることができた。

【当該事業において交流した交流相手の類型】 ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者



万博の歴史について説明



児童からの質疑応答



ミャクミャクを囲んで記念撮影

(2)ー5 事業内容

【事業名】スロベニア交流推進イベント「スロベニアを感じて～FEEL SLOVENIA～」の開催

福井市民がクラン市に親しみを持てるよう、文化、教育、音楽の分野に絞ってクラン市を紹介した。

【内容】

日時：令和7年3月8日（土） 13時15分～15時30分

場所：福井県国際交流会館 地下1階 多目的ホール

参加者：一般市民 200人、スロベニア在住日本人ガイド 中島千夏氏(オンライン参加)、シンガーソングライター ヒナタカコ氏、福井市少年少女合唱団、福井市国際文化交流大使 タデイ・ラスロ氏(スロベニア出身)

取組内容：

- ・ステージイベントとして、スロベニア在住日本人旅行ガイドの中島千夏さんがクラン市を案内する「バーチャルツアー」映像を上映。現地の中島さんとオンラインでつなぎ、来場者と質疑応答を行った。
- ・東京オリンピック開催時からホストタウンスロベニアと縁のあるヒナタカコさんや福井市少年少女合唱団による音楽ステージを開催。ヒナタカコさんは、共生ホストタウンのテーマソング制作にあたり、パラ水泳に励む中学生への取材や当時の駐日スロベニア大使との対談を行った話を交えながら、クラン市との姉妹都市提携に向けたメッセージを来場者に向けた発信した。
- ・会場内では、ヤコブ・アルジャジャ校との美術交流作品や令和6年7月の福井市行政調査団がスロベニア訪問時に撮影した写真を展示し、スロベニアとの交流について紹介した。
- ・また、イベント終了後には、交流推進イベントで来場者がクラン市民宛てに記載したメッセージを冊子にして取りまとめ、クラン市に向けて送付した。

【効果】

ホストタウン交流に関わった方を起用しこれまでの取組を市民に発信するとともに、今後の交流進展に向け、映像や音楽など市民に親しみやすい形でスロベニアやクラン市の認知度向上を図った結果、幅広い年代に対してスロベニア及びクラン市を周知し、姉妹都市協定締結への機運を高揚できた。

【当該事業において交流した交流相手の類型】 イ 万博参加国・地域の関係者



クラン市バーチャルツアーの様子



ヒナタカコさんミニライブ&トークの様子



スロベニアの象徴とされる「リンデンの木」のメッセージボード。来場者によって書かれたクラン市へのメッセージの「花」付箋で満開に

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

2025年の姉妹都市締結実現に向け、令和6年度はスロベニア側からの訪問団受け入れや、福井市からの行政調査団の現地訪問による相互派遣を実施。市民団体や経済団体等の交流を行うことにより、行政や経済だけでなく、教育や観光等、多方面での人的ネットワークの構築を図ることができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後の事業継続性や自治体の地方創生への寄与の状況

東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン登録から続く交流の節目として、大阪・関西万博におけるスロベニアナショナルデー前後での姉妹都市協定締結に向け、関係機関と連携して事業を進めており、締結後は行政主導の国際交流だけではなく、企業や学校間、市民レベルでの観光、経済、教育、スポーツ振興など多方面において自発的・継続的な交流が期待できる。また、海外からの訪問者の増加など交流人口の拡大も見込まれ、地域活性化につながる。

5 特に良かった点、苦労した点

- **良かった点**: 市民に異文化交流の機会が増えたことで、教育や文化活動などの現場で意気軒高な姿勢が見られ、地域活性化につながっている。
- **苦労した点**: 社会制度や教育システム、文化的な相違や時差などにより、コミュニケーションが滞ることがあり、計画的に業務を行うことが難しい。

6 今後の展開

学校間での交流をはじめとした市民レベルでの交流促進に向けた取り組みを継続するほか、クラン市側との協議を重ねながら、2025年に姉妹都市締結の実現を目指す。

7 今後の展開における課題

市民による自発的で継続的な交流を促すため、スロベニアとの交流人口の拡大や、クラン市の認知度向上と市民への機運醸成が課題である。

山梨県交流計画の進捗状況

自治体名	山梨県
相手国・地域	米国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

山梨県では富士五湖地域を国際交流やアート交流の場として観光地からリゾート地へ転換する「富士五湖自然首都圏構想」に取り組んでおります。「グローバル社会においては、「アートが共通言語である」「若い世代こそが、人類の希望である」の考えの基に豊かな国際感覚を持つ若者の育成につなげることを目的とします。

イ 目標

社会課題をテーマにしたアートの製作を通じ、多くの若者が社会への課題認識を持ち、国際的なコンペティションに参加することで、アートによる国際交流を図ることを目標とします。

(2) 1 事業内容

【Fuji-California Young Artists Expoおよび学生アート交流カリフォルニア派遣事業】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

～5/15 (Fuji-California Young Artists Expoの募集)

～5/20 (学生アート交流カリフォルニア派遣事業の募集)

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

主催: California Sister Cities 共催: 山梨県/静岡県/富士五湖自然首都圏フォーラム/21世紀アカデミア/Anaheim University

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

Fuji-California Young Artists Expoおよび学生アート交流カリフォルニア派遣事業へのチラシ及びポスターの配布による参加者募集

3/24～

山梨県内 85校(大学コンソーシアム:1、大学・専門学校:31、公立高校:42、私立高校:11)

静岡県内 264校(大学・短大33、専門学校96、高校135)

ポスター3,000部(10部×3種×各校)、チラシ9,000部(30部×3種×各校)を配布し、参加募集の周知 ※紙媒体だけでなく電子メールによる学生への周知も実施

山梨県HPにより広報

※事業概要(今後の予定)

5/15Fuji-California Young Artists Expo応募締切、5/20学生アート交流カリフォルニア派遣事業締切、

7月受賞者Fuji-California Young Artists Ambassador(6名)決定、8月・10月説明会、11月カリフォルニア渡航

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

本事業では、カリフォルニア州(California Sister Cities)との連携により世界100ヶ国、2,000作品の応募を見込んでいる。山梨県、静岡県の両県の300を超える学校の学生に対し、世界に向けて作品を発表する機会を提供。今後、対象学生のカリフォルニア州への派遣により、アートを通じた更なる交流が見込まれる。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

「グローバル社会においては、「アートが共通言語である」「若い世代こそが、人類の希望である」の考えに基づき、多くの学生が参加することが期待される山梨県と静岡県の学生を対象にしたカリフォルニア州派遣事業を実施したことで事業の深みが増し、学生の興味を得ることが期待される

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

若者がアートによる社会課題を表現する国際コンペに参加することで、言語の壁を越えた国際交流につながる大阪・関西万博を契機としたカリフォルニア州への派遣事業を実施することで、国際感覚を持つ若者が育つことが期待される

5 特に良かった点、苦労した点

- 良かった点
 - 富士五湖自然首都圏フォーラムに加盟した静岡県と連携したことで、富士山を中心とした地域全体で国際的なアート事業に取り組むことにつながった
- 苦労した点
 - 静岡県の対象校は山梨県の約3倍もあるためチラシやポスターの送付が手間取った

6 今後の展開

- ・アート作品の製作
- ・Fuji-California Young Artists Expoに応募（5/15まで）
- ・学生アート交流カリフォルニア州派遣事業に応募（5/20まで）
- ・Fuji-California Young Artists Ambassadorの決定（6名）
- ・渡航前研修会(8月予定)、渡航前説明会(10月予定) ※万博の理念等を学んでいただく機会を設ける
- ・カリフォルニア州へ派遣（11/21～25予定）

7 今後の展開における課題

応募数や作品内容に応じた受賞作品を選定する必要がある
カリフォルニア州での交流事業の内容を整理し、実りある交流体験を提供することが求められる



Fuji-California Young Artists Expo チラシ



Fuji-California Young Artists Expo (言霊プレゼンテーション) チラシ



学生アート交流カリフォルニア州派遣事業 チラシ

駒ヶ根市交流計画の進捗状況

自治体名	長野県駒ヶ根市
相手国・地域	ネパール

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

当市は、全国で2つしかないJICA青年海外協力隊の訓練所や青年海外協力協会JOCA本部があるまちとして、長い年月をかけて国際交流の取組を進めているが、今後ネパール国やポカラ市の文化をより身近に感じることで、さらに国際交流・国際協力のまちづくりを市民に広く浸透させる。(DEEPネパール、DEEPポカラ) また、駒ヶ根文化をネパールへ発信する。

イ 目標

国際理解の促進や草の根レベルでの国際交流の発展、また駒ヶ根の文化がネパールで認知され、今後のインバウンド需要が期待される。

(2)ー1 事業内容

【ネパール文化講座】

- ①2024.6 講師との調整、2024.7～参加者募集
- ②駒ヶ根市役所総務部企画振興課
- ③地域在住のネパール関係者によるネパール文化・語学を学ぶ全4回の講座(参加者5名)
 - 1回目(8/21・赤穂公民館)ネパール隊員OBの大学助教によるネパールの食文化の紹介
 - 2回目(8/28・赤穂公民館)ネパール隊員OBで元JICA職員によるネパール文化やネパールにおけるJICA事業の紹介
 - 3・4回目(9/4、11・赤穂公民館)ネパール隊員OBで元訓練所ネパール語講師によるネパール語講座
- ④実際に現地で生活・活動されてきた方の話を聞き、ネパールの文化をより身近に感じてもらうことができた。
- ⑤イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー2 事業内容

【ネパール・ポカラ市訪問団受入事業】

- ①2024.3～ポカラ市より訪問の意向を受け訪問先等の調整
- ②駒ヶ根市役所総務部企画振興課、ネパール交流市民の会、ポカラ市
- ③2024.9.4～10にポカラ市の議員や職員などによる訪問団9名を受け入れ、市民との民際交流会、市内高校を訪問して生徒と交流、観光事業者との懇談、市内視察などを行った。民際交流会は小学生から高齢者まで約100名が参加し、訪問団に日本文化を体験してもらいながら交流を行った。
- ④コロナ禍で中断していた顔の見える交流が再開し、改めて駒ヶ根・ポカラの友好の絆を両市民の皆さんに広く知ってもらうことができた。
- ⑤イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー3 事業内容

【使って覚えるネパール語講座】

- ①2024.11 講師及び交流先との調整、2025.1～参加者募集
- ②駒ヶ根市役所総務部企画振興課
- ③青年海外協力隊訓練所の元ネパール語講師による語学講座とネパール関係者との交流をセットにした全4回の講座(参加者10名)
 - 1回目(2/5・赤穂公民館) 語学講座+ネパールの日本語学校とオンライン交流
 - 2回目(2/12・JICA駒ヶ根) 語学講座+ネパール派遣予定の協力隊訓練生と交流
 - 3回目(2/15・赤穂公民館) 語学講座+駐日ネパール大使と交流
 - 4回目(2/19・市内ネパール料理店) 語学講座+ネパール料理を食べながら講師と参加者同士で交流
- ④語学講座に加えネパール関係者との交流を行ったことで、ネパールをより身近に感じてもらうことができた。また、駐日大使や訓練所との繋がりなど、当市のこれまでの国際交流の取り組みを活かした事業とすることができた。
- ⑤イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

- ・文化や語学の講座を通じて、ネパールへの理解を深め興味・関心を高めてもらうことができ、長年取り組んできた国際交流の取り組みを深化させることができた。
- ・習字、着物、抹茶、折り紙などの日本文化をポカラ市の皆さんに体験してもらい、ネパールに向けて日本文化を発信できた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後の事業継続性や自治体の地方創生への寄与の状況

- ・ネパールやポカラ市との国際交流の取り組みはコロナ禍で一時中断せざるを得ない状況であったが、本プログラムにより駒ヶ根・ポカラの変わらぬ友好の絆を市民の皆さんに広く知ってもらうことができた。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

講座では駐日ネパール大使や地域のネパール関係者にご協力いただくなど、これまでの取り組みを活かした当市らしい内容となった。

●苦勞した点

事業の周知・広報。

6 今後の展開

- ・令和6年度のポカラ市からの訪問を受け、令和7年度には駒ヶ根市長を団長とした代表団がポカラ市を訪問予定。
- ・市内の中高生等20名程度を対象に、事前にネパールに関する文化講座等を行った上で実際にバビリオンを訪れ交流イベントを開催する。

7 今後の展開における課題

- ・ネパールバビリオンの開館時期が未定となっており、万博会場での交流事業の実施が不透明な状況となっている。



ネパール語とともに文化を学ぶ



ポカラ市訪問団と市民による民際交流会



学んだネパール語を使って駐日大使と交流

宮田村交流計画の進捗状況

自治体名	長野県宮田村
相手国・地域	韓国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

宮田村は令和7年4月1日時点で、総人口は8,739人、うち男性は4,286人、女性は4,453人です。65歳以上人口が28.3%を占めており、高齢化が進んでいる。産業構造としては、農業が中心で、特に米作において「宮田方式」と呼ばれる独自の農業技術が特徴です。この方式は、機械化一貫体系による稲作を担う集団耕作組合と、農地利用委員会が連携し、地域の農業振興を推進しております。地理的要因は中央アルプスとその麓、南アルプスに囲まれた、自然豊かな地域であること、そして市街地を中心に半径2km内に集住するコンパクトビレッジであります。社会課題として人口減少、高齢化、空き家問題、就労人口の減少などが挙げられます。特に、高齢化と人口減少は深刻で、社会保障費の増加や医療、福祉サービスの供給体制への影響が懸念されています。これらを踏まえ、万博で利用している「RemoteVoice®(自動翻訳システム)」を活用し、より国際感覚を身に付けてほしい思いもあり活用した経過があります。

イ 目標

上記を踏まえ、今後の交流計画でより多くの生徒を本国際交流事業により訪韓させる事を目的としたいと考えております。

(2) 1 事業内容

【中学生海外派遣事業】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過):

令和6年度は12月25日～28日の3泊4日で訪韓サンミョン中学校と交流、1月15日～16日で宮田中学校で交流及び受入を実施。

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

宮田村 : 宮田村立宮田中学校、宮田村教育委員会及び産業振興推進室

ソウル市 : 大韓民国ソウル市サンミョン中学校

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

上記①②に加え、事前学習を実施し万博の学習を行った。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

村民への報告会を実施するなど、生徒から村内への情報発信をすることで本事業への関心を高めている他、毎年多くの生徒が本交流事業に大変興味を持ってきている。

また、交流後も双方の生徒同士でSNSによる交流を継続させている。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

(2) 2 事業内容

【中学生海外派遣事業】…事前学習にて大阪・関西万博に関して勉強会を実施予定

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

新たに双方でICT環境を活用し、リモートで交流を実施及び計画し、より本事業を充実させる

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後の事業継続性や自治体の地方創生への寄与の状況

交流が継続できるよう閉会後も学習や報告会を継続し、派遣団を毎年募集し、取り組みを続けていく

5 特に良かった点、苦労した点

- 良かった点:派遣団員が他国の文化や歴史、をより深く学ぶことができたこと、ホームステイ先など新たな出会いができたこと、本交流を終えて改めて宮田村の良さに気づいたこと
- 苦労した点:英語の発音が良くて、聞き取るのが難しい点や話してもなかなかうまく伝わらない点な、また文化の違いで浴室の利用方法に困惑した点や日本とお金の単位が違う事から理解に苦しむ点があったこと

6 今後の展開

本事業の中で新たに韓国の企業訪問などキャリア教育も含めたと取り組みができるよう計画をしていく、また、訪問予定に関して確認を進めているが現状は思うように進んでいない。

7 今後の展開における課題

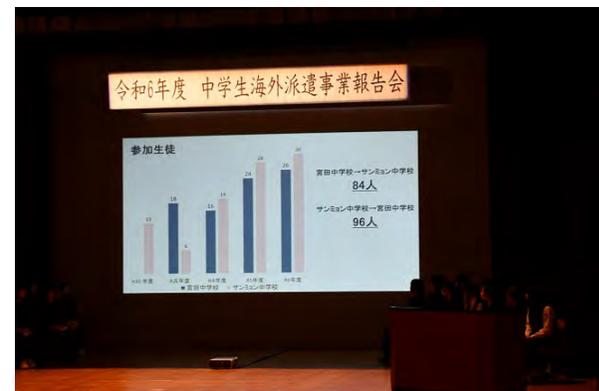
訪韓先の企業とのつながりが持てるかが課題となりますがインバウンド事業に取り組んでいる状況等を考え、今後に活かしていきたいと考えております。



12月26日開催：サンミョン中学校にて



12月26日開催：サンミョン中学校にて



3月2日開催：事業報告会

岐阜県交流計画の進捗状況

自治体名	岐阜県
相手国・地域	フランス

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

- ・本県は、フランス・アルザス欧州自治体と友好交流に関する覚書を交わし、スポーツや観光、食、青少年育成などの交流を進めている。
- ・本県は、数多くの温泉や豊かな自然環境といった地域資源を有しており、人口減少が進行する中、こうした地域資源を活用し、交流人口の拡大や地域の活性化を図る必要がある。
- ・このため、ガストロノミー・ウォーキングの本場であるフランス・アルザス地域と連携し、食、自然、温泉、伝統、文化等を一体的に体験する「ONSEN・ガストロノミーウォーキング」を実施することで、地域の魅力の発掘・発信、誘客、交流の深化を図る。

イ 目標

- ・フランス・アルザス欧州自治体関係者等を招き、ONSEN・ガストロノミーウォーキングをはじめとする交流事業を実施することで、地元の住民や子ども達による国際交流、県内外からの誘客、地域の魅力の発掘・発信を図る。

(2)ー1 事業内容

【事業名】ONSEN・ガストロミーウォーキングin飛騨高山

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

R6.4.5 万博国際交流プログラム 交流計画 第1次登録

以降 アルザス関係者、地元関係者と調整

R6.8.8 ONSEN・ガストロミーウォーキングin飛騨高山 参加者募集開始(知事記者会見)

R6.10.16 ONSEN・ガストロミーウォーキングin飛騨高山 開催

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

岐阜県側は、環境生活部環境生活政策課及び観光国際部国際交流課が高山市、白川村、(一社)飛騨・高山観光コンベンション協会等の協力を得て交流事業を実施(主催:岐阜県)。

フランス・アルザス側は、アルザス・欧州日本学研究所(CEEJA)が窓口となり、フランス・アルザス欧州自治体、コルマル市、アルザスワイン委員会(CIVA)等の参加・交流を調整。

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

日時、場所

R6.10.16 岐阜県高山市古い町並周辺

取組内容

ONSEN・ガストロミーウォーキングin飛騨高山を開催

地元の食、自然、温泉、伝統、文化等に加え、フランス・アルザスの食文化、観光等を発信・PR

参加者

アルザス・欧州自治体副議長(コルマル市長)、アルザス・欧州日本学研究所長(元フランス共和国文化・通信大臣)、国会議員(オ＝ラン県選出)、

アルザス・ワイン委員会会長、アルザス・ワイン委員会CEO、アルザス・欧州日本学研究所ディレクター、アルザス・欧州日本学研究所日本代表

岐阜県知事、岐阜県議会副議長、高山市長、高山市議会議長、白川村長、(一社)岐阜県観光連盟副会長兼(一社)飛騨・高山観光コンベンション協会会長
一般参加者128名

報道発表

R6.8.8 プレスリリース(知事記者会見)

R6.10.19 中日新聞朝刊県内総合欄に記事掲載等

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

- ・地域の食、自然、温泉、伝統、文化等の魅力を発掘し、これらを一体的に体験する周遊コースとして設定
- ・地元住民の他、北海道、首都圏、大阪、福岡など全国の参加者に対し、地域の魅力を発信
- ・地元住民、子ども達との交流をはじめ、フランス・アルザスとの交流の深化

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー2 事業内容

【事業名】大垣南高校 フェンシングクラブ視察

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
～R6.9:学校及びアルザスとの調整、R6.10:視察
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
主催:岐阜県、協力:大垣南高校
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)
R6.10.14 大垣南高校で練習の様子を視察(大垣南高校フェンシングクラブ生徒25名参加。プレスリリースなし)
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
県内生徒及び指導者がアルザス関係者と交流し、岐阜県とアルザスとの交流について理解を深めた
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー3 事業内容

【事業名】斐太高校剣道クラブ視察

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
～R6.9:学校及びアルザスとの調整、R6.10:視察
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
主催:岐阜県、協力:斐太高校
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)
R6.10.15 斐太高校で練習の様子を視察(斐太高校生徒12名参加。プレスリリースなし)
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
県内生徒及び指導者がアルザス関係者と交流し、岐阜県とアルザスとの交流について理解を深めた
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

・地域の食、自然、温泉、伝統、文化等を一体的に体験する「ONSEN・ガストロノミーウォーキング」や県内高校の部活動の視察などの交流事業を通じて、新たな切り口での地域の魅力の発掘・発信、150名以上の誘客、地元住民、地元高校生及び部活動指導者等の参加や対話を通じた交流の深化を図ることができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

・県内各地における地域の食、自然、温泉、伝統、文化等を一体的に体験する「ONSEN・ガストロノミーウォーキング」の継続的实施を通じた地域の魅力の増進、活性化の推進

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

ONSEN・ガストロノミーウォーキングをはじめとした交流事業を通じて、新たな切り口での地域の魅力の発掘・発信、150名以上の誘客、地元住民、子ども達の参加や対話を通じた交流の深化を図ることができたこと。

●苦勞した点

特に無し

6 今後の展開

・万博会期中の取り組みとして、アルザス関係者の参加を募り、「全国都市緑化ぎふフェア」の開催にあわせ、奥飛驒ビジターセンター周辺にてONSEN・ガストロノミーウォーキングを開催(R7.5.24予定)
・万博会期後においても、継続的に交流を実施

7 今後の展開における課題

・本県とアルザス欧州自治体、高山市とコルマル市、白川村とリクヴィル村のほか、飛騨の地酒とアルザスワインなど民間レベルを含め、重層的な交流を継続することが課題と認識している。



ONSEN・ガストロノミーウォーキングin飛騨高山

岐阜県交流計画の進捗状況

自治体名	岐阜県
相手国・地域	ポーランド

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

本県では、世界に開かれた岐阜県づくり・誇りの持てるふるさとづくりを目指していくため、各国・地域との交流を進めている。

ポーランド・シロンスク県との交流は、東京オリンピック2020競技大会の事前合宿を契機に、2024年に「岐阜県とシロンスク県の協力と友好関係の発展に関する覚書」に調印し、交流を進めてきた。万博のポーランドパビリオンにおいては、シロンスク県が「シロンスク・ウィーク」を開催予定であるほか、本県と交流のある「ポーランド国立民族合唱舞踊団『シロンスク』」がパフォーマンスを披露する予定。この機を捉え、シロンスク県との交流事業を実施することにより、一層の交流の深化と、国内外における両県の認知度の向上を図る。

イ 目標

ポーランド(シロンスク県)の歴史・文化を広く紹介することを通じた県民の国際理解並びに「2025年大阪・関西万博」に向けた機運醸成。

(2) 1 事業内容

【事業名】ポーランド国立民族合唱舞踊団「シロンスク」公演・ワークショップ開催(10月)

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

～R6.3: 来岐・出演に向けての意向確認、日程・会場調整、 R6.3～10: 来岐・公演に向けた準備・調整、 R6.10: 公演・ワークショップ開催

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

主催: 岐阜県、ポーランド国立民族合唱舞踊団「シロンスク」

協力: ポーランド・シロンスク県、ポーランド政府文化・国家遺産省 後援: 恵那市、恵那市教育委員会、岐阜県ポーランド交流協会

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

・公演 1) 恵那公演 令和6年10月10日(木) 18:00～19:20(開場17:30)

場 所 恵那文化センター(岐阜県恵那市) 合唱舞踊団約60名、観客 667名

内 容 「林檎の花咲く国ポーランド」と題した公演で、合唱及びポーランド舞踊を披露

2) 岐阜公演 令和6年10月11日(金) 18:00～19:20(開場17:30)

場 所 サラマンカホール(岐阜県岐阜市) 合唱舞踊団約60名、観客 425名

内 容 「林檎の花咲く国ポーランド」と題した公演で、合唱及びポーランド舞踊を披露

3) 「清流の国ぎふ文化祭」2024開会式への出演 令和6年10月14日(月・祝)

場 所 岐阜メモリアルセンターで愛ドーム 来場者 4,689名

内 容 出演者として、合唱及びポーランド舞踊を披露

・ポーランド舞踊ワークショップ

1) 恵那 令和6年10月10日(木) 9:00～10:00

場 所: 恵那文化センター(岐阜県恵那市) 参加者: 恵那市立長島小学校5年生 約70名

2) 岐阜 令和6年10月11日(金) 11:45～12:45

場 所: 県立加納高等学校(岐阜県岐阜市) 参加者: 加納高等学校音楽科生徒 約50名

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

・公演では多くの観客が観覧するとともに、県内生徒・児童がポーランド舞踊について学び、岐阜県とシロンスク県との交流について理解を深めた

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

(2)ー2 事業内容

【事業名】シロンスク県写真パネル展開催

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
～R6.5:会場調整 R6.9 パネル搬入
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
主催:岐阜県、協力:恵那市、ポーランド・シロンスク県
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)
R6.9.10～10.9 恵那市役所ロビーにてパネル展開催(フリースペースのため観覧者数集計なし。プレスリリース済み)
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
 - ・住民にシロンスク県と岐阜県との交流についての認知度を高めることができた。
 - ・公演の観覧者受付と期間を連動させることで、観覧者募集に対する相乗効果を図ることができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

(2)ー3 事業内容

【事業名】ポーランド国立民族合唱舞踊団「シロンスク」公演・ワークショップ開催(3月)

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
～R6.3:日程・会場調整、R6.11～R7.3:来岐・公演に向けた準備・調整、R7.3:公演・ワークショップ開催
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
主催:ポーランド国立民族合唱舞踊団「シロンスク」 協力:岐阜県、後援:駐日ポーランド共和国大使館、ポーランド広報文化センター
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)
 - ・公演 令和7年3月13日(木) 18:00～19:00
場 所 ぎふ清流文化プラザ(岐阜県岐阜市) 合唱舞踊団約35名、観客 261名
内 容 「FORK HERITAGE」と題し、合唱及びポーランド舞踊を披露
 - ・ポーランド舞踊ワークショップ
令和7年3月13日(木)9:30～11:30
場 所:県立加納高等学校(岐阜県岐阜市) 参加者:加納高等学校音楽科生徒 約30名
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
 - ・公演では多くの観客が観覧するとともに、県内生徒・児童がポーランド舞踊について学び、岐阜県とシロンスク県との交流について理解を深めた
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

公演やポーランド舞踊ワークショップを始めとした各種行事の結果、県民の国際理解の促進とともに、2025年大阪・関西万博に向けた機運を醸成した。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

2025年大阪・関西万博に向けた機運を醸成するとともに、今後の岐阜県・シロンスク県の交流継続に向け、県民の国際理解の促進を図ることができた。

5 特に良かった点、苦労した点

●良かった点

・多くの県民にシロンスク県の文化を紹介することが出来、岐阜県とシロンスク県との交流に関する認知度が高まった。

●苦労した点

・異なる言語・文化的背景を持つ岐阜県側とシロンスク側とで、舞台の設営内容を始めとした各種調整事項について認識を合わせることに苦労した。

6 今後の展開

・令和7年度は、5月に大阪・関西万博においてシロンスク県がシロンスク・ウィークを開催することから、大阪において連携事業を開催するとともに、シロンスク県要人の岐阜県訪問の際に、本県の伝統文化を紹介する。

・万博会期後に、シロンスク・ウィークを紹介する写真パネル展や、ポーランド物産展を開催し、万博を契機とした県民への国際理解の一層の促進を図る。

7 今後の展開における課題

・万博会期後の中長期的な交流の継続



ポーランド舞踊ワークショップ
(R6.10)



国立民族合唱舞踊団「シロンスク」公演
(R7.3)



シロンスク県写真パネル展
(R6.10)

岐阜県交流計画の進捗状況

自治体名

岐阜県

相手国・地域

リトアニア共和国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

当県では、「命のビザ」を発給した外交官杉原千畝氏を縁に、リトアニアを紹介する文化イベント「リトアニアNOW」を2018年から毎年開催するなど、同国と息の長い交流を続けている。万博においてリトアニアから芸術団が来訪する機会を捉え、岐阜県内においても同芸術団を招いたコンサートを開催し、一層の交流の深化と、県民が友好国であるリトアニアの歴史・文化等への知識・関心を深めることを目的とする。

イ 目標

リトアニアに関する様々な交流イベントを通じ、県民における、同国の歴史・文化等についての知識・関心の向上を図る。

(2) 1 事業内容

【事業名】リトアニアNOWの開催

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

当初の計画どおり2024年10月～11月にリトアニアNOW2024を実施完了し、現在2025年8月～9月に実施予定のリトアニアNOW2025の企画・調整を進めている。

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

駐日リトアニア大使館、リトアニアと交流が深い八百津町役場や岐阜大学、岐阜商工会議所等の協力を得て、産学民官が一体となり実施

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

○リトアニアNOW2024の内容

1. オープニングセレモニー

・10月18日(金) 18時～19時30分(場所: サラマンカホール)

[出演者]カウナス工科大学フォークダンス・アンサンブル「ネムナス」(41名)、八百津小学校(5年生児童)

2. ネムナス公演in八百津(※八百津町主催)

・10月20日(日)(場所: 八百津ファミリーセンター)

3. リトアニア特産品フェア

・10月18日(金)～27日(日)(場所: THE GIFTS SHOP)

・10月31日(木)～11月1日(金)(場所: 岐阜商工会議所)

4. 駐日リトアニア共和国特命全権大使講演会

・10月29日(火)(場所: 岐阜大学講堂)

5. リトアニア写真パネル展

・10月18日(金)～11月15日(金)(場所: アクティブG)

・10月28日(月)～11月1日(金)(場所: 岐阜商工会議所)

6. 国際交流員による文化教室(リトアニア産ハーブティー体験)

・10月26日(土) 14:00～15:00(場所: アクティブG)

・11月3日(日) 14:00～15:00(場所: アクティブG)

- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
- ・多くの県民に友好国であるリトアニアの歴史・文化等について学ぶ機会を提供することができた。
 - ・リトアニアから招へいたフォークダンスグループ「ネムナス」に対し交流会や岐阜県内のツアーを開催し、岐阜県の魅力をPRすることができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
- ア 万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
 - イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

リトアニアNOW2024を実施したことで、両国県間において交流の意義と重要性を再確認し、多くの県民に友好都市であるリトアニアの歴史・文化等について学ぶ機会を提供することができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博を契機としたレガシー創造に寄与するべく、万博会期中の交流事業に向けた調整を進めることができた。

5 特に良かった点、苦勞した点

- 良かった点
- ・多くの県民に友好都市であるリトアニアの歴史・文化等について学ぶ機会を提供することができた。
- 苦勞した点
- ・リトアニアNOW2024は国民文化祭と時期を同じくして開催したため、会場確保、移動手段確保等に苦勞した。

6 今後の展開

リトアニアNOW2025の開催
(日程)2025年度8月下旬～9月下旬
(会場)岐阜県内
(内容)リトアニア芸術団を招いたコンサートの開催、文化教室、特産品フェア、パネル展ほか

7 今後の展開における課題

・リトアニアについて知識・関心が薄い層への情報提供



リトアニアNOW2024(OPイベント)



同左(特産品フェア)



同左(パネル展)

岐阜県交流計画の進捗状況

自治体名	岐阜県
相手国・地域	英国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

近年、英国など欧州諸国を中心に、日本の伝統文化が有するストーリーや価値観への関心が高まっており、本県が世界に誇る伝統工芸品等についても、付加価値の高い商品として海外販路開拓の好機を迎えている。今後、商流確保・拡大を実現するため、「岐阜ブランド」としての一層の認知度向上が不可欠である。

イ 目標

大阪・関西万博イヤーである2025年を「岐阜ブランド」を海外に発信する絶好の機会と捉え、英国ロンドンにある芸術・デザイン分野における世界有数の展示施設「ヴィクトリア&アルバート博物館」(以下、「V&A」という。)の関係者を招請し、本県が世界に誇る伝統工芸品や伝統文化の魅力を、V&Aの発信力を活用し世界に向けてPRすることで、海外における認知度向上を図る。

(2) 1 事業内容

【事業名】

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
V&A関係者の招聘にむけて、メール等により随時調整
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
岐阜県、V&A、英国大使館
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)
2025年1月16日、都内、来日中のV&A関係者に対し、当プログラムを説明
2025年2月19日、メール、英国パビリオンの担当である英国大使館関係者に対し、当プログラムを説明
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
今後予定されている万博会期中の交流事業実施に向け、交流を深めることができた
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

(2) 1 ④ と同様

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後の事業継続性や自治体の地方創生への寄与の状況

万博を契機としたレガシー創造への寄与に向け、万博会期中の交流事業実施に係る調整を進めることができた

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

双方の調整を進めることと同時に交流を深めることができた

●苦勞した点

V&A関係者及び英国パビリオン担当である英国大使館との各種調整

6 今後の展開

万博会期中の交流事業の実施を通じ、岐阜県内の伝統文化及び産業関係者との更なる交流を深め、海外における認知度向上を図る。

7 今後の展開における課題

交流の継続に向けた相手国との各種調整



意見交換の様子
2025年1月16日都内



美濃和紙現場での交流の様子
(過年度V&A関連事業)



美濃焼製造現場での交流の様子
(過年度V&A関連事業)

岐阜県交流計画の進捗状況

自治体名	岐阜県
相手国・地域	ハンガリー

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

岐阜県を代表する地場産業の一つである陶磁器、その中でも「美濃焼」は、国の伝統的工芸品にも指定されており、国内トップシェアを誇る日本を代表する陶磁器である。しかしながら、県内の陶磁器産業は、人口減少などにより、生産が伸び悩み、後継者不足なども課題となっている。

イ 目標

万博を契機として、両国を代表する陶磁器を通じた国際交流を行うことにより関係を深め、双方の陶磁器産業の多様化・活性化などへ繋がる活動を実施していく。

(2) 1 事業内容

【事業名】

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
ヘレンド社の社員の受入にむけて、同社とメール等により随時調整
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
岐阜県、ヘレンド社
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)
2024年10月28日～11月19日にかけて、ヘレンド社の社員を岐阜県へ受け入れ、美濃焼などについて幅広い研修を提供
2024年11月8日に、「国際陶磁器フェスティバル美濃‘24」の催事の一つとして、ヘレンド社の社員を交えた交流イベント(講演会)を開催
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
今後予定されている、万博会期中の事業実施に向け、交流を深めることができた
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

双方の陶磁器産業の多様化・活性化などへ向け、両国を代表する陶磁器を通じた国際交流を図り、関係を深めることができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後の事業継続性や自治体の地方創生への寄与の状況

万博を契機としたレガシー創造への寄与に向け、交流を深めることができた

5 特に良かった点、苦勞した点

- 良かった点
双方の交流を深めることができた
- 苦勞した点
相手国との各種調整

6 今後の展開

万博会期中の交流事業の実施などを通じ、更なる交流を深め、双方の陶磁器産業の多様化・活性化などを旨す

7 今後の展開における課題

交流の継続に向けた相手国との各種調整



美濃焼製造現場での交流の様子



交流イベント(講演会)の様子



研修報告会の様子

岐阜県・多治見市交流計画の進捗状況

自治体名	岐阜県・多治見市
相手国・地域	中国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

岐阜県を代表する地場産業の一つである陶磁器、その中でも「美濃焼」は、国の伝統的工芸品にも指定されており、国内トップシェアを誇る日本を代表する陶磁器である。しかしながら、県内の陶磁器産業は、人口減少などにより、生産が伸び悩み、後継者不足なども課題となっている。

イ 目標

万博を契機として、両国を代表する陶磁器を通じた国際交流を行うことにより関係を深め、双方の陶磁器産業の多様化・活性化などへ繋がる活動を実施していく。

(2) 1 事業内容

【事業名】

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
2024年5月に、多治見市長が景德鎮市を訪問し、「国際陶磁器フェスティバル美濃'24」の開会式への景德鎮陶瓷大学の教授等の招待を打診
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
岐阜県、多治見市、景德鎮陶瓷大学
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)
2024年10月18日の「国際陶磁器フェスティバル美濃'24」の開会式に景德鎮陶瓷大学の教授等を招待
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
今後予定されている、万博会期中の事業実施に向け、交流を深めることができた
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

双方の陶磁器産業の多様化・活性化などへ向け、両国を代表する陶磁器を通じた国際交流を図り、関係を深めることができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後の事業継続性や自治体の地方創生への寄与の状況

万博を契機としたレガシー創造への寄与に向け、交流を深めることができた

5 特に良かった点、苦労した点

- 良かった点
双方の交流を深めることができた
- 苦労した点
相手国との各種調整

6 今後の展開

万博会期中の交流事業の実施などを通じ、更なる交流を深め、双方の陶磁器産業の多様化・活性化などを目指す

7 今後の展開における課題

交流の継続に向けた相手国との各種調整



「国際陶磁器フェスティバル美濃'24」の各催事の様子

アール・ブリュット美濃展

岐阜県・関ヶ原町交流計画の進捗状況

自治体名	岐阜県・関ヶ原町
相手国・地域	米国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

岐阜県と関ヶ原町では、アメリカ合衆国「ゲティスバーグ古戦場」とベルギー王国「ワーテルロー古戦場」と連携し、「世界三大古戦場」として魅力を発信する取り組みを行っている。今回、万博を契機として世界三大古戦場交流を実施することにより、世界の古戦場の歴史的意義を学び、世界平和を考える機会とする。

イ 目標

古戦場関係者との交流を通じ、アメリカ合衆国「ゲティスバーグ古戦場」の歴史・文化に対する県民の国際理解を促進するとともに、各古戦場が抱える課題を共有することで、関ヶ原のボランティアガイドの育成・質向上を図り活動の幅を広げる。

(2) 1 事業内容

【事業名】 関ヶ原古戦場イベントにおける海外古戦場スペシャルトークの実施

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

～R6.7 : 来岐・出演に向けての意向確認、日程調整

R6.7～10: 実施に向けた準備・調整

R6.10 : 関ヶ原で開催する武将イベント(大関ヶ原祭2024)で古戦場スペシャルトークを実施

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

主催: 岐阜県・岐阜県関ヶ原町

協力: ゲティスバーグ国立軍事公園

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

日 時 令和6年10月20日(日) 13:00～14:00

場 所 関ヶ原ふれあいセンター(岐阜県関ヶ原町)

内 容 武将イベント(大関ヶ原祭2024)に合わせ、各古戦場関係者による海外古戦場スペシャルトークを実施。観客 約100名

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

ゲティスバーグ古戦場の歴史・文化に対する県民の国際理解が促進された。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー2 事業内容

【事業名】 関ヶ原小学校児童との交流事業の実施

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

～R6.7: 来岐・出演に向けての意向確認、日程調整、 R6.7～10: 実施に向けた準備・調整、 R6.10: 交流事業実施

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

主催: 岐阜県・岐阜県関ヶ原町

協力: ゲティスバーグ国立軍事公園

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

日 時 令和6年10月18日(金) 13:40～14:30

場 所 関ヶ原町立関ヶ原小学校体育館

内 容 ゲティスバーグ国立軍事公園関係者が関ヶ原小学校に来校、4～6年生の児童が披露する伝統芸能「関ヶ原合戦語り太鼓・剣舞」の見学、交流を実施

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

戦いの様子を和太鼓の演奏で表現する伝統芸能により、日本の伝統文化をゲティスバーグ関係者に伝えることができた。また、演奏終了後には記念撮影や交流の時間を設けたことにより、児童とゲティスバーグ関係者との異文化交流が図ることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

2025年大阪・関西万博に向けた機運を醸成するとともに、今後の関ヶ原古戦場・ゲティスバーグ古戦場の交流継続に向け、県民の国際理解の促進を図ることができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後も世界三大古戦場連携を継続し、古戦場の歴史的な意義と平和の尊さを発信していく。

また、今回の交流を通して、町内小中学校において、異文化交流へのハードルが低くなったことが共通認識となった。これを踏まえ、今回の交流を一過性のものとするのではなく、継続的な交流機会の確保を通じて、関ヶ原ならではの学びの機会確保につなげ、今後の関ヶ原を担う人づくりにつなげる。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

児童が積極的にゲティスバーグ古戦場関係者と交流を図ることができ、関ヶ原ならではの学びの機会を確保できた

●苦勞した点

ゲティスバーグ古戦場関係者、関ヶ原小学校双方の海外交流に関する理解があったため、特段苦勞した点はない

6 今後の展開

令和7年度は、世界三大古戦場サミットを実施するほか、今後も継続的にゲティスバーグ古戦場関係者と伝統芸能を通じた交流を図る。
また、ゲティスバーグ古戦場関係者を通じて、ゲティスバーグ大学とコンタクトをとり、同大学が毎年実施している日本への留学事業について、関ヶ原小学校の児童との交流、また、関ヶ原中学校についてもより高度な取組みを図ることが出来るよう検討を進め、一層の国際理解の促進につなげたいと考えている。

7 今後の展開における課題

ゲティスバーグ古戦場関係者の来日等に要する事業費の確保



古戦場スペシャルトーク



剣舞の披露



ゲティスバーグ古戦場関係者との交流

岐阜県・関ヶ原町交流計画の進捗状況

自治体名	岐阜県・関ヶ原町
相手国・地域	ベルギー

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

岐阜県と関ヶ原町では、ベルギー王国「ワートルロー古戦場」とアメリカ合衆国「ゲティスバーグ古戦場」と連携し、「世界三大古戦場」として魅力を発信する取り組みを行っている。今回、万博を契機として世界三大古戦場交流を実施することにより、世界の古戦場の歴史的意義を学び、世界平和を考える機会とする。

イ 目標

古戦場関係者との交流を通じ、ベルギー王国「ワートルロー古戦場」の歴史・文化に対する県民の国際理解を促進するとともに、各古戦場が抱える課題を共有することで、関ヶ原のボランティアガイドの育成・質向上を図り活動の幅を広げる。

(2) 1 事業内容

【事業名】 関ヶ原古戦場イベントにおける海外古戦場スペシャルトークの実施

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

～R6.7 : 来岐・出演に向けての意向確認、日程調整

R6.7～10: 実施に向けた準備・調整

R6.10 : 関ヶ原で開催する武将イベント(大関ヶ原祭2024)で古戦場スペシャルトークを実施

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

主催: 岐阜県・岐阜県関ヶ原町

協力: ワートルロー古戦場記念館

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

日時 令和6年10月20日(日) 13:00～14:00

場所 関ヶ原ふれあいセンター(岐阜県関ヶ原町)

内容 武将イベント(大関ヶ原祭2024)に合わせ、各古戦場関係者による海外古戦場スペシャルトークを実施。観客 約100名

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

ワートルロー古戦場の歴史・文化に対する県民の国際理解が促進された。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー2 事業内容

【事業名】 関ヶ原小学校児童との交流事業の実施

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

～R6.7: 来岐・出演に向けての意向確認、日程調整、 R6.7～10: 実施に向けた準備・調整、 R6.10: 交流事業実施

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

主催: 岐阜県・岐阜県関ヶ原町

協力: ワーテルロー古戦場記念館

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

日 時 令和6年10月18日(金) 13:40～14:30

場 所 関ヶ原町立関ヶ原小学校体育館

内 容 ワーテルロー古戦場記念館関係者が関ヶ原小学校に来校、4～6年生の児童が披露する伝統芸能「関ヶ原合戦語り太鼓・剣舞」の見学、交流を実施

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

戦いの様子を和太鼓の演奏で表現する伝統芸能により、日本の伝統文化をワーテルロー関係者に伝えることができた。また、演奏終了後には記念撮影や交流の時間を設けたことにより、児童とワーテルロー関係者との異文化交流が図ることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

2025年大阪・関西万博に向けた機運を醸成するとともに、今後の関ヶ原古戦場・ワーテルロー古戦場の交流継続に向け、県民の国際理解の促進を図ることができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後も世界三大古戦場連携を継続し、古戦場の歴史的な意義と平和の尊さを発信していく。

また、今回の交流を通して、町内小中学校において、異文化交流へのハードルが低くなったことが共通認識となった。これを踏まえ、今回の交流を一過性のものとするのではなく、継続的な交流機会の確保を通じて、関ヶ原ならではの学びの機会確保につなげ、今後の関ヶ原を担う人づくりにつなげる。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

児童が積極的にワーテルロー古戦場関係者と交流を図ることができ、関ヶ原ならではの学びの機会を確保できた

●苦勞した点

ワーテルロー古戦場関係者、関ヶ原小学校双方の海外交流に関する理解があったため、特段苦勞した点はない

6 今後の展開

令和7年度は、世界三大古戦場サミットを実施するほか、今後も継続的にワーテルロー古戦場関係者と伝統芸能を通じた交流を図る。
また、関ヶ原古戦場のボランティアガイドである「せきがはら史跡ガイド」とワーテルロー古戦場ガイドボランティアが、オンラインによる意見交換や交流を図ることで、せきがはら史跡ガイドのスキルアップや国際理解の促進につなげたいと考えている。

7 今後の展開における課題

ワーテルロー古戦場関係者の来日等に要する事業費の確保



古戦場スペシャルトーク



剣舞の披露



ワーテルロー古戦場関係者との交流

岐阜市交流計画の進捗状況

自治体名	岐阜市
相手国・地域	中華人民共和国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的
岐阜市と杭州市が交流を開始してから、60年という年月が経ち、当時のことを知る人は徐々に少なくなってきている。長きにわたる両市の友好の絆を途絶えさせないためには、事業の継続と、若い世代への継承が必要である。これからを担う青少年に事業参加を促すことで、国内外から注目度が高い万博を一つの契機とし、先人が築き上げてきた日中友好の絆を未来へとつなげていきたい。

イ 目標
若い世代を中心に、杭州市と岐阜市との友好の絆を再確認し、友好関係の向上、岐阜市の認知度向上、多文化共生社会意識の醸成を図る。

(2)ー1 事業内容

【杭州×岐阜 交流イベント in 万博】

- ①2024年9月 岐阜市職員が杭州市を訪問し、イベント共同開催を依頼。2024年12月 杭州市職員が岐阜市を訪問し、イベントについて協議。
2025年4月 杭州市職員が岐阜市を訪問し、イベントに向けて最終協議。
- ②岐阜市国際課及び杭州国際貿易促進委員会が主体となり、共同イベントを計画。杭州芸術学校、杭州青少年活動センター、ながら児童合唱団、岐阜日中文化協会等の関係団体との調整を進めている。
- ③7月13日 大阪・関西万博中国パビリオンで杭州芸術学校とながら児童合唱団による共同ステージイベントのほか、岐阜日中文化協会による日中青少年漫画コンクールの展示等を開催する予定。事業については2月の予算発表にて記者発表済。
- ④万博を通じて、杭州市との友好関係の向上や岐阜市の認知度向上が見込める。
- ⑤ア、イ

(2)ー2 事業内容

【杭州×岐阜 交流イベント in 岐阜】

- ①2024年2月 万博国際交流プログラムモデル事業として、杭州芸術学校を岐阜市へ招聘し、記念公演を開催。
2024年9月 岐阜市職員が杭州市を訪問し、杭州芸術学校に対してイベント共同開催への出演を依頼。現在に至るまで、杭州芸術学校とイベントについて協議。
- ②岐阜市国際課及び杭州芸術学校で調整を進めている。
- ③7月15日 岐阜市内の交響ホールにて、杭州芸術学校と中高生の友好訪中団・訪日団等による記念公演を開催する予定。市内の公立学校及び一般市民が対象。
また、日中青少年による漫画の展示等も検討。事業については2月の予算発表にて記者発表済。
7月16日 岐阜市内の友好校を訪問し、青少年交流を行う予定。教育委員会や学校など関係団体と調整中。
- ④公演や学校訪問を通じて、杭州市との友好関係の向上や両市の友好関係に対する市民の理解促進が見込める。
- ⑤ア、イ

(2)ー3 事業内容

【岐阜市における国際交流の深化～大阪・関西万博を経て～(仮)】

- ①2025年2月 日本国際博覧会協会を通じて、万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者に出演交渉。
- ②岐阜市国際課及び万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者で調整を進めている。
- ③2026年2月 岐阜市内の交響ホールにて、万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者による講演会を開催予定。
合わせて、中国文化を紹介する演者等の出演も検討。事業については2月の予算発表にて記者発表済。
- ④講演を通じて、両市の友好関係に対する市民の理解促進が見込める。
- ⑤ウ

(2)ー4 事業内容

【杭州市青少年友好訪日団の受入】

- ①2024年12月 訪日団代表者を通じて、2025年度の訪日計画について調整。
- ②岐阜市社会・青少年教育課及び杭州市教育局で調整を進めている。
- ③7月14日 岐阜市内の友好校を訪問し、青少年交流を実施予定。ぎふ長良川鶺鴒観覧船に乗船予定。
7月15日 岐阜市内施設(岐阜城、鶺鴒ミュージアム)を視察予定。杭州×岐阜 交流イベントin岐阜に参加予定。
7月16日 岐阜市内の友好校を訪問し、青少年交流を実施予定。
- ④学校訪問を通じて、若い世代に杭州市と岐阜市との絆の継承が見込める。また、岐阜市内視察を通じて、両市の友好関係の向上や、岐阜市の魅力発信が見込める。
- ⑤イ

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

- ・岐阜市と杭州市との友好関係についての認知度上昇。
- ・交流事業の次世代への継承。
- ・在住中国人との友好関係改善。多文化共生への理解促進。
- ・訪日／訪中観光客数の増加。ぎふ長良川の鶺鴒の乗客数増。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

2026年2月には、「岐阜市における国際交流の深化～大阪・関西万博を経て～(仮)」と題して、万博振り返りイベントを開催する。大阪・関西万博閉会後においても、青少年交流を中心に、万博で得た成果を更なる両市の友好交流推進につなげていけるよう取り組みを進める。友好校交流や文化交流など、今後も事業を継続して実施していく予定。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

近年、友好都市として共同でイベントを開催する機会がなかったため、万博という舞台で事業が実施できれば、両市にとって非常に良い交流実績となる。

●苦勞した点

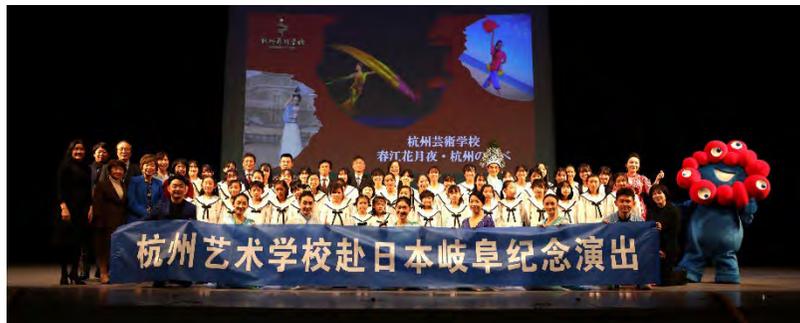
現時点で実現できる確証もなく、手探りの状態が続いている。交渉段階で中央政府への働きかけ等に対する助言や援助があるとありがたい。

6 今後の展開

万博会場での岐阜市と杭州市との共同イベント及び岐阜市内での記念公演が確実に開催できるよう、杭州市の関係部署、関係団体との交渉を継続していく。

7 今後の展開における課題

内容等、出演団体や関係者との調整。



2024年2月 万博国際交流プログラムモデル事業の記念公演の様子



2024年2月 杭州芸術学校による学校訪問の様子

恵那市交流計画の進捗状況

自治体名	恵那市
相手国・地域	ポーランド共和国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

恵那市は岐阜県南東部に位置し、面積504.24km²の76.6%を山林が占める自然豊かな中山間地域である。平成16年の市町村合併直後の平成17年4月に57,374人だった人口が令和6年4月には46,450人と毎年ほぼ500人ずつ減少を続けている。このような状況の中、本市は、「人・地域・自然が輝く交流都市～誇り・愛着を持ち住み続けるまち～」を将来像に掲げ、「はたらく・たべる・くらす・まなぶ」を重点分野として各種施策、事業を進めている。国際交流においては、特に児童青少年が貴重で素晴らしい体験をすることで、市への愛着を持ちつつ将来の進路について考えてもらえる良い機会ととらえている。

イ 目標

文化交流として、日本美術技術博物館マンガと中山道広重美術館で、お互いの国や市、また両館の紹介を行っていくことから始めている。2025日本国際博覧会においては、駐日ポーランド大使館に加え、来日されるポーランド共和国パビリオン関係者と積極的に関わりを持ち、マンガ館からの発信とともに恵那市について認知を広げてもらい、市内児童青少年へ特別な体験を提供しつつ、人やモノの交流を推進を図る。

(2) -1 事業内容

【事業名】 中山道広重美術館学芸員の日本美術技術博物館マンガへの訪問交流事業

- ①2024年4月27日から29日
- ②2024年2月27日岐阜県ポーランド交流協会(事務局:恵那市国際交流協会)の設立
- ③2024年度訪問交流事業として、美術館学芸員2名が渡航、訪問し、施設及び展示等の視察を行うとともに、マンガ館の職員との交流や意見交換等を行った。
- ④・日本美術技術博物館マンガの教育展示を参考にし、同館の協力で中山道広重美術館内の体験コーナーに新たに2つの体験コーナーを追加
 - ・中山道広重美術館において、2025年6月19日から8月24日に同館と共同で「マテウシュ・コウエク氏」の特別展示、ギャラリートークやワークショップを開催予定
 - ・同期間にマテウシュ・コウエク氏、カタジナ・ノヴァク館長他関係者も恵那を訪れて、交流を行う予定
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
 - ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

(2) -2 事業内容

【事業名】 駐日ポーランド大使館への市内中学生訪問事業

- ①2024年5月29日(実施済)・2025年5月28日(実施予定)
- ②2024年2月27日岐阜県ポーランド交流協会(事務局:恵那市国際交流協会)の設立
- ③恵那西中学校生徒約30名が大使館を訪問し、大使館を見学するとともに交流を行った
- ④・中学生にとって、外国の大使館を訪問するという人生において中々できない体験をしてもらう
 - ・この体験により、訪問生徒が将来を考える際の国際交流や諸外国への興味喚起が見込まれる
 - ・ポーランド共和国側においては、岐阜県及び恵那市への認知及び交流推進の意識向上
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
 - ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

(2)－3 事業内容

【事業名】ポーランド国立民族合唱舞踊団シロンスク恵那公演開催支援及び交流事業

- ①2024年10月9日・10日
- ②2024年2月27日岐阜県ポーランド交流協会(事務局:恵那市国際交流協会)の設立
- ③・10月9日午後6時より、舞踊団60名と夕食を兼ねた交流会を開催
(東野歌舞伎保存会による「白波5人男」の上演、合いの手、おひねり投げ。郷土料理五平餅出店、郷土和菓子栗きんとん食べ比べのふるまいなど。
・10月10日午前9時より、恵那市立長島小学校5・6年生約70名が舞踊団員による舞踊ワークショップに参加。英雄ポロネーズの踊りを習い、受講証をいただく。
・10月10日午後6時より、恵那文化センター大ホールにて、岐阜県主催でポーランド国立民族合唱舞踊団シロンスク「林檎の花咲くポーランド」を開催。市内外が集まった観客667人は、普段見ることができない華やかなパフォーマンスに魅了され、手拍子をしながら楽しんで観劇した。
・開催に当たっては、市内報道機関へ周知。中日新聞社、岐阜新聞社に取り上げていただいた。
- ④・観覧した市民の国際交流や諸外国への興味喚起
・舞踊団関係者の岐阜県及び恵那市への認知及び交流推進の意思向上
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

(2)－4 事業内容

【事業名】日本美術技術博物館マンガ開館30周年記念式典事業

- ①2024年11月29日・30日
- ②2024年2月27日岐阜県ポーランド交流協会(事務局:恵那市国際交流協会)の設立
- ③・岐阜県ポーランド交流協会会長、恵那市教育長、中山道広重美術館長が、同館の開館30周年危険式典に参加
・式典内では、恵那市教育長が挨拶に登壇、中山道広重美術館との協力について披露
・創立者のクリスティーナ・ザフアトヴィッチ・ワイダ夫人とカタジナ・ノヴァク館長によるマンガ館が行ってきた事業の振り返りを紹介する中、中山道広重美術館と新たな関係を築いたとの紹介があった。
・ポーランド投資庁大阪関西万博チームのマウゴジャータ・シュミット氏と面会し、2025年大阪関西万博関係事業の最終的な協議を行った。
- ④ポーランド共和国の政務次官、県副知事、クラクフ市長などが参列する中、挨拶及び共同製作のリーフレット等で岐阜県及び恵那市のPRを行った。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

(2)－5 事業内容

【事業名】駐ポーランド日本大使館における岐阜県、恵那市PR事業

- ①2025年2月21日
- ②2024年2月27日岐阜県ポーランド交流協会(事務局:恵那市国際交流協会)の設立
- ③・駐ポーランド日本大使館天皇誕生日レセプションに合わせ、恵那市勢要覧(英語版)、恵那市観光ガイド(英語版)、中山道広重美術館と日本美術技術博物館マンガ協定記念リーフレット、岐阜県ポーランド交流協会理事である岩村醸造株式会社の日本酒「女城主」を大使館へ提供し、ポーランド共和国関係者への岐阜県、恵那市との交流について広く周知を行った。・リーフレット類は、大使館内における交流自治体の紹介コーナーにも常設される。
- ④ポーランド共和国における岐阜県、恵那市に対するPR
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

- ・駐ポーランド日本大使館における岐阜県及び恵那市のPR周知の実施
- ・日本に興味を持つポーランド人が多く訪れると思われる日本美術技術博物館マンガにおける岐阜県、恵那市、中山道広重美術館についてのPR周知
- ・ポーランド国立民族合唱舞踊団シロンスク、シロンスク県と岐阜県との交流を通じた、国際交流の進展と次世代を担うグローバル人材の育成につながるきっかけとなる各種体験の提供
- ・ポーランド大使館や日本美術技術博物館マンガの関係者との交流を通じた、国際交流の進展と次世代を担うグローバル人材の育成につながるきっかけづくり

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後の事業継続性や自治体の地方創生への寄与の状況

- ・ポーランドパビリオン関係者である日本美術技術博物館と中山道広重美術館との友好協力の協定(2024.3.28締結)に基づく交流事業の継続
- ・日本美術技術博物館マンガとの交流に加え、岐阜県と友好協力の覚書(2024.8.30締結)を締結したポーランド共和国シロンスク県、駐日ポーランド大使館やポーランド広報文化センターとの協力体制を継続し、次世代を担う児童青少年の国際交流への興味喚起を進め、次代を担うグローバル人材の育成につながるきっかけの提供を進め、岐阜県及び恵那市の地方創生への寄与を進める。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

- ・日本美術技術博物館マンガの館長以下職員との信頼関係を構築できたことで、継続的な交流の継続を見込めるようになった。
- ・ポーランド投資庁大阪関西万博チームの職員と直接連絡を取り合うことができ、万博開催時の様々な相談を行うことができた。
- ・私的な訪問受け入れなどを通じ、駐日ポーランド大使館の職員だけでなく、大使本人とも直接連絡を取れる体制が構築できた。

●苦勞した点

- ・言葉の壁があり、メールなどのやり取りであれば問題ないが、直接話をする場合には、同時通訳ができる人を頼む必要があった。

6 今後の展開

【ポーランド投資庁大阪関西万博チームとの交流事業】

- ・令和7年5月3日舞踊パレードへの恵那市の子ども達の参加に加え、6月9日-10日の岐阜県の日、10月10日ポーランドナショナルデーなどの折に広く人員を募り、万博、ポーランドパビリオンを訪問していく。

【日本美術技術博物館マンガと中山道広重美術館の交流事業】

- ・6月から8月にかけて、共同展示事業を実施。また8月9日、10日に若手芸術家マテウシュ・コウエク氏のギャラリートークやワークショップを開催。
- ・今後協議を進め、3月の春休み付近で美術館学芸員に加え、市内中学生の日本美術技術博物館マンガ訪問事業を実施予定。

【駐日ポーランド共和国大使館・ポーランド広報文化センターとの交流事業】

- ・市内中学生の大使館訪問事業の継続
- ・ポーランドフェスティバルで訪れるポーランド人アーティストによる恵那公演事業の実施
(5月14日水曜日「レマンチク・ゴリツキ・サルネツキ・トリオ ジャズ公演 in 五毛座」の開催)

7 今後の展開における課題

- ・現在のパヴェウ・ミレフスキ駐日ポーランド共和国大使は、家族で恵那市にバカンスに訪れていただくなど、非常に良い関係を構築できているが、2019年に赴任しており、例外的に在任期間が長い方であり、大使が交代などした場合には新たに関係を構築していく必要がある。
- ・今までは、万博国際交流プログラムによる特別交付税措置という財政支援があったが、令和8年度以降、そのような財源措置がなくなってきた場合、財政面で厳しくなると同じような交流事業を行っていかれるかどうか不安がある。



美術館学芸員渡航時の様子



舞踊団シロンスク団員と東野歌舞伎保存会



舞踊団シロンスク恵那公演の様子



マンガ館開館30周年記念式典の様子



マンガ館開館30周年記念式典の様子②



政府高官の恵那市への私的来訪

八百津町交流計画の進捗状況

自治体名	八百津町
相手国・地域	リトアニア共和国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

リトアニア共和国とは、ユダヤ人へのビザ発給により6,000人以上のユダヤ人の命を救った杉原千畝氏がきっかけで交流を行っている。2019年、本町とリトアニア共和国カウナス市は、文化、教育、経済面で相互協力の合意。万博を契機に、お互いの文化や歴史を学ぶことにより、さまざまな考え方や楽しさを感じ、交流をさらに深化させる。

イ 目標

町民の国際交流に対する理解を高める。

(2)ー1 事業内容

【リトアニアNOW2024in八百津開催事業】

①スケジュール

2024年4月19日 リトアニアNOW2024in八百津の開催を決定。岐阜県やリトアニアのフォークダンスグループと開催内容を調整

2024年10月20日 リトアニアNOW2024in八百津開催

②体制 駐日リトアニア大使館、岐阜県、八百津町

③内容

日時 10月20日 15時～

場所 八百津町ファミリセンター

来場者 380人

報道対応等 2024年11月広報誌掲載

リトアニアのフォークダンスグループ40人を招聘し、リトアニア伝統の歌と踊りのコンサートを開催

八百津小学校5・6年生は、フォークダンスグループと「清流の国ぎふ」文化祭2024のテーマソング「君が明日と呼ぶものを」の合唱を練習しコンサートで披露した。

異文化交流サークルがリトアニア出身の岐阜県の国際交流員の助言をいただきながら製作したリトアニアの伝統衣装の展示、ジャパンディズ・イン・カウナス・ワの活動報告、大阪・関西万博のポスターを展示して、万博への機運も醸成することができた。

④効果

町民は、リトアニアの歌と民族ダンスで彩る魅力的なステージを鑑賞し、一段と交流相手国への興味を持つことができた。

来場者アンケートでは、コンサートに「とても満足」「やや満足」と答えた方が87%、本町と交流相手国との交流に「とても興味・関心がある」「やや興味・関心がある」と答えた方が約86%と非常に関心をもっていただくことができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー2 事業内容

【中学生海外派遣事業】

①スケジュール

2024年4月27日 参加者選考

2024年5月17日 第1回説明会

2024年7月12日 第2回説明会

2024年8月 5日 事前研修(合唱練習、岐阜県国際交流員よりリトアニアの文化や生活について学習、英会話)

2024年8月 6日 事前研修(合唱練習、NPO法人ホロコースト教育資料センターよりホロコーストについて学習、英会話)

2024年8月21日 第3回説明会及び結団式

2024年8月22日 事前研修(合唱練習、駐日ポーランド共和国大使館よりポーランドについて学習、英会話)

2024年8月23日 事前研修(合唱練習、町職員より海外渡航の注意事項について学習、英会話)

2024年8月30日 出発式

2024年9月 8日 解団式

②体制 駐日リトアニア大使館、カウナス市、岐阜県国際交流員、ホロコースト教育資料センター、八百津町

③内容 海外派遣期間:2024年8月30日～9月8日

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて中断していた中学生のリトアニアへの海外派遣を再開。中学生10名、引率者(町職員、教員)4名がリトアニアへ渡航し、学校や市役所、杉原記念館等を訪れた。カウナス市の学校訪問では、互いの国の言語での合唱や伝統的な遊びを教わった。さらに杉原ハウスで行われた交流会では英語でプレゼンテーションを行い、八百津町の紹介をした。事業については、町広報誌で広く周知した。

④効果 生徒は、異なる生活習慣や文化について肌で感じる事ができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー3 事業内容

【ジャパンディズ・イン・カウナス・ワ派遣事業】

①スケジュール

2024年4月8日 書道家、映像クリエイターに協力依頼

2024年4月17日 事前参加者打合せ、パフォーマンスのリハーサル

2024年4月25日 リトアニアカウナス市担当者よりリモート打ち合わせ

2024年5月6～11日 リトアニア派遣

②体制 カウナス市・岐阜県・八百津町

③内容 町長、議長、書道家及び映像クリエイター、引率者(町職員)計5名を派遣。カウナス市で開催されたジャパンディズ・イン・カウナス・ワで、杉原千畝氏の功績から発想を得た「つながる命」をテーマとしたパフォーマンスを披露。また、本町と交流のある幼稚園でも、書道ワークショップ、スマイルプロジェクトの写真撮影を行い、日本の文化を通じて、交流相手国の子供たちとの交流の時間をもつことができた。

新聞掲載

④効果 交流相手国の方々に、日本文化や芸術を鑑賞・体験してもらうことができた。また、このパフォーマンスは、日本国外では初めての試みでしたが、その表現は、相手国の住民に受け入れられた。また、書道ワークショップを相手国の幼稚園関係者の協力のもと、共同で開催することもできた。今後も引き続き友好交流が発展していくと実感することができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー4 事業内容

【やおつかジュカスマーケットの開催事業】

①スケジュール

2024年8月9日 カジュカスマーケットを開催することを決定

②体制 駐日リトアニア大使館、八百津町異文化交流サークル、八百津町

③内容

日時 3月2日 10時～16時

場所 八百津町八百津本町通り周辺

来場者数 約1,000人(カジュカスマーケットエリア)

報道対応等: 中日新聞掲載

春の訪れとともに開催されるリトアニアの伝統工芸市を模した「やおつかジュカスマーケット」を開催。大使館のご協力によりリトアニア本国からクラフト作家(フェルト帽子、雑貨)2名、駐日リトアニア大使ご夫妻をお招きし、ワークショップ等を行った。本町の工芸品、ハンドメイド製品のマルシェと交流。相手国の文化や工芸品について、直接手で触れたり体験したりすることができた。また、リトアニア人を含む在日カルテット演奏家をお招きし、リトアニアの音楽や文化を学ぶ機会も提供することができた。

この事業については、広報やホームページで周知した。

※カジュカスマーケットとは・・・リトアニアで400年以上続く伝統的な春のお祭り。毎年3月の最初の週末に開催される。工芸品、民芸品、食べ物などの手作り品を販売する露店が通りを埋め尽くし、春の訪れを祝います。

④効果

やおつかジュカスマーケットを訪れた多くの方に、リトアニアのクラフト作品や音楽を楽しんでいただき、相手国の文化を肌で感じていただくことができた。また、町内で活動している異文化交流サークルが中心に、リトアニア伝統柄のプリントバックの体験ワークショップを実施し、大阪・関西万博のために日本・リトアニア共同開発された甘酒の試飲を行うなど万博のPRも行った。クラフト工芸家や駐日リトアニア大使夫妻から、カジュカスマーケットの開催方法についても直接指導を受けることもできた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー5 事業内容

【中学生修学旅行大使館訪問】

①スケジュール 2024年9月25日 八百津東部中学校生徒が駐日リトアニア共和国大使館を訪問

②体制 駐日リトアニア大使館、八百津町、八百津東部中学校

③内容 中学生8名 引率教員3名が駐日リトアニア大使館を訪問した。

④効果 生徒たちは大使館訪問を通じリトアニアの歴史や文化を学び、より深く人道精神を理解することができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

(2)ー6 事業内容

【小学生万博事前学習事業】

①スケジュール

2024年 8月 万博の理念等の理解を深めるための事前学習を検討

2024年10月 小学生万博オンライン授業(講師:2025年日本国際博覧会協会)を依頼

2024年11月 ジュニアEXPO2025教育プログラムの活用について博覧会協会から指導を受ける(受講者:教育委員会・町職員)

2025年 1月 オンライン授業実施

②体制 日本国際博覧会協会、八百津町内の小学校、町教育委員会、八百津町

③内容

日時 1月22日 14時55分～15時35分

場所 町内小学校等(オンライン授業形式)

参加者 町内小学5年生60人

報道対応等 地元ケーブルテレビ、町広報誌

町内にある小学校4校と日本国際博覧会協会の職員の方をオンラインで結び、万博の理念やテーマ、SDGsについて学んだ。

④効果

本町の小学5年生は、7月に万博を訪問する予定である。日本博覧会協会の職員の方のお話やクイズを通して、世界のつながりや未来社会について考える機会となった。子供たちの「大阪・関西万博」に行ってみたいという気持ちを一層強くすることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ウ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー7 事業内容

【保育園の映像交流事業】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

2024年7月1日 錦津保育園、久田見保育園(七夕制作)

2024年7月2日 八百津保育園(七夕制作)

2024年7月3日 和知保育園(七夕制作)

2024年7月9日 七夕制作ビデオ送付

②体制

カウナス市幼稚園、町教育委員会、八百津町内の保育園

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

第1回は5月20日、第2回は7月9日、第3回は3月17日に実施。園児128名、園職員12名が参加した。リトアニア・カウナス市と岐阜県八百津町間で幼稚園・保育園の様子を撮影し、交流を行った。本プログラムの対象となる回は第2回に行われた七夕をテーマにした交流である。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

日本とリトアニアの保育文化の違いを交流し、両保育園の保育の充実を図ることができた。リトアニアでは日本の文化であるひな祭りなどの制作を行い、リトアニアの子どもたちに日本の文化を体験してもらうことができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー8 事業内容

【町民海外派遣事業(令和7年度実施予定)】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

2025年9月29日～2025年10月6日 町民をリトアニアへ派遣予定

②体制 駐日リトアニア大使館、リトアニア・カウナス市へ協力を依頼

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

本町の友好交流都市であるリトアニア共和国カウナス市を訪問し、アレクソータス地区の住民との文化交流を通じて、杉原千畝氏の人道精神を学び、リトアニア文化への理解を深め、本町とカウナス市の友好交流の絆を一層深化させる。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー9 事業内容

【万博会場内での交流事業】

①スケジュール

日時 令和7年7月6日

②体制 駐日リトアニア大使館、リトアニア共和国政府官庁万博担当者と交渉中

③内容 リトアニア共和国の万博ナショナルデーに小学6年生を派遣予定

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

保育園の児童から成人まで、さまざまな世代が交流相手国の文化や歴史を学び交流することができた。
交流相手国の方々に、日本文化や芸術を鑑賞・体験する機会を提供し、魅力をPRすることができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

相手国との交流のパイプが強化され、継続的な交流を行う体制が整った。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

子どもたちが世界や異文化に対する理解が深まり、人間性の成長に繋がった。

●苦勞した点

文化の違いから、相手国との交流のスケジュール調整の開始時期や誰に依頼すればよいのか戸惑うことがあった。

リトアニア側とのスケジュールが合わずビデオ送付のタイミングがずれてしまったため、リトアニアのビデオの内容を盛り込むことが難しかった。

これまではリトアニア側の担当者が日本語のビデオをリトアニア語に翻訳し、現地の幼稚園に送っていたが、担当者の負担を減らすためにビデオを英語で製作し、送付することにした。

6 今後の展開

引き続き、保育園交流、修学旅行の大使館訪問や中学生海外派遣を実施し、国際感覚や人権意識を養うことで、グローバル化する社会に対応できる子どもを育成する。

異文化交流サークルが中心となり、相互交流を推進するため、やおつかジュカスマーケットは継続して実施する。

町民をリトアニアに派遣し、友好交流都市のカウナス市を訪問し、共に杉原千畝氏の人道精神を学び、友好交流の絆をより深める。

オンラインで万博について学んだ小学生が万博会場を訪問し、相手国の万博関係者と交流する。

7 今後の展開における課題

継続的に交流を続けていくためには、予算の確保が課題である。

保育園の映像交流では、担当者の負担が大きいため、事業がスムーズに進むように負担軽減についても検討していく必要がある。



【中学生海外派遣】歓迎会



【中学生海外派遣】伝統的なパン製造



ジャパンディズ・イン・カウナス・ワ



ジャパンディズ・イン・カウナス・ワ



【保育園の映像交流事業】七夕の制作



リトアニアNOW2024in八百津



やおつカジュカスマーケット



やおつカジュカスマーケット



小学生万博学習事業

静岡県交流計画の進捗状況

自治体名	静岡県
相手国・地域	中国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

静岡県と浙江省は、1982年の友好提携以来長年にわたり、経済、農業、教育、文化、環境、防災など様々な分野で交流を推進し、友好関係を深めてきた。提携以降、5年毎の節目の年度に知事と省長を筆頭とする訪問団を相互に派遣し、民間交流を進めてきたが、今回の万博開催による国際交流の機運の高まりを踏まえ、スタートアップの本県招へい等による経済交流促進、県内医療機関・介護事業所等への研修員受入による人材育成への協力等により、浙江省との交流の一層の深化を図る。

イ 目標

浙江省の万博へのブース出展及び浙江ウィーク開催に合わせた本県訪問団の万博訪問等により、令和9年の友好締結45周年に向けた交流の深化を図る。

(2) 1 事業内容

【事業名】中国・浙江省との友好交流45周年を見据えた交流深化

万博を契機とした交流深化に向け、浙江省出展関係者と意見交換を実施

- ①スケジュール(2/25、3/1、3/12、3/14、3/18)
- ②体制(浙江省・・・貿促会貿易発展部副部長、商務庁、外事弁、静岡県・浙江省経済交流促進機構事務局長 静岡県・・・地域外交課)
- ③内容(浙江省出展関係者とのオンラインによる意見交換)
- ④効果 万博期間中の浙江省代表団の本県訪問・意見交換(7/9)、浙江ウィーク開幕式への本県訪問団の参加(7/12)が決定
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型 ア

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

- ・浙江ウィーク開催に合わせ来日する浙江省訪問団と、静岡県日中友好協議会を中心とする民間団体等で構成される静岡県・浙江省経済交流促進機構が県内で意見交換を実施することを確認した。
- ・6月上旬の本県訪問団の浙江省派遣による、トップ同士の信頼関係構築と、スタートアップに関する連携・交流等のきっかけづくりに向け、調整を加速させることを確認した。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- ・万博を契機に浙江省との連絡が密となり、相互交流の調整が進んでいる。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

意見交換により、万博を機会とする相互の交流日程が決定したこと。

●苦勞した点

日程の調整に時間が掛かったこと。

6 今後の展開

- ・友好交流45周年を見据え、6月上旬に本県訪問団を浙江省に派遣。
- ・県内企業と浙江省スタートアップとの協業や、交流人口の拡大に向けた連携を促進。
- ・浙江ウィーク期間中の本県訪問団と浙江省出展関係者の交流。

7 今後の展開における課題

- ・着実な事業の実施に向け、浙江省側との調整を前倒しで進めていく必要がある。

美浜町交流計画の進捗状況

自治体名

愛知県美浜町

相手国・地域

シンガポール共和国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

自治体の人口構成や産業構造、地理的要因や地域が抱える社会課題について記載ください。また、これらを踏まえ、万博を契機とした国際交流を実施する目的や自治体としての狙いについて記載をお願いします。

イ 目標

アを踏まえ、交流計画を実施することにより達成が期待される目標について記載をお願いします。

(2)ー1 事業内容

【事業名】

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
 - ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
 - イ 万博参加国・地域の関係者
 - ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者電話で、報告書の提出が依頼されが要求された

(2)ー2 事業内容

【シンガポールまつり】

開催期間: 令和6年10月3日(水)～10月13日(日)

毎年10月上旬頃に、シンガポールと美浜町の友好交流をPRし、来館者にシンガポールへの親しみを深めてもらうことを目的として、「シンガポールまつり」を開催している。期間中は、シンガポール物産展や、美浜町とシンガポールの友好関係に関するパネル展などを実施している。あわせて、「聖書と訳頒徳碑記念式典」も毎年同時期に開催している。

令和6年の開催に際しては、在日シンガポール大使館より一等書記官(大阪・関西万博シンガポールパビリオン担当)が来町し、式典に出席した。一等書記官による今回の来訪は、挨拶を兼ねた美浜町訪問であり、万博開催後にはシンガポールパビリオン(開館式など)へ招待する予定とのことであった。

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

来館者にシンガポールの文化や歴史を紹介することで相互理解の促進を図るとともに、美浜町との友好関係を広く周知することができた。また、大使館関係者の来訪を通じて政府レベルでの関係強化にもつながり、今後の交流の展望が開かれた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後の事業継続性や自治体の地方創生への寄与の状況
・今後も継続してシンガポールまつりを毎年開催していく予定。

5 特に良かった点、苦労した点

- 良かった点
特になし
- 苦労した点
特になし

6 今後の展開

大阪・関西万博の開催期間中、シンガポールパビリオンで行われるPRキャンペーンに対し、美浜町として積極的に協力していく予定。

7 今後の展開における課題

万博会場までの距離や、予算的制約の関係により、美浜町から関係者を現地に派遣し、シンガポールパビリオンにて直接的な交流活動(例:ナショナルデー関連行事等)を行うことは困難である。そのため、現地参加を伴わないPRキャンペーンを中心とした協力・参画が現実的と見込まれている。



【令和6年10月3日】シンガポールまつり2024
(左から)斎藤館長、八谷町長、在日シンガポール大使館ニコラス一等書記官



【令和7年4月26日】大阪・関西万博
シンガポールパビリオン開幕式

滋賀県交流計画の進捗状況

自治体名

滋賀県

相手国・地域

バチカン

1 背景と目標等

ア 背景と目的

近江国安土(現滋賀県近江八幡市安土町)は、織田信長が当時来日していた宣教師たちに屋敷地を与え、セミナリヨの建設を許した地である。信長は宣教師たちと親しく交わり、その内の1人であるヴァニャーノが日本を離れる際には安土城と城下町を描かせた屏風を贈り、帰国の途中に披露することを依頼するなど、世界に向けて日本を発信することを求めた。日本と西洋が初めて交流を持った16世紀末に、もっとも親密な交流が行われた舞台がこの安土の地であった。令和8年(2026)に安土城築城450年をむかえるにあたり、織田信長が安土を舞台にキリスト教宣教師と親密な交流を行ったことを踏まえ、信長時代から現代までつづく、日本と西洋との交流の歴史をあらためて振り返り、その歴史的意義を広く発信する。

イ 目標

今後も交流を継続し、安土セミナリヨ450年(令和12年)などの節目に新たな交流事業の実施を目指す。

2 事業内容

【事業名】～「幻の安土城」復元プロジェクト・歴史セミナー「織田信長と宣教師ヴァニャーノ」

- ①スケジュール 令和7年3月7日(金)に実施
- ②体制 滋賀県文化スポーツ部文化財保護課
- ③内容 場所: コラボしが21(滋賀県大津市)、取組内容: 講演(「大阪・関西万博について」「織田信長と宣教師ヴァニャーノ」)と会場参加者との質疑応答、参加者: 50名、報道対応等: 中日新聞社が当日取材
- ④効果 大阪・関西万博のPR、滋賀県とバチカン(ローマカトリック)との歴史的な交流の周知
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

- ・バチカンと滋賀との歴史的な交流についての認識の向上
- ・万博を契機とした交流に向けての機運醸成

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- ・バチカンと滋賀との歴史的な交流の舞台である安土セミナリヨ跡や安土城跡等のさらなる整備・活用に向けてのきっかけづくり。
- ・安土セミナリヨ建設450年(令和12年)に向けての機運醸成

5 特に良かった点、苦勞した点

- 良かった点
パチカンと滋賀との歴史的な交流について再確認ができた。
万博に対する関心の高さを実感でき、来訪意欲を拡大させることができた。
- 苦勞した点
準備に要する時間が少なく、講師選定や会場確保が難しかった。

6 今後の展開

- 開催中の交流事業(ナショナルデーにおけるパネル展示、滋賀県への関係者来訪、トークイベントの開催)
パチカンパピリオンディレクター、在パチカン日本国大使館と連絡を密にしながら、実施に向けて事業内容の具体化と調整を進める。
- 開催後の交流事業(パチカン研究者を招いての公開シンポジウムの開催)
招聘する研究者の選定と企画内容の具体化に向けて、関係者と連絡を取り、情報収集を進める。

7 今後の展開における課題

- 開催中の交流事業
 - ・パピリオン内の利用可能スペースの確認とそれに合わせた実施内容の調整
 - ・滋賀県への来訪スケジュールの検討
- 開催後の交流事業
 - ・招聘する研究者の早期決定



2 事業 講演風景



2 事業 質疑応答

長浜市・滋賀県交流計画の進捗状況

自治体名

滋賀県長浜市・滋賀県

相手国・地域

米国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

長浜市の子どもたちは、文化活動やフラッグフットボール(アメリカンフットボール)に地域を挙げて取り組んでいるところであり、大阪万博を契機に、長浜の子どもたちが積極的に取り組んでいる文化活動やスポーツ活動を通じて米国との交流を深め、世界に向けて長浜の魅力発信をすることで、万博開催後もレガシーとしての国際交流が深まることを促進する。また、フラッグフットボールの本場である米国の「ホンモノ体験」を通じて、子どもたちが夢を大きく持つとともに、子どもたち自身が長浜と米国の橋渡し役となることで、国際的な視野を広げ、自分たちの地域や文化に誇りに思える、シビックプライドの醸成を目的とする。

イ 目標

滋賀県長浜市の子どもたちが積極的に取り組んでいる「文化活動」や「フラッグフットボール」を通じて、本場である米国との国際交流を深化するとともに、世界に向けて滋賀・長浜の魅力を発信する。

2-1 事業内容

【ミシガン州訪問フラッグフットボール交流プロジェクト】

- ①スケジュール: 2/28(金) ノバイ市 ZOOM打合せ
- ②体制: 滋賀県文化スポーツ課を介し、米国との意見交換を実施中。
- ③内容: ノバイ市ZOOM打合せ 日時: 2/28(金) 8:30~9:30
参加者: 米国ノバイ市(担当者1名)、文化スポーツ課(担当者2名)
- ④効果: 万博時の取組み内容や期待していることの聞き取り。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型: イ 万博参加国・地域の関係者

2-2 事業内容

【JCMUと虎姫高校との交流プロジェクト】

・JCMUのミシガン出身留学生と長浜市内の高校生が、長浜市の文化(富田人形体験等)を通じた交流を行う

- ①スケジュール: 3/19(水) JCMU訪問。留学生ニーズ調査
- ②体制: JCMU、虎姫高校、文化芸術協会、市内イベント団体と日程調整中。
- ③内容: JCMU(ミシガン州立大学連合日本センター)訪問。 日時: 3/19(水) 14:00~17:00
参加者: JCMU(教員1名、留学生)、文化スポーツ課(涌井係長、丸岡主査)
- ④効果: 留学生へ長浜文化の興味があることや体験したいことを聞き取り。万博プログラムに反映予定。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型: イ 万博参加国・地域の関係者

2-3 事業内容

【米国パビリオン運営者との交流事業】

・文化活動に取り組む長浜市の高校生が、大阪万博会場内の米国パビリオンを訪問し、アメリカの歴史と未来を体験しながら、運営者と意見交換・交流する。

①スケジュール:2/28(金) ノバイ市 ZOOM打合せ

②体制:滋賀県文化スポーツ課、長浜市文化スポーツ課、虎姫高校と日程調整、当日実施内容打ち合わせ中

③内容:ノバイ市ZOOM打合せ 日時:2/28(金) 8:30~9:30 参加者:米国ノバイ市(担当者1名)、文化スポーツ課(担当者2名) ④効果:万博に実施したい取り組み内容の聞き取り。 ⑤当該事業において交流した交流相手の類型:ア 万博参加国・地域パビリオンの準備・運営等に関わる者。

【関西万博会場滋賀出店ブース出展】

長浜市の文化を発信するブースを出展。長浜市の文化・魅力を世界に向けたPR活動を行う。

①スケジュール:2/26(水) 主催:博覧会協会 万博勉強会 ②体制:滋賀県文化スポーツ課、長浜市文化スポーツ課にてブース内容打ち合わせ中。

③内容:万博勉強会(博覧会事務局) 日時:2/26(水) 10:00~11:00 参加者:博覧会事務局、文化スポーツ課(担当者3名)

④効果:万博の事業説明、ブース詳細の確認 ⑤当該事業において交流した交流相手の類型:ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

・ZOOM打ち合わせや訪問を実施することにより、万博プログラムに対する期待や、ニーズを把握。

・打ち合わせを実施し、相互理解を深めることでプログラムの精度を高める。

・万博への交通手段や体調面の注意など、アテンドをする上での懸念点を把握。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

レガシー創造への寄与状況について、万博終了後も関係が途絶えないよう、万博プロジェクトに携わるイベント団体、市内学校関係者と関係構築を図っているところ。その他、万博交流プロジェクトに参加いただく学生は新聞部に所属する学生にオファーをかけ、運営者との意見交換で感じたことや、学んだことを持ち帰り発信いただく予定。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

ZOOM打ち合わせだけでなく、JCMUなど現地へ訪問することで、相手の表情や反応を直接確認することが出来、興味や体験したいことを把握することが出来た点。

●苦勞した点

日程調整を行う際、学校のテスト期間や修学旅行を考慮する必要があり、JCMUとの交流やプログラム内のイベントと合わせることが困難であった点。

6 今後の展開

- ・4/25(金)にミシガン州政府と打ち合わせを行い、交流内容について擦り合わせを行う。意見交換を行い相互で描いている交流内容に相違がないか再確認を行いプロジェクトの精度を高めていく。
- ・交流プロジェクトのタイムスケジュールや当日の流れを固めていく為、5/12(月)万博研修に参加(担当者3名)し、万博施設やパビリオンの特徴を学び、交流内容に反映予定。

7 今後の展開における課題

- ・交流日を決定するにあたり、学校行事を避けないといけないため長浜市の文化芸術イベントと合わせるのが困難。
- ・留学生との交流プログラムについて、博物館やイベントで引率を行う際、日本語の理解に差がある場合、説明や注意事項など、安全面に関する指示が伝わりにくい場合がある為、事前に対策が必要。

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

本府が友好提携を締結している海外の各州省とは、交流の一環として5年毎に周年の記念事業を実施している。令和7年度に周年を迎える友好提携州省については、万博国際交流プログラムとして周年記念事業を実施する。また、「学生サミット」を通じて万博を契機として若い世代における地球規模での横の連帯を創出し、次世代の国際交流につなげる。

イ 目標

ジョグジャカルタ特別区を含む各国の若者の中で「万博」「京都」を共通のテーマとして友好交流を促進する。

(2)ー1 事業内容

【京都府とジョグジャカルタ特別区の交流事業】

- ①スケジュール: 令和6年夏からジョグジャカルタ特別区担当者と調整を開始
- ②体制: 京都府、ジョグジャカルタ特別区、ガジャマダ大学、在大阪インドネシア総領事館の関係者
- ③内容: 令和6年11月15日～16日、ジョグジャカルタ特別区
令和7年度の交流事業や両地域の今後の交流についてジョグジャカルタ特別区と協議、ガジャマダ大学での日本語スピーチコンテストの開催、ジョグジャカルタ特別区の商工会議所との意見交換等
- ④効果: 令和7年度の事業実施に向けて議論が深まるとともに、両地域の交流を深めることができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー2 事業内容

【児童絵画交流】

- ①スケジュール: 令和6年12月にジョグジャカルタ特別区から絵画送付され、令和7年2月1日～2日に京都市京セラ美術館で展示。令和7年3月末に京都府からジョグジャカルタ特別区に絵画送付。
- ②体制: 京都府とジョグジャカルタ特別区の担当者
- ③内容: 児童絵画を交換し、美術館等で展示
- ④効果: 両地域での相互理解が交流が深まった
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

京都府とジョグジャカルタ特別区の交流事業では、令和7年度の事業に向けて有効な交流ができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

・「きょうと国際学生サミット」の交流成果が継続できるように検討中。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

ジョグジャカルタ特別区知事に加えて、現地のガジヤマダ大学や商工会議所とも意見交換する等、幅広い交流ができた。また、大阪・関西万博をアピールすることができた。

●苦勞した点

特になし

6 今後の展開

・「きょうと国際学生サミット」の開催
・ジョグジャカルタ特別区からの訪問団を迎え、両地域の協力事業を実施

7 今後の展開における課題

特になし



ガジヤマダ大学における日本語スピーチコンテスト

京都府交流計画の進捗状況

自治体名

京都府

相手国・地域

英国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

本府が友好提携を締結している海外の州省とは、交流の一環として5年毎に周年の記念事業を実施しているところ、万博を契機として若い世代における地球規模での横の連帯を創出し、次世代の国際交流につなげる。

イ 目標

英国・エディンバラ市を含む各国の若者の間で「万博」「京都」を共通のテーマとして友好交流を促進する。

(2) 1 事業内容

【府立高校生によるエディンバラ市への訪問】

- ①スケジュール: 令和6年7月20日～8月12日
- ②体制: 京都府教育委員会
- ③内容: 府立高校生15名がエディンバラ市を訪問し、ホームステイや現地交流を実施
- ④効果: 学生のエディンバラ市の理解が深まった。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

学生のエディンバラ市の理解が深まった。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

・「きょうと国際学生サミット」の交流成果が継続できるように検討中。

5 特に良かった点、苦労した点

●良かった点

学生のエディンバラ市の理解が深まった。

●苦労した点

特になし

6 今後の展開

「きょうと国際学生サミット」の開催

7 今後の展開における課題

特になし。

京都府交流計画の進捗状況

自治体名

京都府

相手国・地域

カナダ

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

本府が友好提携を締結している海外の州省とは、交流の一環として5年毎に周年の記念事業を実施しているところ、万博を契機として若い世代における地球規模での横の連帯を創出し、次世代の国際交流につなげることを目的とする。

イ 目標

カナダ・ケベック州を含む各国の若者の間で「万博」「京都」を共通のテーマとして友好交流を促進する。

(2) 1 事業内容

【児童絵画交流(参考)】

①スケジュール: 過年度にケベック州から絵画送付され、令和7年2月1日～2日に京都市京セラ美術館で展示。

令和6年までに京都府がケベック州へ送付した児童絵画の展示会をケベック州で8月に開催。

②体制: 京都府とケベック州の担当者

③内容: 児童絵画を交換し、美術館等で展示

④効果: 両地域での相互理解が深まった

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

両地域の相互理解が深まった

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

・「きょうと国際学生サミット」の交流成果が継続できるように検討中。

5 特に良かった点、苦労した点

●良かった点

両地域での相互理解が深まった

●苦労した点

特になし

6 今後の展開

「きょうと国際学生サミット」の開催

7 今後の展開における課題

特になし。

京都府交流計画の進捗状況

自治体名

京都府

相手国・地域

中国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

本府が友好提携を締結している海外の州省とは、交流の一環として5年毎に周年の記念事業を実施しているところ、万博を契機として若い世代における地球規模での横の連帯を創出し、次世代の国際交流につなげる。

イ 目標

中国・陝西省を含む各国の若者の間で「万博」「京都」を共通のテーマとして友好交流を促進する。

(2)ー1 事業内容

【鳥羽高校の学生の陝西省派遣(参考)】

- ①スケジュール: 令和6年8月5日～8月9日に派遣
- ②体制: 京都府、陝西省の国際交流担当部署、参加高校の担当者
- ③内容: 令和6年8月7日に、西安交通大学附属中学学生と交流
- ④効果: コロナにより、オンライン交流しか実施できていなかったため、対面で交流が深まった
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー2 事業内容

【児童絵画交流(参考)】

- ①スケジュール: 令和6年12月に陝西省から絵画送付され、令和7年2月1日～2日に京都市京セラ美術館で展示。令和7年3月末に京都府から陝西省に絵画送付。
- ②体制: 京都府と陝西省の担当者
- ③内容: 児童絵画を交換し、美術館等で展示
- ④効果: 両地域での相互理解が深まった
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

青少年の相互理解が深まった。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

・「きょうと国際学生サミット」の交流成果が継続できるように検討中。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

両地域での相互理解が深まった。

●苦勞した点

特になし

6 今後の展開

「きょうと国際学生サミット」の開催

7 今後の展開における課題

特になし。

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

本府が友好提携を締結している海外の各州とは、交流の一環として5年毎に周年の記念事業を実施している。令和7年に周年を迎える友好提携州省については、万博国際交流プログラムとして周年記念事業を実施する。また、「学生サミット」を通じて万博を契機として若い世代における地球規模での横の連帯を創出し、次世代の国際交流につなげる。

イ 目標

フランス・オクシタニ州を含む各国の若者の中で「万博」「京都」を共通のテーマとして友好交流を促進する。

(2)ー1 事業内容

【児童絵画交流】

- ①スケジュール: 令和6年12月にオクシタニ州から絵画送付され、令和7年2月1日～2日に京都市京セラ美術館で展示。令和7年3月末に京都府からオクシタニ州に絵画送付。
- ②体制: 京都府とオクシタニ州の担当者
- ③内容: 児童絵画を交換し、美術館等で展示
- ④効果: 交流が深まった
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー2 事業内容

【鴨沂高校のフランス・ジュールゲード高校との高校生交流】

- ①スケジュール: 令和7年3月23日(日)～30日(日)
- ②体制: 高校間で調整
- ③内容: 令和7年3月23日(日)～30日(日)
- ④効果: 両地域の青少年交流が深まった
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

青少年の相互理解が深まった。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

・「きょうと国際学生サミット」の交流成果が継続できるように検討中。

5 特に良かった点、苦労した点

- 良かった点
両地域の青少年交流が深まった
- 苦労した点
特になし

6 今後の展開

- ・「きょうと国際学生サミット」の開催
- ・オクシタニ州からの訪問団を迎え、両地域の協力事業を実施

7 今後の展開における課題

特になし。

京都府交流計画の進捗状況

自治体名

京都府

相手国・地域

米国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

本府が友好提携を締結している海外各州省とは、交流の一環として5年毎に周年の記念事業を実施している。令和7年に周年を迎える友好提携州省については、万博国際交流プログラムとして周年記念事業を実施する。また、「学生サミット」を通じて万博を契機として若い世代における地球規模での横の連帯を創出し、次世代の国際交流につなげる。

イ 目標

アメリカ・オクラホマ州を含む各国の若者の間で「万博」「京都」を共通のテーマとして友好交流を促進する。

(2)ー1 事業内容

【オクラホマ州と今後の交流についての協議実施】

- ①スケジュール: 令和6年10月4日
- ②体制: オクラホマ州商務省職員と京都府国際課職員
- ③内容: 令和7年に実施する友好提携40周年記念事業及び今後の両地域の交流について協議を実施
- ④効果: 交流計画について議論を深めることができた
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
ア 万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

(2)ー2 事業内容

【児童絵画交流】

- ①スケジュール: 令和6年12月にオクラホマ州から絵画送付され、令和7年2月1日～2日に京都市京セラ美術館で展示。令和7年3月末に京都府からオクラホマ州に絵画送付。
- ②体制: 京都府とオクラホマ州の担当者
- ③内容: 児童絵画を交換し、美術館等で展示
- ④効果: 両地域での相互理解が深まった
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

協議において、両地域の交流促進を図った。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

・「きょうと国際学生サミット」の交流成果が継続できるように検討中。

5 特に良かった点、苦勞した点

- 良かった点
両地域での相互理解が深まった
- 苦勞した点
特になし

6 今後の展開

- ・「きょうと国際学生サミット」の開催
- ・オクラホマ州からの訪問団を迎え、両地域の協力事業を実施

7 今後の展開における課題

特になし

京都府交流計画の進捗状況

自治体名	京都府
相手国・地域	ベトナム

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

フェエ市とは京都と同じ古都として、これまでから築いてきた関係を活かし、留学先、就職先としての京都の認知度を高め、親しみを深めてもらえるような交流を続けることで、将来的に互いの価値を引き出せるような関係構築を目指している。万博を契機として、両地域の若い世代の交流を進め、両地域での相互理解を深める。

イ 目標

フェエ市を含む各国の若者の間で「万博」「京都」を共通のテーマとして友好交流を促進する。

(2) 1 事業内容

【京都府とフェエ市フェエ大学の交流事業】

- ①スケジュール: 令和6年3月にフェエ市へ参加を打診し、調整開始
- ②体制: 京都府とフェエ市の国際交流担当部署
- ③内容: 令和6年10月11日 日本到着、京都府立大学、立命館大学、京都産業大学訪問
令和6年10月12日 留学説明会、学生交流、大阪・関西万博開催半年前機運醸成イベントパフォーマンス披露
令和6年10月13日 京都学生祭典パフォーマンス披露、同会場でフェエ市紹介ブース出展
令和6年10月14日 日本出発
- ④効果: フェエ市の学生に京都の魅力を発見していただくとともに、京都の学生との交流を深める。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者 ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

青少年の相互理解が深まった。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

・「きょうと国際学生サミット」の交流成果が継続できるよう検討中。

5 特に良かった点、苦勞した点

【京都府とフェ市フェ大学の交流事業】

●良かった点

- ・ゲームや踊りを通じて、フェと京都の学生同士の交流が深まった。
- ・フェのPRブースを学生祭典で出展した際には、多くの来場者が立ち寄り、フェの学生も積極的に来場者に声をかける等、府民との交流ができた。

●苦勞した点

- ・先方との調整が滞ることがあり、また、事業実施日が観光シーズンと重なっていたことからホテルやバスの手配に苦勞した。

6 今後の展開

- ・「きょうと国際学生サミット」の開催

7 今後の展開における課題

特になし



京都学生祭典でのパフォーマンス

亀岡市交流計画の進捗状況

自治体名	京都府亀岡市
相手国・地域	ウクライナ

1 背景と目標等

ア 背景と目的

亀岡市は、京都市の西隣に位置しており、JR・国道・自動車道などで結ばれ、京都市までは約20分と、暮らしや経済はもちろん、観光にも便利なまちです。周囲は500～800mクラスの花々に囲まれた盆地状の地形にあり、市域の約7割が山林となっているほか、中心部には北から東へ貫流する桂川をはじめとして、中小河川も市域を覆うように流れています。本市は、京都市内3位の人口を有している一方で、人口減少や少子高齢化が進行しており、地域コミュニティの衰退や地域活力の低下につながる恐れがあります。姉妹都市や友好交流都市等及び本市の学生との相互交流や、市民参加型のイベントを積極的に実施することにより、亀岡市民に対する国際理解を推進させることを目的とします。さらに、本市の人材や文化、豊かな観光資源等を活かした交流事業を実施することで、地域の魅力を高めたまちづくりを目指します。

イ 目標

大阪・関西万博を契機として、ウクライナとの国際交流事業を実施し、亀岡市民に対する国際理解及び平和学習を推進することを目標とします。

2 事業内容

①スケジュール

令和7年度からの本格的な交流に向けて、ウクライナ関係者との意見交換会などを実施しました。

②体制

亀岡市、駐日ウクライナ大使館、NPO亀岡人権交流センター、ウクライナパビリオン関係者

③内容

令和7年2月18日(火) 駐日ウクライナ大使館訪問

亀岡市関係者、駐日ウクライナ大使館、NPO亀岡人権交流センター関係者との意見交換会を実施しました。

令和7年4月3日(木) 在神戸ウクライナ名誉領事館訪問

避難者支援や大阪万博のウクライナパビリオンへの協力等について、在神戸ウクライナ名誉領事との意見交換会を実施。

令和7年4月8日(月) 亀岡市長表敬

ウクライナ西部のリヴィウ州・トルスカヴェーツ市長からの、亀岡市との交流に係る親書を預かった市長代理人(通訳者及び語学教師のウクライナ人)が亀岡市を訪問。今後の交流について意見交換を行いました。

④効果

亀岡市及びウクライナの青少年の国際対応能力の向上や多文化共生社会づくりへのきっかけとすることができました。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

継続的な相互を目指す中で、ウクライナへの理解促進や異文化に対する寛容性を形成するきっかけづくりとする交流の場を調整することができました。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博会期中及び閉会后において、文化や農業、経済面など、特定の分野に捉われない交流を目指します。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

新たな海外の都市との交流を始めるにあたって、姉妹都市や友好交流都市に限らない、亀岡市民に対する国際理解及び平和学習の推進の可能性を見出すことができました。

●苦勞した点

特にありません。

6 今後の展開

【万博会期中】

- ・トルスカヴェーツ市長や市議会議員を含む3人が亀岡市を訪問予定
- ・友好関係に向けた合意書への調印式、在神戸ウクライナ名誉領事による講演会、両市長による対談を含む、市民も参加できるシンポジウムを開催予定
- ・令和7年8月5日のウクライナのナショナルデーイベントに本市長が出席
- ・令和7年8月24日にイベントを実施(本市の姉妹都市・友好交流都市・ウクライナのパビリオンや文化紹介、ワークショップを実施)

7 今後の展開における課題

現在のウクライナには退避勧告が出ているため、亀岡市民による訪問団が渡航して現地の方々と交流を実施することは大変厳しい状況にあります。制限されている中で、どのように交流していくかを引き続き検討していく必要があります。

亀岡市交流計画の進捗状況

自治体名	京都府亀岡市
相手国・地域	オーストリア

1 背景と目標等

ア 背景と目的

亀岡市は、京都市の西隣に位置しており、JR・国道・自動車道などで結ばれ、京都市までは約20分と、暮らしや経済はもちろん、観光にも便利なまちです。周囲は500～800mクラスの山々に囲まれた盆地状の地形にあり、市域の約7割が山林となっているほか、中心部には北から東へ貫流する桂川をはじめとして、中小河川も市域を覆うように流れています。本市は、京都府内3位の人口を有している一方で、人口減少や少子高齢化が進行しており、地域コミュニティの衰退や地域活力の低下につながる恐れがあります。姉妹都市や友好交流都市等及び本市の学生との相互交流や、市民参画型のイベントを積極的に実施することにより、亀岡市民に対する国際理解を推進させることを目的とします。さらに、本市の人材や文化、豊かな観光資源等を活かした交流事業を実施することで、地域の魅力を高めたまちづくりを目指します。

イ 目標

本市の中学生の国際理解を深めるとともに、姉妹都市との交流を通して、姉妹都市の歴史や文化への相互理解と友好関係を深めることを目標とします。

2-1 事業内容

【令和6年度亀岡市・クニッテルフェルト市スタディアブロードプログラム】

①スケジュール

本市の訪問団を令和6年11月に派遣するにあたり、相手国担当者と受入校の校長とカリキュラムの調整を行いました。また、派遣中学生への事前説明会を全3回実施し、クニッテルフェルト市や他の訪問先についての事前学習や、本市の国際交流員や国際交流関係者によるドイツ語講座を行いました。

②体制

亀岡市、クニッテルフェルト市、BG/BRG Knittelfeld(クニッテルフェルト市受入校)、在オーストリア日本国大使館

③内容

日時: 令和6年11月8日(金)～11月17日(日)

場所: クニッテルフェルト市を始めとするクニッテルフェルト市内、グラーツ市内、ウィーン市内

取組内容: 本市の中学校及び義務教育学校に通う中学生10人とBG/BRG Knittelfeldの生徒による、学生同士の交流を行いました。また、クニッテルフェルト市内の施設見学、近隣都市の視察を実施しました。

参加者: 本市の中学校及び義務教育学校に通う中学生10人、随行者3人(副市長、本市の中学校教頭、市職員)

報道対応: 令和7年2月15日発行の京都新聞に、交流の様子が掲載されました。

④効果

亀岡市及びクニッテルフェルト市の青少年の国際対応能力の向上や多文化共生社会づくりへのきっかけとすることができました。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2-2 事業内容

【令和6年度亀岡市・クニッテルフェルト市スタディアブロードプログラム】…に関する交流イベントの実施

令和6年11月11日(月)～令和6年11月14日(木) 学校での交流

・BG/BRG Knittelfeldが受入校となり、音楽や数学、書道の授業に参加し、生徒同士の交流を深めました。

令和6年12月22日(日) ワールドフェスタへの参加

亀岡市が共催する亀岡国際交流協会主催のイベント、ワールドフェスタに参加しプログラムで自らが体験したことを市民に報告しました。

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

今回初めての実施となったクニッテルフェルト市との学生交流を無事に終えることができたと共に、相手国への理解促進だけでなく、異文化に対する寛容性を形成するきっかけづくりの機会にすることができました。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

相手国の予算を考慮しなければならない点もありますが、万博閉会後も、学生の派遣・受入事業をなるべく継続的に実施することを両市長が同意しています。学生同士の交流のみならず、各国ならではのイベントやお祭りをプログラムに取り入れ、地域の伝承に触れる機会も継続させることで、様々な分野での交流を目指します。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

クニッテルフェルト市との学生交流事業は初めてだったため、派遣学生だけでなく、帰国後の報告会に参加した学生もオーストリアの文化や歴史について学ぶことができました。

●苦勞した点

受入校のカリキュラムやスケジュールの調整に時間を要したため、派遣学生及びその保護者に情報を早期に伝えることができず、それに伴い全3回実施する事前研修会の内容を改めて検討する必要がありました。

6 今後の展開

令和7年は亀岡市制70周年を記念して、市長を含む訪問団を招へいします。また、相手国の予算編成を鑑みながらではありますが、学生交流を近年中に実施することで一過性ではない継続的な相互交流を進めます。

7 今後の展開における課題

派遣事業に参加できる学生数は限られてしまうため、より多くの学生が本事業についての理解を深めることを目標として、事業実施後の報告会を市民向けに広く開催する必要があります。



クニッテルフェルト市の生徒による出迎え



受入校での書道の授業



受入校との交流最終日

亀岡市交流計画の進捗状況

自治体名	京都府亀岡市
相手国・地域	中国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

亀岡市は、京都市の西隣に位置しており、JR・国道・自動車道などで結ばれ、京都市までは約20分と、暮らしや経済はもちろん、観光にも便利なまちです。周囲は500～800mクラスの山々に囲まれた盆地状の地形にあり、市域の約7割が山林となっているほか、中心部には北から東へ貫流する桂川をはじめとして、中小河川も市域を覆うように流れています。本市は、京都府内3位の人口を有している一方で、人口減少や少子高齢化が進行しており、地域コミュニティの衰退や地域活力の低下につながる恐れがあります。姉妹都市や友好交流都市等及び本市の学生との相互交流や、市民参画型のイベントを積極的に実施することにより、亀岡市民に対する国際理解を推進させることを目的とします。さらに、本市の人材や文化、豊かな観光資源等を活かした交流事業を実施することで、地域の魅力を高めたまちづくりを目指します。

イ 目標

本市の中学生の国際理解を深めるとともに、友好交流都市との交流を通して、友好交流都市の歴史や文化への相互理解と友好関係を深めることを目標とします。

2 事業内容

【ワールドフェスタ2024 Fly with Music】

①スケジュール

令和6年4月～12月 関係者との協議を毎月1回開催
令和6年12月22日(日) イベント当日

②体制

主催: 亀岡国際交流協会 共催: 亀岡市

③内容

日時: 令和6年12月22日(日)
場所: ガレリアかめおか コンベンションホール(亀岡市余部町宝久保1-1)

取組内容: ワールドフェスタは、亀岡国際交流協会が主催するイベントで、国際交流や多文化共生について考える場として様々な国籍の子どもから大人までが一緒に楽しめる内容で開催しています。今回は、音楽の力で国際交流を体験するという目的で、姉妹都市や友好交流都市の音楽を紹介し、異文化に触れる機会を提供しました。蘇州市の音楽を紹介するコーナーでは、蘇州市出身の亀岡市民の方とご家族(プロ古箏奏者。今回のイベントのために来日。)をゲストとして迎え、東洋のピアノといわれる古箏(グーチェン)の生演奏をしていただきました。中国の曲だけでなく、日本のアニメのエンディングテーマの演奏のほか、参加者の古箏体験も実施し、蘇州市出身者との交流を深めました。

参加者数: 約100人

④効果

亀岡市民の国際対応能力の向上や多文化共生社会づくりへのきっかけとすることができました。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

蘇州市との交流は、令和元年の亀岡市・蘇州市スタディアブロードプログラム(亀岡市中学生派遣事業)を最後に途絶えていました。しかし、今回のワールドフェスタによって、蘇州市にゆかりのある人物と交流をすることができ、相手国への理解促進だけでなく、異文化に対する寛容性を形成するきっかけづくりの機会にすることができました。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博会期中及び万博会期後、学生の派遣・受入事業の実施を再開することを目標としています。学生同士の交流のみならず、各国ならではのイベントやお祭りをプログラムに取り入れ、地域の伝承に触れる機会も継続させることで、様々な分野での交流を目指します。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

日常生活ではなかなか知ることのできない外国の音楽文化や楽器について、ゆかりのある人物から直接知ることができました。

●苦勞した点

特にありません。

6 今後の展開

亀岡市制70周年を記念して、市長を含む訪問団を招へいすると共に、亀岡市・蘇州市スタディアブロードプログラム(受入事業)を実施し、一過性ではない継続的な相互交流を進めます。

※予算の都合上、市長含む訪問団の来日及び学生の派遣が不可能であるとの連絡あり

7 今後の展開における課題

学生同士の交流再開に向けて、受入校の教育カリキュラムの調整を行う必要があります。



ワールドフェスタ会場内の様子



蘇州市出身の亀岡市民の方とご家族(プロ古箏奏者。今回のイベントのために来日。)をゲストとして迎え、東洋のピアノといわれる古箏(グーチェン)の生演奏をしていただきました。

亀岡市交流計画の進捗状況

自治体名	京都府亀岡市
相手国・地域	米国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

亀岡市は、京都市の西隣に位置しており、JR・国道・自動車道などで結ばれ、京都市までは約20分と、暮らしや経済はもちろん、観光にも便利なまちです。周囲は500～800mクラスの高さに囲まれた盆地状の地形にあり、市域の約7割が山林となっているほか、中心部には北から東へ貫流する桂川をはじめとして、中小河川も市域を覆うように流れています。本市は、京都市内3位の人口を有している一方で、人口減少や少子高齢化が進行しており、地域コミュニティの衰退や地域活力の低下につながる恐れがあります。姉妹都市や友好交流都市等及び本市の学生との相互交流や、市民参画型のイベントを積極的に実施することにより、亀岡市民に対する国際理解を推進させることを目的とします。さらに、本市の人材や文化、豊かな観光資源等を活かした交流事業を実施することで、地域の魅力を高めたまちづくりを目指します。

イ 目標

本市の中学生の国際理解を深めるとともに、姉妹都市との交流を通して、姉妹都市の歴史や文化への相互理解と友好関係を深めることを目標とします。

2-1 事業内容

【令和6年度亀岡市・スティルウォーター市スタディアブロードプログラム】

①スケジュール

訪問団を令和6年10月に受け入れるにあたり、本市の教育委員会を通じて受入校とのカリキュラムの調整を行い、ホストファミリーへの事前説明会を実施しました。

②体制

亀岡市、スティルウォーター市、大成中学校、スティルウォーターミドルスクール、亀岡国際交流協会、スティルウォーター市姉妹都市委員会

③内容

日時: 令和6年10月19日(土)～10月26日(土)

場所: 大成中学校(スティルウォーターミドルスクールの姉妹校)を始めとする亀岡市内

取組内容: 姉妹校盟約を締結している大成中学校とスティルウォーターミドルスクールの生徒による、学生同士の交流を行いました。また、亀岡祭の鉾曳、保津川下り、藍染等の体験をしていただき、学生だけでなく地域住民との交流も実施しました。

参加者: スティルウォーターミドルスクール生徒7人、随行者3人(スティルウォーターミドルスクール教師)

報道対応: 令和6年11月15日発行の京都新聞に、交流の様子が掲載されました。

④効果

亀岡市及びスティルウォーター市の青少年の国際対応能力の向上や多文化共生社会づくりへのきっかけとすることができました。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2-2 事業内容

【令和6年度亀岡市・スティルウォーター市スタディアブロードプログラム】…に関する交流イベントの実施

令和6年10月19日(土) 歓迎会開催

- ・令和5年度に行った同プログラムに参加した亀岡市の中学生、今回のプログラムのホストファミリーによるスティルウォーター市訪問団の歓迎会を実施しました。

令和6年10月21日(月)～令和6年10月25日(金) 学校での交流

- ・スティルウォーターミドルスクールと姉妹校盟約を締結している大成中学校が受入校となり、浴衣の着付けや書道の体験等の授業や放課後の部活動に参加し、生徒同士の交流を深めました。

令和6年10月25日(金) 亀岡祭参加

- ・亀岡祭関係者から歴史を学び、鉾曳体験と共に市民との交流を深めました。

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

長年途絶えていた姉妹校同士の交流を再開させると共に、相手国への理解促進だけでなく、異文化に対する寛容性を形成するきっかけづくりの機会にすることができました。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博閉会後も、学生の派遣・受入事業を隔年で実施することを両市長が同意しています。学生同士の交流のみならず、各国ならではのイベントやお祭りをプログラムに取り入れ、地域の伝承に触れる機会も継続させることで、様々な分野での交流を目指します。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

同プログラムの海外派遣事業となると、交流できる人数が予算の都合上限られてしまうが、今回の受入事業ではより多くの本市の学生が交流を深めることができました。

●苦勞した点

慣れない地でのホームステイによる体調不良者への対応に少々苦勞しました。

6 今後の展開

亀岡市制70周年を記念して、市長を含む訪問団を招へいすると共に、亀岡市・スティルウォーター市スタディアブロードプログラム(受入事業)を実施し、一過性ではない継続的な相互交流を進めます。

7 今後の展開における課題

長期間の学生同士の交流を実施するにあたって、受入校の教育カリキュラムの調整を行う必要があります。



歓迎会及び交流会(参加者:ホストファミリー、令和5年度スティルウォーター市への派遣生徒)



受入校での授業(浴衣着付け体験)



亀岡祭での鉾曳体験

大阪府交流計画の進捗状況

自治体名

大阪府

相手国・地域

フランス、アメリカ、オーストラリア、ベトナム、アラブ首長国連邦、イタリア、中国、インドネシア

1 背景と目標等

ア 背景と目的

大阪府では都市魅力創造戦略の中で「出会いが新しい価値を生む多様性都市」の実現に向け、都市間ネットワークを活用した交流を促進することとしている。また、2025年大阪・関西万博アクションプログラムでは、全国自治体の子供・若者等の万博を通じた海外交流を促進し、地域活性化を実現することが盛り込まれており、海外との交流を通じ、次代を担う若者の国際感覚を醸成するとともに、その交流の裾野を広げていくことが重要。そのため、世界から人が集まる万博の地元開催というチャンスを活かし、国際交流を通じて、若者が国際的な観点から能動的に社会課題に取り組む力を培うことを目的に「万博国際交流事業」を実施。

イ 目標

若者の国際感覚の醸成、国際交流の裾野拡大および万博への機運醸成

2 事業内容

【Hello-EXPO国際交流事業】

・大阪府内高校生と大阪府の友好交流先国（フランス、アメリカ、オーストラリア、ベトナム、アラブ首長国連邦、イタリア、中国、インドネシア）の留学生等との交流事業（Hello-EXPO国際交流プロジェクト）を軸に、万博参加国関係者・万博参加国地域関係者・日本側万博関係者との交流事業を実施。

・Hello-EXPO国際交流プロジェクトは1.キックオフセミナー、2. コース別交流・体験、3. 成果発表会で構成される。

	キックオフセミナー (1回)	コース別交流・体験 (留学生との交流3回)	コース別交流・体験 (高校生のみ実施参加1回、 高校生のみ実施任意1回)	成果発表 (1回)
日時	9月23日(火) 13:30~15:30	10月5日(土) 11月16・30日(土) 1月11日(土) 14:30~17:30	10月20日(土) 12月24~27日任意 希望参加	2月11日(火) 13:00~16:00
場所	大阪市立住まい情報 センター	関西大学梅田キャンパス	おおさかATCグリーン エコプラザ	大阪府立男女共同参 画・青少年センター
内容	・総領事館及び友好交 流先関係者による各 国事情やパビリオン テーマ等の万博に向 けた取組紹介 ・日本側万博関係者 による万博の理念や内 容等の紹介 ・留学生と社会起業家 によるパネルディスカ ッション	・友好交流先国の留 学生等との交流（各 国の魅力と社会課題等 ・プレゼン準備（取組 を通じた学び、社会課 題の解決に向けた提 案）（※府友好交流 先国：中国、インド ネシア、フランス、 オーストラリア、ア メリカ、イタリア、 UAE、ベトナム）	・企業の社会課題解 決取り組み事例を参 考に留学生の母国の 社会課題解決アイ デアを考える。 ・プレゼンに向けたス ライド作成	・プログラム成果の 発表（全員：ポスター セッション、優秀提 案選出：全体プレゼ ンテーション）
実施 形態	全体講義	コース別実施	コース別実施	全体成果発表

【参加人数】

① キックオフセミナー

≪高校生≫リアル参加 169名、オンライン参加 15名
≪高校生以外≫リアル参加 12名、オンライン参加 10名

② コース別交流体験（高校生のみ）（単位：人）

10月5日	10月20日	11月16日	11月30日	1月11日
171	171	71	74	158

③ 成果発表会

≪高校生≫177名
≪来場者≫133名
≪オンライン参加者≫16名

2 事業内容

◎ 効果

・参加高校生へのアンケートの結果、以下のとおりの成果を得た

- a)国際交流・活動に関する関心が高まったとする参加生徒の割合が95.2%
- b)高校生でも社会をよりよくしていけると回答する参加生徒の割合が87.8%
- c)万博への関心が高まったとする参加生徒の割合が91.0%

◎ 当該事業において交流した交流相手の類型

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

⇒ キックオフセミナーにて、インドネシア総領事館、フランス商工会議所が講演、成果発表会にて、ベトナム総領事館が講演

イ 万博参加国・地域の関係者

⇒ コース別交流・体験にて万博参加国であるアメリカ、フランス、オーストラリア、アラブ首長国連邦、ベトナム、イタリア、インドネシア、中国の留学生と交流

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

⇒ キックオフセミナーにて日本万国博覧会協会が講演

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

・交流計画では、各国・各地域との「交流の深化・裾野拡大、青少年の国際感覚の醸成」を目標として掲げているが、上記事業効果に記載のとおり、今回取組により、事業を通じて、「国際交流・活動に関する関心が高まった」とする参加生徒の割合が95.2%という結果を得たほか、「国際交流ができたし、ただ話だけじゃなくて実際にその国について学べたのが、高校ではできない経験だと感じた」、「このプロジェクトに参加しなければ、考えなかったようなこと、知れなかったようなこと、出会わなかったような人々を得られた」、「今までは、世界の社会問題や環境問題とはあまり関わりがなかったので、良い機会であった」といったコメントも見受けられ、目標に対する成果が挙げられている。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

・令和7年度は、令和6年度の交流事業に参加した高校生含め、各地域から招聘した専門家との交流事業や万博会場を含む府内観光資源の視察ツアーを実施予定。その様子を教材動画及び観光PR動画として編集の上、それぞれ府内高校や海外に向け発信することによって、万博後も青少年の国際感覚の醸成と観光促進を図る。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点:約200名もの高校生等に、8か国もの国の留学生と交流する機会を提供でき、府内青少年の国際感覚の醸成を進めることができた。同時に万博関係者による講演等を通じて、万博への関心を高めることができ、機運醸成にも貢献することができた。

●苦勞した点:参加高校生の集客にも苦勞したが、実施主体となる8か国もの留学生を集め、参加をこぎつけるのに苦勞した。

6 今後の展開

令和7年度は、大阪府の友好交流先自治体8か国9地域(予定)から、専門家、行政関係者や教員等を招聘し、令和6年度参加者を含む府内高校生等を対象に各国・地域の社会課題について、学び、考えるセミナーを開催するほか、被招聘者を万博会場内の大阪ヘルスケアパビリオン等や大阪府内の観光資源等に案内するなど、相互の交流と理解を深め、万博後も一層の連携強化を図るため、万博国際交流事業を実施する。また、セミナー等の取組みを通じて得た知見を教材動画にとりまとめ、高校生等へ広く普及を図る。また観光案内の状況をPR動画にとりまとめ、広く海外に発信する。

7 今後の展開における課題

- ・適切な招聘者の人選のための友好交流先との円滑なコミュニケーション。
- ・大阪パビリオンや友好交流先等、各主体との連携による効果的な交流事業の実施。



コース別 交流体験の様子



コース別 交流体験の様子

大阪市交流計画の進捗状況

自治体名	大阪府大阪市
相手国・地域	オーストラリア

1 背景と目標等

ア 背景と目的

大阪・関西万博の開催にあたり、地元自治体小中学校及び義務教育学校412校における機運醸成を図るとともに、大阪府教育庁による「2025年日本国際博覧会児童・生徒招待事業」への学校単位での参加に向けた事前・事後学習として国際交流の取組を位置づけることで、万博の理念やSDGsに関する共通課題についての理解を深め、持続可能な社会を担う人材の育成をめざす。

イ 目標

交流相手国関係者や児童生徒との、対面またはオンラインによる国際交流を実施することで、万博の意義をはじめ、お互いの国の文化やSDGsに関する取組についての理解を深める。

2-1 事業内容

【オーストラリア大使館による講話】

- ①スケジュール: 令和6年12月に大使館へ依頼
- ②体制: オーストラリア大使館広報文化部、万博推進局、大阪市立波除小学校、大阪市立新巽中学校、大阪市教育委員会
- ③内容: オンラインによる出前授業の日程調整(令和7年5月7日)
- ④効果: オーストラリアの文化やSDGsの取組、オーストラリアパビリオンの内容についての講話を依頼
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型:
 - ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
 - ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2-2 事業内容

【ジーロングサウス校・リリーデールハイツカレッジ校とのオンライン交流】

- ①スケジュール: 令和6年11月にオーストラリア教育省を通じて依頼・日程調整、令和6年12月～令和7年2月に事前打合せ
- ②体制: オーストラリア教育省、ジーロングサウス校・大阪市立波除小学校、リリーデールハイツカレッジ校・大阪市立新巽中学校、大阪市教育委員会
- ③内容: 日本とオーストラリアのお互いの国の文化、学校生活の様子の紹介
リリーデールハイツカレッジ校・新巽中 日時: 令和7年3月18日 場所: Teams 取組内容: グループ別交流 参加者: 中学校2年生60名 報道対応: なし
- ④効果: お互いの国や文化、学校生活の様子を理解し、継続的な国際交流への関心・意欲が高まった。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型:
 - イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

これまで国際交流の経験のない生徒にとって、オーストラリアの学生とのオンライン交流は貴重な経験となった。オーストラリアという国のことを、これまで教科書やメディアを通じて知識を得ていたが、顔が見える交流相手と直接やりとりすることで、体験的に文化や価値観の違いを学んだり、コミュニケーション力や自己肯定感を高めたりする学びにもつなげることができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

ジーロングサウス校・リリーデールハイツカレッジ校の児童生徒との継続的なオンライン交流の取組につなげていく。

5 特に良かった点、苦労した点

●良かった点

オーストラリア大使館の広報担当者が、オンライン講話の依頼を快く引き受けていただいた。
中学校の英語教諭のアイデアで、グループごとのオンライン交流を行い、一人一人の生徒の交流活動の量的な確保ができた。

●苦労した点

日本とオーストラリア双方の年間予定と取組の実施スケジュールの調整

6 今後の展開

- ・9月18日に新翼中学校の生徒60名、9月22日に波除小学校の児童100名が万博会場を訪れ、オーストラリアパビリオンの見学を行う予定。
- ・新翼中学校、波除小学校それぞれが、児童生徒間のオンライン交流を継続して行う。
- ・大阪国際交流センター等のゲストティーチャーを招いた交流を計画する。

7 今後の展開における課題

- ・交流の取組をコーディネートする担当者・事業者を立てること
- ・継続的な交流を行うための仕組みづくり

大阪市交流計画の進捗状況

自治体名	大阪府大阪市
相手国・地域	韓国

1 背景と目標等

ア 背景と目的
大阪市生野区は、5人に1人が外国人住民であり、国籍・地域は約80にのぼる。その7割近くが韓国・朝鮮籍（区内における外国人人口1位）である。外国人が増えるきっかけとして、1922年に韓国の済州島と大阪を結ぶ航路が開設され、同島の出身者が定住するようになった。当区は、その済州島出身者が中心となり形成した「大阪コリアタウン」がある地域であり、いまでは年間約200万人が訪れる観光名所である。また、この度、日韓相互友好増進のため、済州特別自治道知事からトルハンバンの寄贈を受け、コリアタウン近隣の公園にトルハンバンが設置されたところである。これら長年にわたる地域特有のつながり・交流を、万博を契機にさらに醸成させ、多文化共生の理解促進・まちの魅力向上に取り組むため。

イ 目標
万博を契機に、わが国と古くからつながりの深い大韓民国との交流を通じて、多文化共生への理解を促進し、多様な生活・食文化があるまち大阪市生野区のグローバルタウンとしての魅力とにぎわいをより高め、ひいては万博開催後も国際都市としての大阪の都市魅力の創造・発信へとつなげるとともに、両国の友好と発展に寄与する。

2-1 事業内容

【食を通じた国際文化交流イベント～ EXPOいくの万博夜市～韓国フェア～】

①スケジュール
令和6年2月末に交流計画を作成のうえ「万博国際交流プログラム」の登録申請を行い、第一次登録として公表済み。
令和6年4月にプロポーザル方式による事業者募集を実施。6月に民間事業者より事業提案を受け、7月に業務委託契約を締結。（2-1「食を通じた国際交流イベント」と同一契約）

②体制
業務委託による実施（発注：大阪市生野区、受注：民間事業者）

③内容
日時：第1回：2024/7/27(土)、28(日) 16:00-21:00
第2回：2024/11/2(土)、3(日) 16:00-21:00 ※11/2(土)は雨天の為中止
場所：「いくのパーク」(大阪市生野区桃谷5丁目)
取組内容：交流相手国の食文化に特化した屋台ブースやキッチンカーを出店、交流相手国の歴史や文化に触れることができるステージのイベントも実施。また、第1回目は区内の飲食店を巻き込み万博ののぼりや当該イベントのチラシ設置を依頼し、イベント会場以外での機運醸成を図った。
参加者：区内住民を中心とし、のべ約2,800人の来場あり。

④効果
区内住民および飲食店を中心にまちの賑わい創出、多文化共生における相互理解の促進。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2(1)ア～ウから選択）
イ 万博参加国・地域の関係者

2-2 事業内容

【講演会&トークセッション】

①スケジュール

令和6年2月末に交流計画を作成のうえ「万博国際交流プログラム」へ登録申請を行い、第二次登録として公表済み。

令和6年4月にプロポーザル方式による事業者募集を実施。6月に民間事業者より事業提案を受け、7月に業務委託契約を締結。(2-1「食を通じた国際交流イベント」と同一契約)

②体制

業務委託による実施(発注:大阪市生野区、受注:民間事業者)

③内容

「韓国を交流相手国とした学びと相互理解」

日時: 2025/1/20(月) 17:00-19:00

場所: 生野区役所 大会議室

取組内容: 韓国総領事館関係者、万博関係者、相手国関係者(区内企業)・生野区長による講演およびトークセッションを開催。登壇者および来場者には、交流相手国の料理を無料で楽しんでいただける試食も実施。

④効果

万博の理念や共通の課題等への理解を深めるための事前学習を含め、学びや課題の解決といった万博の理念に基づき、多文化共生への理解、国際交流などの促進

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

交流相手国の文化を身近に感じる機会となり、会場の店舗だけではなく区内の飲食店を巻き込むことにより地域の活性化にもつながったと考える。また、万博関係者、領事館関係者の講演を聞くことが可能な機会を創出することで万博開催に向けた事前学習を含め多文化共生の相互理解の促進にもつなげることができたことから、会期中および会期後も同程度のイベント等を継続して開催し、会期後も国際都市としての大阪の都市魅力の創造・発信、両国の友好と発展に寄与する。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博が閉会する当該年度においても、引き続き万博を契機とした多文化共生への理解促進、まちの魅力向上とにぎわいの創出を目指し、閉会後に同程度のイベントを実施する予定である。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

来場者アンケートで「生野を感じるイベントだった」「家族で楽しめた」という感想があったことから、グローバルタウンとしての生野区の地域性を感じられるイベントとなったと考える。

●苦勞した点

屋外でのイベントを前提としていたことから天候に左右されることとなり、中止の判断に苦慮した。また、イベント開催日とトークセッション登壇者との日程調整が難航し、講演会等を別途開催することとなった。

6 今後の展開

会期中および会期後においても、「食を通じた国際文化交流イベント」や講演会等を実施するほか、会期中においては交流相手国パビリオンを訪問し、引き続き相互の理解促進につなげる。

7 今後の展開における課題

令和7年度も、令和6年度と同一の事業者による業務委託のため、会期前と同様ではなく会期中・会期後の様々な特色を盛り込むような、イベント内容のブラッシュアップを図りたい。会期中として様々な万博関係のイベントが各地で実施される期間であることから、本事業における集客・周知の観点からより効果的な広報活動を事業者と連携して取り組みたい。



交流相手国の食を中心とした店舗で賑わう会場



ステージで交流相手国の文化を紹介



交流相手国・万博関係者による講演会&トークセッションの様子と会場です食した交流相手国の料理



大阪市交流計画の進捗状況

自治体名

大阪府大阪市

相手国・地域

中国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

大阪・関西万博の開催にあたり、地元自治体小中学校及び義務教育学校412校における機運醸成を図るとともに、大阪府教育庁による「2025年日本国際博覧会児童・生徒招待事業」への学校単位での参加に向けた事前・事後学習として国際交流の取組を位置づけることで、万博の理念やSDGsに関する共通課題についての理解を深め、持続可能な社会を担う人材の育成をめざす。

イ 目標

交流相手国関係者や児童生徒との、対面またはオンラインによる国際交流を実施することで、万博の意義をはじめ、お互いの国の文化やSDGsに関する取組についての理解を深める。

2-1 事業内容

【駐大阪中国総領事館・万博推進局による講話】

①スケジュール: 令和6年12月～令和7年1月に領事へ依頼、令和7年2月に事前打合せ

②体制: 駐大阪中国総領事館、万博推進局、大阪市立日吉小学校、大阪市教育委員会

③内容: 中国の文化、中国パビリオンについての紹介、ミyakumiyak登場

日時: 令和7年3月10日 場所: 大阪市立日吉小学校 取組内容: 領事・万博推進局担当者による講話 参加者: 4年生児童180名 報道対応: なし

④効果: 領事より、中国パビリオンへの招待を受け、万博招待事業への参加についての児童の関心と理解が深まった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型:

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2-2 事業内容

【重慶師範大学附属実験小学校とのオンライン交流】

①スケジュール: 令和6年11月に領事を通じて依頼、令和6年12月に事前打合せ

②体制: 駐大阪中国総領事館、重慶師範大学附属実験小学校、大阪市立日吉小学校、大阪市教育委員会

③内容: お互いの国や文化、学校生活の様子の紹介

日時: 令和7年3月11日・12日 場所: オンライン(Teams) 取組内容: 動画による相互紹介、質問タイム 参加者: 4年生児童180名 報道対応: なし

④効果: お互いの国や文化、学校生活の様子を理解し、継続的な交流への関心・意欲が高まった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型:

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

これまで国際交流の経験のない児童にとって、中国の領事の講話を聞いたり、重慶の小学生とオンラインでつながったりした取組は貴重な経験となった。中国という国のことを、これまで教科書やメディアを通して知識を得ていたが、顔が見える交流相手と直接やりとりすることで、体験的に文化や価値観の違いを学んだり、コミュニケーション力や自己肯定感を高めたりする学びにもつなげることができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

重慶師範大学附属実験小学校の児童との継続的なオンライン交流の取組や、同じ地域にある駐大阪中国総領事館との定期的な学習交流につなげていく。

5 特に良かった点、苦労した点

●良かった点

駐大阪中国総領事館の周領事が、講話やオンライン交流のコーディネートに携わっていただいたことで、それぞれの取組が実現できた。

●苦労した点

日本(大阪市教育委員会)と中国のオンライン環境の違いにより、オンラインの相互接続が難しかった。

6 今後の展開

- ・5月14日に日吉小学校の児童180名が、万博会場を訪れ、中国パビリオンの見学を行う予定。
- ・日吉小学校と重慶師範大学附属小学校の児童間のオンライン交流を継続して行う。
- ・大阪国際交流センター等のゲストティーチャーを招いた交流を計画する。

7 今後の展開における課題

- ・交流の取組をコーディネートする担当者・事業者を立てること
- ・継続的な交流を行うための仕組みづくり



領事による講話



万博推進局による講話

大阪市交流計画の進捗状況

自治体名	大阪府大阪市
相手国・地域	ドイツ

○ 大阪市教育委員会事務局

1 背景と目標等

ア 背景と目的

大阪・関西万博の開催にあたり、地元自治体小中学校及び義務教育学校412校における機運醸成を図るとともに、大阪府教育庁による「2025年日本国際博覧会児童・生徒招待事業」への学校単位での参加に向けた事前・事後学習として国際交流の取組を位置づけることで、万博の理念やSDGsに関する共通課題についての理解を深め、持続可能な社会を担う人材の育成をめざす。

イ 目標

交流相手国関係者や児童生徒との、対面またはオンラインによる国際交流を実施することで、万博の意義をはじめ、お互いの国の文化やSDGsに関する取組についての理解を深める。

2-1 事業内容

【在大阪・神戸ドイツ総領事館による講話】

- ①スケジュール: 令和6年11月に領事へ依頼・日程調整、令和7年1月に事前打合せ
- ②体制: 在大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館、大阪国際交流センター、万博推進局、東成区役所、大阪市立大成小学校、大阪市教育委員会
- ③内容: ドイツの文化、ドイツパビリオンについての紹介、ミクミック登場、日本在住のドイツ人ゲストティーチャーによる出前授業
日時: 令和7年1月28日 場所: 大阪市立大成小学校 取組内容: 一等書記官・東成区長・万博推進局による講話 参加者: 小学生60名 報道対応: なし
- ④効果: 万博招待事業への参加についての児童の関心と理解が深まった。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型:
 - ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
 - イ 万博参加国・地域の関係者
 - ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2-2 事業内容

【大阪国際交流センターのゲストティーチャーによる講話】

- ①スケジュール: 令和6年9月～10月に大阪国際交流センターを通じて依頼・日程調整、令和6年11月に事前打合せ
- ②体制: 大阪国際交流センター、万博推進局、大阪市立大成小学校、大阪市教育委員会
- ③内容: ドイツの文化、生活の様子の紹介
日時: 令和6年11月19日 場所: 大阪市立大成小学校 取組内容: ゲストティーチャー講話 参加者: 小学生児童60名 報道対応: なし
- ④効果: ドイツの国や文化、生活の様子を理解し、国際交流への関心・意欲が高まった。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型:
 - イ 万博参加国・地域の関係者
 - ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

これまで国際交流の経験のない児童にとって、ドイツの領事館関係者や一等書記官との交流は貴重な経験となった。ドイツという国のことを、これまで教科書やメディアを通して知識を得ていたが、顔が見える交流相手と直接やりとりすることで、体験的に文化や価値観の違いを学んだり、コミュニケーション力や自己肯定感を高めたりする学びにもつなげることができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪国際交流センターのゲストティーチャー(ドイツ総領事館関係者)の児童との定期的な交流学習の取組につなげていく。

5 特に良かった点、苦労した点

●良かった点

大阪国際交流センターに登録しているゲストティーチャーが、領事館とつながりのある方で、交流の取組についてコーディネートしていただけ

●苦労した点

日本とドイツ双方の関係者と学校側の実施スケジュールの調整
ドイツ現地の交流相手校の選定

6 今後の展開

- ・5月30日に大成小学校の児童60名が万博会場を訪れ、ドイツパピリオンの見学を行う予定。
- ・可能であれば現地児童とのオンライン交流(ビデオレター交流)
- ・大阪国際交流センター等のゲストティーチャーを招いた交流を計画する。

7 今後の展開における課題

- ・交流の取組(交流相手校の選定等)をコーディネートする担当者・事業者を立てること
- ・継続的な交流を行うための仕組みづくり



一等書記官の講話



領事館員と給食交流

○ 大正区役所

1 背景と目標等

ア 背景と目的

大正区は第一次世界大戦の折、大正区の南恩加島にあった「大阪俘虜収容所」でドイツ将兵が生活をされた歴史的事実を顕彰し、ドイツとの国際交流を図るため、「大正ドイツ友好の会」が設立され、ドイツ総領事館の協力のもと平成18年2月に収容所跡地近くにある公園内に史跡碑の設置や「第九合唱」、「ドイツセミナー」の実施など交流を行ってきた。ドイツとの交流をきっかけとした地域活動は一部で継続していたが限定的な取組となっていたため、「万博国際交流プログラム」を活用し、ドイツを相手国として友好の絆を深めるとともに万博の盛り上げを図る。

イ 目標

大正区におけるドイツ文化交流イベントを通じて、地域住民に豊かな交流の機会を提供し、ドイツ文化を理解することで多文化共生への認識を高めるとともに、地域の魅力を拡充する。合わせて、地域住民の万博への来場意欲を向上させることをめざす。

2-1 事業内容

【事業名】ハンブルクの合唱団と区民合唱団「大正フロイデ」の合同公演

①スケジュール

令和6年1月 一般社団法人大阪日独協会を通じてハンブルク在住の指揮者を紹介いただく。
令和6年1月～10月 ハンブルク合唱団、大正区民合唱団「大正フロイデ」、泉尾東小学校と調整
令和6年10月 事業実施

②体制

大正区役所が主催者としてハンブルク合唱団、大正区民合唱団「大正フロイデ」、泉尾東小学校と調整のうえ実施した。

③内容

日時: 令和6年10月21日【1部】合同公演12時～13時、【2部】小学校での交流14時30分～15時30分
場所:【1部】藤井組大正区民ホール、【2部】泉尾東小学校
取組内容:大阪・ハンブルク友好都市提携35周年を記念して、ハンブルクの合唱団～コア・アンサンブル・ゲーテとその仲間たち～が来日し、区民合唱団「大正フロイデ」と合同公演を行った。合同公演終了後は区内の泉尾東小学校で児童との交流を行った。イベント参加者には万博のチラシやグッズ等の配布を行う等万博の機運醸成にも取り組んだ。
参加者:ハンブルクの合唱団～コア・アンサンブル・ゲーテとその仲間たち～と大正区民合唱団「大正フロイデ」及び泉尾東小学校の教員、児童・保護者、他コンサート観覧者 計約450人
報道対応:実績なし。区のホームページ、広報紙、ポスター・チラシ等により広く観覧者の募集を行った。

④効果

自治体内への波及効果として、イベントを通じて、ドイツ文化理解と国際交流への関心が高まった。また、相手国への波及効果として、ドイツ文化の魅力を広げる場となり、交流のきっかけを提供できた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者



ハンブルク合唱団と大正区民合唱団「大正フロイデ」合同公演



ハンブルク合唱団と泉尾東小学校との交流

2-2 事業内容

【事業名】大正EXPO「大正オクトーバーフェスト2024」

①スケジュール

令和6年6月 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館を訪問。本事業に対する協力を求め後援名義使用承認を得た。
令和6年7月 イベントの委託事業者と契約締結
令和6年10月 解散による衆議院議員総選挙の影響で急遽日程を変更。日程変更に伴い総領事館関係者が欠席
令和6年10～11月 事業の実施

②体制

大正区役所が主催者としてイベントの業務を委託。一般社団法人大阪日独協会を通じて在日ドイツ人の方達に出席いただき交流を行った。

③内容

日時: 令和6年11月10日 10時～16時(一部は10月26日 15時～16時)

場所: 大正区役所周辺

取組内容: 万博の期待感を高めるとともに、ドイツとの友好親善を図るため万博のプレイベントとしてドイツの食文化や音楽を体験できるイベントを開催。在日ドイツ人の方達にも参加いただき、舞台上でドイツのオクトーバーフェストや日本の暮らし等についてお話しいただく等イベントを通じて交流を行った。また、11月5日～10日には大正区役所内で大阪・関西万博やEXPO70に関する展示、ドイツとの歴史的なつながりを振り返りつつ、現在のドイツの文化や生活を紹介するパネル展示を実施した。

参加者: 大正区民を中心とした地域住民や在日ドイツ人 約3,000人

報道対応: 区のホームページ、広報紙、ポスター・チラシ等による広報、プレスリリースを実施した。

④効果

自治体内への波及効果として、イベントを通じて、ドイツ文化理解と国際交流への関心が高まった。また、相手国への波及効果として、ドイツ文化の魅力を広げる場となり、交流のきっかけを提供できた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者



ステージでのドイツ民謡演奏



ドイツのオクトーバーフェスト等のご紹介



大正区民合唱団「大正フロイデ」による第九演奏

2-3 事業内容

【事業名】大阪・関西万博事前学習会

①スケジュール

令和7年1月 大阪府立泉尾工業高等学校、大阪府・市万博推進局、公益社団法人2025年日本国際博覧会と調整
令和7年2月 事業を実施

②体制

大正区役所が主催し、大阪府立泉尾工業高等学校で生徒を対象に実施。大阪府・市万博推進局、公益社団法人2025年日本国際博覧会の職員に講師を務めていただいた。

③内容

日時: 令和7年2月10日 14時20分～15時10分

場所: 大阪府立泉尾工業高等学校

取組内容: 大阪府立泉尾工業高等学校の授業の一環として大阪・関西万博事前学習会を開催し大阪・関西万博の意義や概要、大阪ヘルスケアパビリオンの魅力等についてご紹介いただいた。

参加者: 大阪府立泉尾工業高等学校1・2年生の生徒・教員 約200人

報道対応: 実績なし。実施後大正区のホームページに掲載した。

④効果

生徒たちの万博やSDGsに対する興味を喚起し、参加意欲が高まった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者



講師による大阪・関西万博の概要等の説明

【事業名】ドイツ遊び体験ワークショップ

①スケジュール

令和6年12月 アイハウス多文化交流プラットフォームの「ドイツの達人」を通じて在日ドイツ人講師の参加を依頼
令和7年2月 事業の実施

②体制

大正区役所が主催し、泉尾東地域で児童の居場所づくり・こども食堂として実施されている「宿題カフェ」を活用して実施。アイハウス多文化交流プラットフォームの「ドイツの達人」と在日ドイツ人の方に講師を務めていただいた。

③内容

日時: 令和7年2月16日 11時～14時

場所: 泉尾東福祉会館

取組内容: 泉尾東地域で開催している宿題カフェの中で、ドイツの遊びやクイズ、昼食を交えた交流活動を通じて、子どもたちが楽しくドイツの文化や言葉を学べるワークショップを実施し事業を通じて交流を行った。また、参加者へ万博のチラシやグッズ配布、マクミヤクの出演等万博の機運醸成にも取り組んだ。

参加者: 児童、地域の従事者 約60人

報道対応: 実績なし。実施後大正区のホームページに掲載した。

④効果

自治体内への波及効果として、地域の文化理解と国際交流への関心が高まった。イベントを通じて、地域住民の国際意識が向上した。また、相手国への波及効果として、ドイツ文化の魅力を広げる場となり、交流のきっかけを提供できた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者



ドイツ語の学習



ドイツのボードゲームを体験

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

事業参加者へのアンケート結果では、取組の評価について90%以上の肯定的な意見が得られるなど、交流推進の手応えが感じられる。また、令和7年2月に実施した区内1,500人を対象としたアンケート調査では、万博への来場意向度が54.2%に達していることから、交流計画の目標達成に向け、順調な進捗を示しているものと考えられる。(参考：R6.12大阪府・市実施アンケートでの来場意向度 大阪府39.6%)

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後の事業継続性や自治体の地方創生への寄与の状況

1 事業継続性：閉会後の展望

万博期間中に築いたドイツとの友好関係を基礎に、将来的には区民や事業者が主体となって直接交流を行い、文化交流が進展することが望まれる。

2 地方創生への寄与

現時点ではドイツとの文化的交流を地域の発展に直接結びつけることには至っていないが、これから交流が進むことで、ドイツの文化が当区の新たな魅力の一部として活用されることが期待される。

5 特に良かった点、苦労した点

●良かった点

過去のドイツとの交流を基にした地域活動は、これまで限定的な取組であったが、今回の取組により、これまでの大正区のドイツに関わる歴史を含めて住民に認識していただける機会を創出することができた。また、大正区で初のオクトーバーフェストを開催するとともに、ハンブルクの合唱団との合同演奏を実現することができ、ドイツの魅力を以前より感じてもらうことができた。

●苦労した点

交流を進める中で、ドイツ側のどなたと連絡を取れば良いのか分からず苦労した。アフリカや中南米などの国々との交流にはコーディネーターが付き、支援があったので同様の支援があれば助かったように思う。

6 今後の展開

現在、区役所が主体となり各事業を実施しているが、将来的には区民や事業者が主体となって直接交流を行い、文化交流が進むことが理想と考える。そのために区役所は、支援を行いながら、地域住民が自発的に交流活動を行える状態をめざしていきたい。

7 今後の展開における課題

持続的な交流には、区民や事業者が自発的に交流を続けられるよう、双方のキーパーソンを見出すことが重要であるが、現時点ではそこまでいたっていない。

大阪市交流計画の進捗状況

自治体名	大阪府大阪市
相手国・地域	ベトナム

1 背景と目標等

ア 背景と目的

大阪市生野区は、5人に1人が外国人住民であり、国籍・地域は約80にのぼる。その7割近くが韓国・朝鮮籍（区内における外国人人口1位）であるが、近年はベトナム社会主義共和国からの留学生が増加し、現在ではベトナム社会主義共和国は、区内における外国人人口が2位となっている。インバウンド需要の増加など、今後さらにベトナム社会主義共和国からの住民が増えることが見込まれることから、これらベトナムとの交流を、万博を契機に復活させ、多文化共生の理解促進・まちの魅力向上に取り組んでいく。

イ 目標

万博を契機に、ベトナムとの交流を通じて、多文化共生への理解を促進し、多様な生活・食文化があるまち大阪市生野区のグローバルタウンとしての魅力とにぎわいをより高め、ひいては万博開催後も国際都市としての大阪の都市魅力の創造・発信へとつなげるとともに、両国の友好と発展に寄与する。

2-1 事業内容

【食を通じた国際文化交流イベント】

①スケジュール

令和6年2月末に交流計画を作成のうえ「万博国際交流プログラム」の登録申請を行い、第二次登録として公表済み。

令和6年4月にプロポーザル方式による事業者募集を実施。6月に民間事業者より事業提案を受け、7月に業務委託契約を締結。

②体制

業務委託による実施（発注：大阪市生野区、受注：民間事業者）

③内容

「EXPOいくの万博夜市～ベトナムフェア～」

日時：第1回：2024/12/7(土) 16:00-21:00、8(日) 14:00-21:00

第2回：2025/3/22(土)、23(日)両日とも 16:00-21:00

場所：「いくのパーク」（大阪市生野区桃谷5丁目）

取組内容：交流相手国の食文化に特化した屋台ブースやキッチンカーを出店、交流相手国の歴史や文化に触れることができるステージのイベントも実施。

参加者：区内住民を中心とし、のべ約2,500人の来場あり。

④効果

区内住民および飲食店を中心にまちの賑わい創出、多文化共生における相互理解の促進。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2(1)ア～ウから選択）

イ 万博参加国・地域の関係者

2-2 事業内容

【講演会&トークセッション】

①スケジュール

令和6年2月末に交流計画を作成のうえ「万博国際交流プログラム」へ登録申請を行い、第二次登録として公表済み。

令和6年4月にプロポーザル方式による事業者募集を実施。6月に民間事業者より事業提案を受け、7月に業務委託契約を締結。(2-1「食を通じた国際交流イベント」と同一契約)

②体制

業務委託による実施(発注:大阪市生野区、受注:民間事業者)

③内容

「ベトナムを交流相手国とした学びと相互理解」

日時:2025/3/23(日) 14:00-16:00

場所:「いくのパーク」(大阪市生野区桃谷5丁目)

取組内容:ベトナム総領事館関係者、万博関係者、相手国関係者(区内企業)・生野区長による講演およびトークセッションを開催。登壇者および来場者には、同日開催の【EXPOいくの万博夜市～ベトナムフェア～】において交流相手国の料理を無料で楽しんでいただける試食(イベント出店舗メニュー)も実施。

④効果

万博の理念や共通の課題等への理解を深めるための事前学習を含め、学びや課題の解決といった万博の理念に基づき、多文化共生への理解、国際交流などの促進

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

交流相手国の文化を身近に感じる機会となり、多文化共生への理解促進、まちの賑わい創出、地域の活性化にもつながったと考える。また、万博関係者、領事館関係者の講演を聞くことが可能な機会を創出することで万博開催に向けた事前学習を含め多文化共生の相互理解の促進にもつなげることができたことから、会期中および会期後も同程度のイベント等を継続して開催し、会期後も国際都市としての大阪の都市魅力の創造・発信、両国の友好と発展に寄与する。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博が閉会する当該年度においても、引き続き万博を契機とした多文化共生への理解促進、まちの魅力向上とにぎわいの創出を目指し、閉会後に同程度のイベントを実施する予定である。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

来場者アンケートで「ベトナムの文化を知ることができた」「ベトナム料理の多様性に驚いた」などの感想があったことから、多文化共生への理解を促すイベントとなったと考える。

●苦勞した点

講演会等開催にあたり、登壇者の選定・調整に相当時間を要したため、タイトなスケジュールのなか実施することとなった。

6 今後の展開

会期中および会期後においても、「食を通じた国際文化交流イベント」や講演会等を実施するほか、会期中においては交流相手国パビリオンを訪問し、引き続き相互の理解促進につなげる。

7 今後の展開における課題

令和7年度も、令和6年度と同一の事業者による業務委託のため、会期前と同様ではなく会期中・会期後の様々な特色を盛り込むような、イベント内容のブラッシュアップを図りたい。会期中として様々な万博関係のイベントが各地で実施される期間であることから、本事業における集客・周知の観点からより効果的な広報活動を事業者と連携して取り組みたい。



交流相手国の食を中心とした店舗で賑わう会場



ステージで交流相手国の文化を紹介



交流相手国・万博関係者による
講演会&トークセッション

堺市交流計画の進捗状況

自治体名	大阪府堺市
相手国・地域	チェコ

1 背景と目標等

ア 背景と目的

本市では、現在の人口減少、高齢化社会において、国際化を推進し、多様な文化的背景を持った人々を受け入れ、共生していくことが重要と考えており、大阪・関西万博を契機とし、チェコ共和国（以下、チェコ）出身の画家アルフォンス・ミュシャの作品をはじめ文化的なつながりの深い同国との結びつきを強化し、今後の交流深化につなげる。

イ 目標

交流事業に関わる方に、本市と結びつきのあるチェコの文化への理解を深めてもらう。また、次の時代の堺を担うこどもたちが国際社会を身近に感じ、異文化理解の促進及び多様な価値観や広い視野を養う機会を創出する。

2-1 事業内容

【外国公館職員による特別授業】

①スケジュール

在堺チェコ共和国名誉領事館と実施に向けた協議を行い、堺市内の小学校にて同館職員による特別授業を実施。

②体制

在堺チェコ共和国名誉領事館と連携し実施。

③内容

（日時）令和7年1月20日（月） （場所）堺市立大泉学園

（取組内容）こどもたちにチェコの文化や、堺とチェコの文化的つながりを名誉領事館職員から伝えることにより、次の時代の堺を担うこどもたちが国際社会を身近に感じ、多様な価値観や広い視野を養うことで、「未来に向けた行動」に繋がる機会を創出するため、在堺チェコ共和国名誉領事館と連携・協力し、市内学校で特別授業を実施。

④効果

こどもたちの国際感覚の醸成や異文化理解の促進につなげる。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2(1)ア～ウから選択）

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

2-2 事業内容

【チェコ文化の発信】

①スケジュール

令和6年度内から市内図書館と実施に向けた協議を行い、チェコ関連のブックフェアを開催。

②体制

堺市立中央図書館と連携し実施。

③内容

(日時) 令和7年3月1日(土)～3月30日(日) (場所) 堺市立中央図書館 1階ロビー

(取組内容) 市内図書館でチェコ関連のブックフェア等を実施し、チェコの歴史や文化、魅力、堺とチェコのつながりなどを発信することで市民や児童が同国をより身近に感じるよう、多角的にアプローチを実施。

④効果

こどもたちの国際感覚の醸成や異文化理解の促進につなげる。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

(なし)

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

アルフォンス・ミュシャの作品を通して堺市とチェコとはつながりを深めてきたが、万博国際交流プログラムにおける事業を実施したことにより、これまでとは異なる側面から、同国と堺市とのつながりを創出し、交流を深化させることができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後の事業継続性や自治体の地方創生への寄与の状況

- ・特別授業を通じて、児童がチェコ文化を楽しく学べる機会を提供したことで、こどもたちの国際感覚の醸成に寄与した。
- ・チェコのブックフェアにて、チェコの絵本画家や作家の作品を展示することで、市民にチェコ文化を紹介し、文化交流の促進に寄与した。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

ブックフェアについて、図書館の蔵書をテーマを決めて有効活用し、ブックリストとしてまとめたことで、来場者へ包括的にチェコ共和国及び堺市の魅力を発信できた。

●苦勞した点

特別授業について、講師と学校の日程調整がなかなか上手くいかず、調整に苦慮した。

6 今後の展開

万博国際交流プログラム事業内の大きなイベントであるカレル・チャペック「母」公演と、チェコ本国から渡航する公演関係者による学校訪問の実施に向け、引き続き同劇場並びに小学校と打ち合わせし、スムーズに開催できるよう調整を行う。その他、万博会場内で実施する堺の催事(ギャラリーEAST等)へのチェコ関係者(パビリオン運営等)に関わる方、在堺チェコ共和国名誉領事館職員等)の招待に向けて準備を進める。

7 今後の展開における課題

カレル・チャペック「母」公演において、会場である市内施設、共催者であるブルノ国立劇場や公演関係者と密に連携を行い、滞りなく実施できるように継続して調整を行う必要がある。



ブックフェアの様子



ブックフェアの様子

岸和田市交流計画の進捗状況

自治体名	大阪府 岸和田市
相手国・地域	フランス

1 背景と目標等

ア 背景と目的

岸和田市は、大阪市内から約30km、関西国際空港から約10km、大阪市と和歌山市のほぼ中間となる大阪府南部の泉南地域に位置し、古くから城下町として、泉南地域の経済・文化・行政の中心的都市として、多様性を持った調和型都市として発展してきました。市内在住の就業者のおよそ半数が市外へ通勤し、大阪都市圏の住宅都市としての特性を持つとともに、製造業や工業、農林水産業を含めた多様な産業都市となっています。2025年4月1日現在の人口は、186,038人で、65歳以上の高齢人口の割合は28.5%となっています。本市では2005年をピークに人口減少が続く見込みで、2040年には、約15万人台まで減少すると見込まれています。そのため、人口減少・超高齢社会に対応した「選択と集中」や、規模を適正化して機能を維持・充実させるダウンサイジングなど、量より質を重視したまちづくりが求められています。本市では、歴史、文化、産業等の地域資源を活かし、「笑顔にあふれ、誰もが“幸せ”を感じる都市」の実現という理念のもと街づくりを進めています。そのため、増加する外国人住民も含め、市民が多様な価値観を理解し、共生していく環境づくりのため、国際交流事業を進めています。

イ 目標

海外の多様な都市との人的交流を図り、多文化との共生社会の推進を図るとともに、環境問題などの共通課題についての課題解決型の国際交流へと発展させていくことを目標としています。

2 事業内容

【事業名】青少年海外(ラ・ロシェル市)音楽交流派遣事業

- ①スケジュール(交流計画通りに事業が進み、全て滞りなく取り組むことができた)
- ②体制(岸和田市、ラ・ロシェル市、ラ・ロシェル市潮騒協会、岸和田文化事業協会、岸和田市国際親善協会など)
- ③内容(日時:R6.12.11~R6.12.18、場所:フランス共和国ラ・ロシェル市、取組:日仏の青少年による音楽交流)
- ④効果(帰国後の成果発表会において多数の市民に参加いただき、フランスとの交流について広く周知できた。また青少年同士で作り上げるクラシックコンサートは国境や言葉の壁を越え、ラ・ロシェル市からも交流を継続していきたい申し出もあり、ラ・ロシェル市でも岸和田市への認知が増えた。)
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア〜ウから選択)
 - ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
 - イ 万博参加国・地域の関係者
 - ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

交流計画の最終目標として、本市とラ・ロシェル市との姉妹都市締結を目標としている。その為に令和6年と令和7年の相互交流の実績が不可欠で、また成果としても両都市が交流を継続する魅力を発見することができたことが一番大きかったと言える。互いに目標に向かって意識し合える関係性となり、今回の音楽交流だけではなく、別ジャンルでの交流実績も今後はより重要となるため、引き続き交流を継続することが大事である。また、青少年による交流において、将来の糧になるような大きな舞台での経験は、音楽だけでなく、今後の青少年の人生にも大きなキッカケとなることは間違いないであろう。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後の事業継続性や自治体の地方創生への寄与の状況

万博閉会後においても、事業を継続し、相互交流を通じて、多くの方に認知をしていただき、両都市の新たな交流の形を築くことができた。今後も両都市にとってよりよい関係性を築くことができるため、従来の目標である姉妹都市締結を行い、音楽交流の事業拡大、またそれ以外の新たな事業の創造に寄与し、多くの市民の参加、そして、市民の国際感覚を養うことができる。

5 特に良かった点、苦勞した点

- **良かった点** 音楽を通じて、国境や言語の壁を越え、コンサートが成立したことや、青少年同士のコミュニケーションで日ごとに絆を深めていく姿を垣間見ることができたことは、この事業の良かった点である。また派遣の成果を多くの市民が関心を持ち、実際に演奏を見ていただけたことは非常に良かった。
- **苦勞した点** フランスとの交流の中で、担当者間のやり取りが英語となり、細かいところを伝えきることができないこともあった。特に、音楽交流ということもあり、普段の青少年交流とは違い、知識や配慮することなど、色々気を付ける点が専門的になり、苦慮した。

6 今後の展開

今後の展開としては、相互交流として隔年で派遣・受入を継続的に行っていく、岸和田市とラ・ロシェル市との姉妹都市締結に向けて調整を行う。また、現在の音楽交流においても、派遣・受入の人数も増員するなどして、事業規模の拡大を目指していきたい。一人でも多くの未来ある青少年に、人生の糧となる経験をしてもらい、青少年の成長を促し、国際感覚を養ってもらいたいと思う。

7 今後の展開における課題

音楽交流を継続的に行っていくために、ラ・ロシェル市では音楽を専門にしたコンセルバトワールでの受け入れのため、現地での指導や講師勢も充実していたが、本市では現地と同等の講師の準備ができない為、練習やコンサートについては本市受け入れ時は技術面においてラ・ロシェル市より劣る。継続するためにも同じレベルでの交流が今後も求められることとなる。また滞在時間が限られ、現地の青少年とセッションを行うための練習時間を十分に確保することができなかつたので、滞在時間など互いに検討する必要がある。



ラ・ロシェル市音楽学校にてレッスン①



ラ・ロシェル市音楽学校にてレッスン②



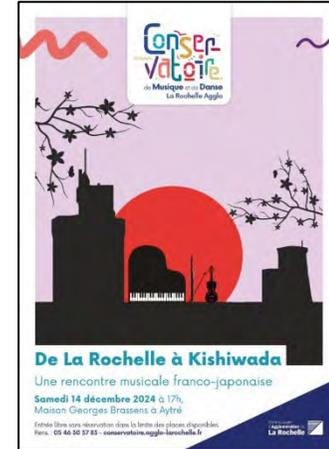
岸和田市伝統文化(だんじり)体験



日仏共演のコンサートにて①



日仏共演のコンサートにて②



コンサートフライヤー

豊中市交流計画の進捗状況

自治体名

大阪府豊中市

相手国・地域

米国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

豊中市は大阪市北部に位置する人口40万人規模の中核市。空港、鉄道、バスなどの公共交通機関が発達し、交通アクセスに優れ、早くから郊外住宅都市として発展した。昭和37年にサンマテオ市の高校生が交換留学生として日本滞在中に豊中市へ立ち寄り、住宅都市としての町の雰囲気や空港が近いなどの類似点を当時市議会議員であった父親に話したことをきっかけに、姉妹都市提携に繋がった。その後、親善使節の相互派遣や少年野球、女子ソフトボールなどの学生間交流を絶え間なく行っている。令和5年には姉妹都市提携60周年を迎え、両市長にて「教育と文化」における交流推進を共通目標に掲げ、両市学生が深く繋がるため尽力することを宣言。従来の各種交流も継続しながら、大阪・関西万博を契機に新たな交流機会を設ける。両市の中学生が環境をテーマに学び、意見交換や相互理解を進めることで、世界の共通課題を自分事として捉え、協力して改善提案し、より深い国際交流へ繋げることを狙いとする。

イ 目標

- ・従来の取組み、新規の取組みを通して、両市学生間の教育・文化における交流を促進し、国際理解と姉妹都市交流の深化に繋げる。
- ・万博の理念でもある環境課題やSDGsをテーマに学習し、両市の現状と課題について意見交換しながら、よりよい未来の実現に向けた提案を行う。
- ・大阪・関西万博への訪問を通じて、両市学生が最新技術や他国の文化に触れる体験を創出する。

2-1 事業内容

【豊中市からサンマテオ市への親善使節派遣】

①スケジュール

令和6年2月4日 親善使節選考会を開催。成績優秀者2名を親善使節に任命。

令和6年5月～ サンマテオ市とオンラインミーティング実施。親善使節2名とサンマテオ市の高校生とで、日本文化紹介の企画等について相談。

令和6年6月 派遣に係る説明会を実施。航空券等購入。ホームステイ先の選定。

令和6年7月22日～29日 親善使節2名をサンマテオ市へ派遣。

令和6年10月21日 派遣報告会の実施

②体制

豊中市、サンマテオ市、両市の姉妹都市協会

③内容

日時：令和6年7月22日～29日

場所：サンマテオ市

内容：・両市学生の交流（豊中市のプレゼン、夏祭りの再現による日本文化紹介）

・サンマテオ市ツアー（警察署、図書館、フェスティバル、日本庭園の訪問など）

・サンフランシスコの企業、大学見学

参加者：豊中市の高校生2名、サンマテオ市民30名程度（姉妹都市協会員・ホストファミリー・学生）

報道対応：なし

④効果

姉妹都市交流の認知度向上、学生間交流の促進、国際理解

⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2（1）ア～ウから選択）

イ 万博参加国・地域の関係者

2-2 事業内容

【豊中・サンマテオ姉妹親善使節選考会】

①スケジュール

令和6年10月 事前説明会
令和6年10月～12月 参加者募集
令和7年2月1日 親善使節選考会

②体制

豊中市、豊中市の姉妹都市協会

③内容

日時: 令和7年2月1日 13:00～16:00

場所: 豊中市内

内容: ・応募者が英語によるスピーチ・パフォーマンス発表を行い、成績優秀者から2025年の親善使節2名を選考
・万博を契機に行う新規交流の参加者募集のため、万博関係者による講演を実施
・上記をオンライン配信し、サンマテオ市からも視聴可能とした

参加者: 豊中市在住・在学の高校生、姉妹都市協会員、万博関係者、豊中市民、サンマテオ市民

報道対応: なし

④効果

姉妹都市交流の認知度向上、学生間交流の促進、万博への理解促進・機運醸成

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

両市学生間の教育・文化における交流促進に資する内容であり、姉妹都市交流の深化に寄与している。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後の事業継続性や自治体の地方創生への寄与の状況

新規の取組みは大阪・関西万博会期中に実施。

従来の取組みの中で、姉妹都市交流の継続及び万博の機運醸成に努め、万博閉会後にも交流を担う人材を育成することに寄与している。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

オンラインを活用して派遣前からサンマテオ市との交流を開始し、学生が自発的に学生間交流促進の取組を企画・実行できた。
豊中で行う親善使節選考会の様子を初めてオンライン配信し、サンマテオ市民にも発表内容や万博についてのPRを届けることができた。

●苦勞した点

ホリデー時期の派遣であったので、ホームステイ先の調整に苦慮した。

6 今後の展開

令和6年度・令和7年度の親善使節は万博会期中の新規交流事業にも参加し、両市中学生の交流をサポートしながら姉妹都市の友好を深めてもらう。
令和7年度親善使節は万博会期後に派遣を予定しているため、会期中の交流経験を踏まえてサンマテオ市へでの学生間交流へ生かす。

7 今後の展開における課題

親善使節の任期終了後に継続的に姉妹都市交流に関わってもらえる仕組みづくり。(大学進学などで関西を離れ、関係が途絶えてしまうケースが多い)



豊中からサンマテオへの親善使節派遣 サンマテオ市での交流の様子



豊中・サンマテオ姉妹都市親善使節選考会

1 背景と目標等

ア 背景と目的

吹田市は、北大阪健康医療都市(以下「健都」という。)を中心とした健康・医療のまちづくりを重点取組の一つに挙げており、スイスでも同様に健康寿命の延伸に係る取組を進めている。スイスの高い技術や健康寿命に係る両国の取組などを中心に交流を進めることにより市の健康・医療のまちづくりを推進すること、また文化的な交流を行うことにより市民の国際理解を進めることを目的にしている。

イ 目標

スイス企業の製品について、健都等で実証事業を行い、市民に最先端の技術に触れて未来社会を体験してもらうとともに、市民の健康・医療に関する関心を高める。また、スイスとの文化的交流を通して、市民の国際理解を進めるとともに、公用語が4つあり、様々なバックグラウンドを持つ人々が暮らすスイスのことを学ぶことで多文化共生に対する市民の理解を深化させる。

2-1 事業内容

【事業名】スイス文化に関する事業

①スケジュール

令和6年5月 在大阪スイス領事館へ市報10月号で取材させてほしい旨の打診

令和6年6月 取材可の連絡をもらい、7月に広報課と下見を行う。

令和6年8月 取材

令和6年9月下旬 市報10月号発行

②体制

在大阪スイス領事館領事他／吹田市シティプロモーション推進室職員／吹田市広報課職員

③内容

日時：令和6年8月7日(水) 場所：在大阪スイス領事館

取組内容：市報10月号の特集「子ども記者による万博特集」の一環で、吹田市内小学生の中から子ども記者を公募し、選ばれた子ども記者と吹田市職員で在大阪スイス領事館を訪問。在大阪スイス領事、及びスイス領事館職員によるスイスという国の紹介及びスイスパビリオンの紹介をもらい、子ども記者からの質疑応答。その後、子ども記者による記事をまとめ、市報10月号として発行。

市報10月号が、令和6年全国広報コンクール読売新聞社賞受賞。

参加者：吹田市内小学生 5人、在大阪スイス領事、在大阪スイス領事館職員

④効果

子ども記者からは、万博へ行きたいや、万博へ行ったらスイスパビリオンへ行きたい等の感想があった。また、他のイベントのように限られた人だけではなく、広く市民へスイスやスイスパビリオンについて広報することができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者

2-2 事業内容

【事業名】スイス文化に関する事業

①スケジュール

令和5年度 講師である国際夫婦漫才師のフランポネより打診があり、令和5年度2月に漫才講座を開催
令和6年5月～ フランポネへ今年も開催したい旨のメール送付し、オンラインでのミーティングを複数回開催
令和6年7月 市内小中学校へ照会/スイスの小学校とオンラインでつないで交流ができないかと相談
令和6年9月 開催学校決定
令和6年10月ごろ スイスの小学校に勤務する日本人の先生を紹介してもらい、開催についての話をする
令和11月～ 学校での漫才講座開始/スイスとオンライン交流のためのオンラインミーティング数回開催

②体制

吉本興業所属 フランポネ/吹田市立千里第三小学校、吹田市立西山田小学校、吹田市立西山田中学校担当教諭/スイスの小学校教諭(日本人とスイス人)
/吹田市シティプロモーション推進室職員

③内容

日時: 令和6年11月27日(水)～令和7年1月29日(水) 場所: 吹田市立千里第三小学校、吹田市立西山田小学校、吹田市立西山田中学校、メイシアター
取組内容: 日本人とスイス人の夫婦漫才師による英語漫才作成講座及びスイス講座
※メイシアターでは、スイスの小学校とオンラインで繋ぎ実施。オンラインでの交流の際には、スイスと吹田市それぞれの街を紹介し、スイスに関するクイズ大会ではスイスの児童が正解を教えるなどの交流を実施。
参加者: 吹田市内児童 約290人

④効果

スイスに興味を持ち、スイスのことについてもっと知りたいとの意見が多数あった。また、国際交流をしたいとの意見も多数あった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者

2-3 事業内容

【事業名】スイス文化に関するイベント

①スケジュール

令和6年6月 大阪大学の哲学カフェ担当者と2025年日本国際博覧会協会推進室副室長へ令和6年度も哲学カフェを実施したい旨の交渉を行い、実施日・内容を決定。(9月開催分)

～令和6年9月 実施までに、日本国際博覧会協会の方も登壇できるかなどの調整。

令和6年9月 大阪大学の哲学カフェ担当者と共に、大阪大学のスイス出身経済学教授に12月の講演会及び1月の哲学カフェへの登壇依頼をし、大まかな内容を決定。

～令和7年1月 実施までにメールで連絡を取り合い、内容など決定。

②体制

大阪大学 哲学カフェ担当者／大阪大学 2025年日本国際博覧会推進室副室長、スイス出身経済学教授／日本国際博覧会協会共創推進課職員／吹田市シティプロモーション推進室職員

③内容

日時:1.令和6年9月25日(水) 19時～21時 2.令和7年1月24日(金) 19時～21時

場所:1.2. PARK CAFÉ BRANCO

取組内容:大阪大学が行っている哲学カフェを共催で行った。1.のテーマは「大阪関西万博 ぶっちゃけトーク」とし、大阪大学の2025年日本国際博覧会推進室副室長・特任教授と日本国際博覧会協会の方による講演。2.のテーマは「なぜスイスの企業は高いものが売れるのか」をテーマに、大阪大学のスイス出身の経済学教授による講演

参加者:1.吹田市民他 33名 2.吹田市民他 25名

④効果

1. 万博へ興味がなかった人が、博覧会協会の人による見どころなどを聞き、万博へ興味を持った・行きたいと思ったとの意見があった。

2. スイスへの興味を持った人が増え、実際にスイスへ行きたいやさらにスイスとの交流をしたいという意見が多数あった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2-4 事業内容

【事業名】スイスの文化に関する事業

①スケジュール

令和6年7月 大阪大学のスイス出身経済学教授に連絡。

令和6年9月 大阪大学の哲学カフェ担当者と共に、12月の講演会及び1月の哲学カフェへの登壇依頼。

～令和6年12月 実施までにメールでやり取りし、内容決定。

②体制

大阪大学 スイス出身経済学教授／吹田市シティプロモーション推進室職員

③内容

令和6年12月21日(土)13:30～15:30 メシアターレセプションホール

取組内容:国際交流プログラムの説明。大阪大学のスイス出身経済学教授による「スイスはなぜ世界でも豊かな国なのか」についての講演。

参加者:吹田市民56名

④効果

スイスと言えば、チーズやハイジなどを思い浮かべる方が多い中、スイスが豊かな国へなった理由やスイスの物価の高さ、スイス文化への理解が深まった。また、スイスでの経営の考え方など、日本と違う考え方に触れることができ、文化の違いなどの理解が深まったとの意見があった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

スイス出身の経済学教授による「国際理解講演会」にてスイスについての講演会をしてもらい、スイスの文化や考え方について深く理解できたなどのアンケートをもらった。大阪府と同じ人口のスイスが経済的に発展し、豊かな国になった経済のしくみや企業の考え方などをお話していただいたので、「ハイジの国」や「永世中立国」以外のスイスを理解することができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後の事業継続性や自治体の地方創生への寄与の状況

哲学カフェは、市民の方に大変好評だった。令和7年度は、在日スイス大使館との文化交流を予定をしており、大阪大学との繋がり、スイス領事館との繋がりを今後も活かして市民が興味を持てるイベントなどを続けていきたいと考えている。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

実際にスイス出身の方に、スイスという国や文化について話してもらうことで、スイスについての理解がより深まった。また、2025年大阪・関西万博に関わっている大阪府市万博推進局の方に来ていただき、2025年大阪・関西万博の見どころを話してもらうことで機運醸成に寄与した。

●苦勞した点

調整に時間を要し、当初予定していたライフサイエンス・ヘルスケア分野に関する事業を令和6年度に行うことは出来なかった。但し、令和6年度内に、スイスのスタートアップ企業とコンタクトを取るなどの調整を進め、令和7年度に当該事業を行うこととなった。

6 今後の展開

ライフサイエンス・ヘルスケア分野での交流としては、スイスのスタートアップ企業の製品の実証を4月に実施(対象:研究者、市職員)。その後、相手企業担当者が再来日するときに市民を対象とした実証事業の実施について検討する。

文化交流としては、在日スイス大使館職員による学校交流を実施予定。スイスという国や文化についてのプレゼンテーションなどをしてもらう。また、スイスへ出張予定の団体に日本の学校で作成したものを持って行ってもらい、さらにスイスで完成させてもらい持って帰って来てもらうようなことを考えている。

「平和シンポジウム～調和のとれた社会とは(仮)」と題しシンポジウムを開催予定。世界の紛争状況や様々な主体による取組、またスイスにおける和平仲介などの取組を知るとともに、日本ができることや市民ができることについて考えるシンポジウムを考えている。

7 今後の展開における課題

「6 今後の展開」に記載している事業を進めるにあたっては、大阪・関西万博に関する様々な事業が同時並行で進んでいるため、マンパワー等の課題がある。



哲学カフェで2025年万博のみどころなどの解説



哲学カフェにてスイスの経済等についての解説



スイスと大阪府を比べながら、スイス等の紹介

八尾市交流計画の進捗状況

自治体名

大阪府八尾市

相手国・地域

中国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

本市は他の自治体と比較して外国籍市民がたくさん住むまちであり、地域に暮らす外国人市民との共生を進めることが必要である。また、本市の外国籍市民のうち、中国籍の方が約23%と3番めに多いことから、中国の文化や習慣を理解することは本市の多文化共生推進に大きく寄与するものと考えられる。

イ 目標

国家間の関係に左右されない市民レベルでの交流や国際感覚の豊かな人材育成、多文化理解により広がりのある地域社会の形成をめざす。

2-1 事業内容

【八尾市青少年交流団派遣前ワークショップ事業(令和6年度事業)】

- ①スケジュール: 2024年8月23日(金)、9月6日(金)、10月12日(土)
- ②体制: 万博の共創パートナー「株式会社小学館集英社プロダクション」と協働で実施
- ③内容: 上海市嘉定区へ派遣される八尾市の中学生9名に対して、社会見学やSDGsについて学ぶ・考えるワークショップを開催。ワークショップでは、上海市の子どもたちとメタバースを活用したオンライン交流を取り入れて実施した。
- ④効果: 子どもたちがワークショップを通じて、万博の意義やテーマを学んだことで、上海市嘉定区に対して万博のPRをする準備ができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型:
 - イ 万博参加国・地域の関係者(上海市の中学生たち)
 - ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者(万博の共創パートナー「株式会社小学館集英社プロダクション」出展企業「藤田金属株式会社」)

2-2 事業内容

【八尾市青少年交流団派遣事業(令和6年度事業)】

- ①スケジュール: 2024年11月13日(水)から16日(土)まで
- ②体制: 上海市嘉定区人民政府外事弁公室と調整
- ③内容: 八尾市の中学生9名を青少年交流団として上海市嘉定区へ派遣。現地では、2017年に開館した万博をテーマとした博物館である「上海万博博物館」を訪問し、2010年に開催された上海万博だけでなく、これまでに開催された万博の歴史や資料を学ぶことができた。また、上海師範大学付属第5実験学校を訪問し、中国の学校生活を体験。八尾市からは万博の理念であるSDGsについてプレゼンテーションを行った。
- ④効果: 学校訪問やホームビジット等を通じて子どもたちだけでなく幅広く相互理解や国際親善を深めることができた。また、大阪関西EXPOのPRを行ったことで、上海市嘉定区の人たちにも興味を持ってもらうことができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型:
 - ア 万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者(駐大阪中国総領事館 郭領事等)
 - イ 万博参加国・地域の関係者(上海市嘉定区役所の職員、上海師範大学付属第5実験学校の関係者等)

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

新型コロナウイルス感染症の影響を受けてストップしてしまっていた人的交流事業が令和6年度から再開でき、令和7年度につながる事業展開ができた。また、万博の共創パートナーと協働で取り組んだことで、メタバースを活用したオンライン交流など交流の機会を増やすことができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

上海市嘉定区とは1986年に友好都市提携をし、2010年の上海万博には八尾市が招待され、令和8年度で40周年を迎える。万博を契機として、これまでの友好関係を祝賀し、連携強化を図ることで、次の50周年につなげていく。

5 特に良かった点、苦勞した点

- **良かった点** オンライン交流という、これまでと違う形で上海市嘉定区と交流を進めることができた。
万博PRを含めた交流ができたことで、相手国にも万博開催を強く意識してもらうことができた。
- **苦勞した点** 万博の理念である「SDGs」は中国では一般的でないことから、理解してもらうことが難しかった。

6 今後の展開

令和6年度の青少年交流団派遣事業により、令和7年度の万博招聘につなげることができた。令和7年度の上海市嘉定区訪問団受入れ事業では、万博を通じて本市の文化的魅力を中心に感じてもらい、今後の交流を発展 また、青少年交流団TEAMEXPO発表事業では、令和6年度の交流事業が活かされるよう取り組んでいく。

7 今後の展開における課題

八尾市では、万博期間中に、地元発祥の河内音頭やものづくり、食文化、文化芸術などたくさんの魅力発信を行う。3泊4日という短い期間の中で、いかに効率よくそれらを伝え、共有し、文化や観光分野にまで交流の幅を広げられるかが課題である。



上海万博博物館での見学



嘉定区副区長にミャクミャクぬいぐるみを贈呈



上海師範大学第5実験学校でプレゼンテーション

八尾市交流計画の進捗状況

自治体名

大阪府八尾市

相手国・地域

米国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

本市は他の自治体と比較して外国籍市民がたくさん住むまちであり、地域に暮らす外国人市民との共生を進めることが必要である。本市は姉妹都市ベルビュー市と50年以上にわたり交流をしているが、新型コロナウイルス感染症の影響や相手側の事情により交流が停滞しており、万博を契機として交流を活発化させたい。

イ 目標

市民レベルでの交流の活発化や国際感覚の豊かな人材育成、多文化理解により広がりのある地域社会の形成をめざす。

2 事業内容

【ビデオメッセージ制作事業】

動画▶ <https://www.youtube.com/watch?v=a0XyPNbeJKY>

- ①スケジュール： 2025年1～2月
- ②体制： 在シアトル日本国総領事館と調整
- ③内容： 八尾市が大阪関西万博で発信する魅力や万博の魅力をPRするため、ビデオメッセージを制作。2月20日に在シアトル日本国総領事館で行われる天皇誕生日祝賀会で放映してもらう。
- ④効果： 天皇誕生日祝賀会に出席した多くの人たちに見ていただくことができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型：
イ 万博参加国・地域の関係者(シアトル総領事館主催の天皇誕生日祝賀会出席者)

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

令和6年度に予定していた事業ができなかったことで、思うような成果は得られていない状況ではあるが、継続して相手側に働きかけを行っていく。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

八尾市では、万博期間中に、地元発祥の河内音頭やものづくり、食文化、文化芸術などたくさんの魅力発信を行う。3泊4日という短い期間の中で、いかに効率よくそれらを伝え、共有し、産業・経済にまで交流の幅を広げられるかが課題である。

5 特に良かった点、苦労した点

- 良かった点 八尾市の万博出展企業も交流の発展に協力的な姿勢を示してくれていることから、協力して取り組む体制がある。
- 苦労した点 ベルビュー市には明確な担当者が配置されていないことから、円滑な連携を図ることが困難である。

6 今後の展開

引き続き、万博招聘を呼びかけていき、受入れ時には、万博を通じて本市のモノづくりの魅力を中心に感じてもらい、交流の幅を産業分野にまで広げ、産業・経済の活性化につなげていく。

7 今後の展開における課題

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて停滞している交流事業を、万博を契機として、本市のモノづくりの魅力を感じてもらうことで、産業や経済分野での交流発展をめざし、姉妹都市関係を活性化していく。



八尾市長ほか3名がベルビュー市へメッセージ



ビデオでも万博をPR

富田林市交流計画の進捗状況

自治体名	大阪府富田林市
相手国・地域	米国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

本市では、本市総合ビジョン及び総合基本計画において、「多文化共生と国際交流のまちづくり」を施策のひとつとして掲げている。2024年度は姉妹都市提携60周年の節目の年であり、大阪・関西万博を契機に、例年行ってきた事業をさらに深化させた取り組みを行うことで、万博の開催に向けた機運の醸成を図るとともに、本市における国際交流や多文化共生を推進し、地域のさらなる活性化を目指す。

イ 目標

国際交流をきっかけに多様性への理解と、国境を越えて取り組むべきSDGsの目標についての興味・関心を広げていく。

(2) 1 事業内容

【姉妹都市提携60周年記念事業の実施とさらなる多文化共生推進の取り組み:ベスレヘム市からの交換学生と小中学生との英語交流会】

- ①スケジュール 広報やポスターにて令和6年7月1日から19日まで募集。
- ②体制 市及び富田林・ベスレヘム姉妹都市協会、ベスレヘム市、ベスレヘム・富田林姉妹都市協会、万国博覧会協会
- ③内容 令和6年7月30日、すばるホール内小ホール、交換学生との英語を使った交流及び万国博覧会協会からの大阪・関西万博紹介。市内在住・小中学生
- ④効果 国際交流の機運や万博への期待が高まった。交換学生を通じてベスレヘム市への万博のPRにつながった。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
 - イ 万博参加国・地域の関係者
 - ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

(2) 2 事業内容

【姉妹都市提携60周年記念事業の実施とさらなる多文化共生推進の取り組み:モラビアン大学学長との懇談会】

- ①スケジュール 姉妹都市提携60周年を記念し、ベスレヘム市にあるモラビアン大学学長がベスレヘム市長の使者として訪問。
- ②体制 市及び富田林・ベスレヘム姉妹都市協会、ベスレヘム市、モラビアン大学
- ③内容 令和6年8月6日、市庁舎、両市の交流の歴史や教育分野について懇談。ベスレヘム市からの交換学生及び②と同じ
- ④効果 国際交流の発展や万博への期待が高まった。ベスレヘム市についてはモラビアン大学への万博のPRにつながった。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
 - イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー3 事業内容

【姉妹都市提携60周年記念事業の実施とさらなる多文化共生推進の取り組み:両市のオンライン交流会】

- ①スケジュール 姉妹都市提携60周年を記念し、両市と両市議会、両協会が交流。
- ②体制 市及び市議会、富田林・ベスレヘム姉妹都市協会、ベスレヘム市、ベスレヘム市議会、ベスレヘム・富田林姉妹都市協会
- ③内容 令和6年12月13日、市庁舎、両市のこれまでの交流や国際交流、万博について懇談と意見交換。②と同じ
- ④効果 国際交流の発展や万博への期待が高まった。ベスレヘム市及びベスレヘム・富田林姉妹都市協会への万博のPRIにつながった。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
 - イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

世界各地で様々な対立が発生している中、自治体間によるお互いの文化や伝統を尊重した交流、友好関係を改めて確認し、両市の更なる交流と友好親善が深まった。また、取組みを通じて「富田林・ベスレヘム姉妹都市協会」と連携して実施してきた、市民が主体となった国際交流がさらなる発展を遂げ、市民の国際意識が高まることにより、万博への期待も高まった。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後も引き続き交流は続くことから、今後も友好親善を続け、市民が主体となった国際交流を育んでいく。また、日本に在住する外国人市民は増加傾向にあり、市民の国際意識の醸成に寄与するものとなっている。

5 特に良かった点、苦勞した点

- 良かった点
市民が主体となった国際交流が進展し、米国ベスレヘム市や本市への理解が深まった。
- 苦勞した点
米国ベスレヘム市との調整。(時差や英語でのやり取り)

6 今後の展開

本市から米国ベスレヘム市へ派遣する交換学生が万博・米国パビリオンを訪問し、パビリオン関係職員と互いの国の文化やSDGs、米国パビリオンの主旨等について理解を深める交流会を行い、派遣後には、日本の文化や歴史、大阪・関西万博の魅力をベスレヘム市へ紹介することにより、お互いの文化の理解とさらなる国際交流を深める。
また、万博終了後には、富田林・ベスレヘム姉妹都市協会が主催する英語交流会において、万国博覧会協会から、万博の開催によって進んだ国際交流について講演いただき、市民の国際意識をさらに醸成させる。

7 今後の展開における課題

担当者は領事館より紹介いただいたが、繁忙なため相手方の米国パビリオンとの調整が進んでいない。



小中学生との英語交流会



モラビアン大学学長との懇談会



オンライン交流会

河内長野市交流計画の進捗状況

自治体名

大阪府河内長野市

相手国・地域

米国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

本市は、1994年4月に米国カーメル市と姉妹都市提携を行い、以後、子ども絵画交換やカーメル国際アートフェスティバルへの参加、カーメル市民との交流会など様々な交流活動を進めてきた。2024年に姉妹都市提携30周年を迎えるにあたり、万博を契機として、カーメル市とのつながりを深め交流の活性化を目的とする。

イ 目標

子どもから高齢者まで多世代の多くの市民が世界の文化や芸術にふれるとともに、河内長野市の魅力を発信し、万博後もレガシーとなることを期待する。

2-1 事業内容

【カーメル市への交流使節団の派遣】

- ①スケジュール 姉妹都市提携30周年を迎えるにあたり、令和6年4月にカーメル市より招待があるとの情報を得た。そして令和6年7月に正式に招待状が届き、9月に渡航することが決定した。
- ②体制 米国 カーメル市
- ③内容 令和6年9月26日～10月2日にカーメル市への交流使節団を派遣した。カーメル市の視察を行うとともに、カーメル国際アートフェスティバル等に参加し、河内長野市の文化、観光資源、特産品のPRを行うなど、カーメル市民と交流を図った。
- ④効果 姉妹都市関係の強化・発展および河内長野市の文化・観光資源・特産品のPRを行うことによる相互理解の促進。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型 イ 万博参加国・地域の関係者

2-2 事業内容

【カーメル市からの交流使節団受入れ】

- ①スケジュール 姉妹都市提携30周年記念として、河内長野市で11月17日に開催した多文化交流イベント「世界ごった煮フェス」にカーメル市民を招待。
- ②体制 米国 カーメル市
- ③内容 令和6年11月15日～19日にカーメル市からの交流使節団の受け入れを行った。カーメル市民に「世界ごった煮フェス」に参加してもらい、ブース出展を行うなど本市市民と交流を図った。また、本市の観光、文化に触れ、体験してもらった。
- ④効果 姉妹都市関係の強化・発展および多くの河内長野市民が世界の文化に触れることができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型 イ 万博参加国・地域の関係者

(2)―3 事業内容

【日本の万博関係者による講演会】

- ①スケジュール 万博の機運醸成のために、河内長野市で毎年開催している多文化交流イベント「世界ごった煮フェス」に合わせて万博関係者による講演会を企画した。
- ②体制 博覧会協会副会長 ウスビ・サコ氏
- ③内容 令和7年2月16日に博覧会協会副会長ウスビ・サコ氏を講師として招き、万博に関する理念や世界情勢などに関する講演会を開催した。
- ④効果 万博の機運醸成や市民の万博への参加促進等を図った。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型 ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

カーメル市と姉妹都市提携して30年が経過し、毎年子ども絵画交換等は継続して行われていたが、その他の交流を深める機会が少なかった。今回、相互に訪問を行い交流を行ったことで、つながりを再確認でき、今後の友好関係の継続・発展に大いに貢献した。また、カーメル市民が「世界ごった煮フェス」に参加し、自国の紹介等を行ったことで、河内長野市民が世界の文化に触れ、米国に対する興味・関心が高まった。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

今回、カーメル市と河内長野市で対面での交流を行ったことで、姉妹都市関係がより強固なものとなり、引き続き市民による草の根交流が続いていくことが期待される。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

河内長野市とカーメル市にお互いに訪問したことで、現地の文化や芸術を生で感じ取ることができ、相手国への深い理解の機会となった。

●苦勞した点

カーメル市とのやり取りが大変であった。姉妹都市としての両市の窓口はあるものの、調整が進まず、準備が直前になることがあった。

6 今後の展開

今後も継続して、カーメル市との交流を図り、相互理解を深め、活性化を図る。

7 今後の展開における課題

姉妹都市関係の継続の重要性を示し、交流を継続するための財源確保が必要となる。



カーメル国際アートフェスティバルでの交流の様子

松原市交流計画の進捗状況

自治体名

大阪府松原市

相手国・地域

オーストラリア

1 背景と目標等

ア 背景と目的

松原市は英語圏との交流がなく、学生の国際交流先として英語圏との交流先を探したところ、松原市と同じくセーフコミュニティ活動に取り組むオーストラリア ムーニーバレー市と交流を持つことで、松原市の学生の国際感覚の醸成に寄与することを目的とする。

イ 目標

交流計画を実施するにあたり、今後も継続して学生間の交流を持つことに加え、松原市とムーニーバレー市間を学生が行き来し合える形を目標とする。

2 事業内容

【ムーニーバレー市 渡航】

- ①スケジュール 令和7年3月24日～3月30日
- ②体制 松原市の高校生10名 ムーニーバレー市長および市議 ムーニーバレー市の若者団体Valley Youth 4名
- ③内容 Valley Youthとの活動発表会、交流会、ムーニーバレー市視察
- ④効果 高校生10名の国際感覚の醸成。ムーニーバレー市長表敬により今後の交流について懇談。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

ムーニーバレー市長表敬を行い、今後学生が行き来するような交流を提案。ムーニーバレー市の議会で議題に挙げる予定。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後の事業継続性や自治体の地方創生への寄与の状況

万博を機にオーストラリア ムーニーバレー市との関係性を構築したことにより、松原市在住の若者の国際感覚の醸成や多文化理解に繋がることから、松原市への郷土愛も強めることになり、松原市の多文化共生も含め若者の育成につながる。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

時差が4時間と少ないことから、連絡が取りやすかった。

●苦勞した点

初めて連絡を取る際に、日本のメールアドレスだと不審に思われ、担当者にメールを送ってもなかなか返信をもらえなかった。

6 今後の展開

学生間の交流の機会を増やすため、オンライン交流を実施。

7 今後の展開における課題

ムーニーバレー市では市長が毎年変わるため、協定などを結ばないと市長が変更された際に関係がリセットされてしまう可能性がある。



Valley Youthとの交流



Valley Youthへ万博についてプレゼン



ムーニーバレー市長、市議表敬

松原市交流計画の進捗状況

自治体名

大阪府松原市

相手国・地域

韓国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

本市の重点課題である「子どもの安全」「高齢者の安全」「交通安全」「犯罪の防止」「自殺予防」「災害時の安全」をテーマに、すべての年齢・性別・環境・状況（外国人や障害者などの要配慮者含む）を網羅する長期的・継続的な予防活動や課題解決の方策（セーフコミュニティ活動）の取組について、海外の地域との情報共有や意見交換、異文化交流を行うことにより、本市の安全対策の向上や相手国との安心・安全な交流を深めることに加え、次世代を担う若者を対象に国際感覚の醸成も目的とした事業を実施する。

イ 目標

韓国の都市の状況や課題解決の方策について意見交換の場を設け、互いに優れた取組を幅広く取り込むとともに、文化を含めた相互理解を進める。

2-1 事業内容

【韓国自治体視察】

- ①スケジュール 令和6年7月8日～11日
- ②体制 セーフコミュニティ(SC)に取り組む松原市長、亀岡市長、十和田市長で日本視察団を結成。
- ③内容 同じく韓国でSCに取り組む光明市、順天市、金海市を視察し、現地での安心安全なまちづくりの取組の日韓の違いなどを学び、今後の取組の参考とした。
- ④効果 その後、金海市と友好交流を深める機運が進み、令和7年2月に松原市と金海市の間で「国際安全都市相互交流に関する合意書」を締結するに至った。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
イ 万博参加国・地域の関係者

2-2 事業内容

【国際安全都市相互交流に関する合意書締結】

- ①スケジュール 令和7年2月1日
- ②体制 松原市文化会館で開催した「松原市市制施行70周年記念式典」に、金海市から副市長はじめ7名が参加。
- ③内容 松原市市制施行70周年記念式典に引き続き行われた合意書締結式において、松原市長と金海市副市長が合意書に署名し、国際安全都市として今後の相互交流を行うことが確認された。
- ④効果 今後、双方の自治体により安心安全なまちづくりの推進に資するための情報提供、意見交換の場を設定することができる。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

韓国の都市の状況や課題解決の方策について意見を交換し、互いに優れた取組を幅広く取り込むとともに、文化を含めた相互理解を進める土台ができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

金海市と令和7年2月に「国際安全都市相互交流に関する合意書」締結したほか、韓国の多くの自治体との交流から、多くの課題に対する様々な視点でのアプローチ方法を学ぶとともに、市民間や企業間の交流へ発展させるための基礎及び将来に向かって良好な関係を構築するための土台づくりができた。

5 特に良かった点、苦労した点

●良かった点

それぞれの行政課題に対しての取組みの考え方を聞いたことが今後の大きな参考となった。

●苦労した点

海外の担当者との日程や行程の事前調整に苦労した。

6 今後の展開

今回の万博国際交流プログラムを契機に出会った多くの海外の人との交流を深め、相互の安心安全なまちづくりを進めるほか、教育や産業など多方面の交流への発展を研究する。

7 今後の展開における課題

行政間の交流を、市民や企業レベルの交流に広げること。



泉南市交流計画の進捗状況

自治体名	大阪府泉南市
相手国・地域	フィリピン

1 背景と目標等

ア 背景と目的

市域に関西国際空港を含む泉南市は空の玄関口・国際交流の窓口となっており、日常の中でいろいろな国や地域にルーツを持つ方々に出会う機会、コミュニケーションをとらなければならない機会が増えている。

本市は、2023年4月にフィリピン共和国ダバオ市と姉妹都市協定を締結したことをきっかけに両市間における交流を加速している。また、交流においては、2025年に開催される大阪・関西万博（以下、万博）の周知啓発・機運醸成に資する内容となるよう、万博に関連付けた取り組み（テーマやSDGs等）を併せて行っている。

現在、フィリピン共和国ダバオ市では豊かな海洋環境を有する一方、経済発展に伴い都市廃棄物が増加し、都市環境の保全対策等環境面に関心を寄せている。さらに、フィリピン共和国法において、ダバオ地方を「カカオ・キャピタル」、ダバオ市を「チョコレート・キャピタル」と宣言されるほどカカオ豆の生産が盛んである一方で経済格差などの問題を助長している。

子どもたちには、このような共通する地域の課題等への理解やこれから益々発展する国際社会に向けて、多文化への理解を深めるための環境が必要となっている。

イ 目標

教科書だけでは身に付けることができない、広い視野や異文化への理解・尊重する気持ちを、泉南市とダバオ市で育つ子どもたちに、自然なもの・身近なものとして身に付けてもらい、未来の選択肢を増やしてもらおうべく、事業を実施する。

2-1 事業内容

【事業名】 在大阪フィリピン共和国総領事館主催のナショナルデーイベントに参加

①スケジュール

2024年6月12日 在大阪フィリピン共和国総領事館主催ナショナルデーレセプション招待

②体制

市国際交流担当課、万博担当課 在大阪フィリピン共和国総領事館

③内容

2024年6月12日に大阪市内において開催されたナショナルデーイベントへは市長公務のため、参加できず。

別途、夢洲新産業・創造機構第5回公式参加国フォーラム（6月25日）及び在大阪フィリピン共和国総領事館主催のパビリオンお披露目式（7月24日）に参加。パビリオンお披露目式については、市長SNS投稿、市ホームページにて紹介。

④効果

会場では、フィリピン共和国総領事館関係者と直接挨拶を交わすことができ、今後の事業への協力依頼を行った。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2（1）ア～ウから選択）

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2-2 事業内容

【事業名】万博推進事業「オンライン国際交流プログラム事業」

①スケジュール

2024年11月 市内小中学校、現地学校との調整開始

2025年1月～2月 報道機関へ情報提供、オンライン交流実施開始

②体制

市教育委員会、万博担当課、市内4小中学校、(株)With The World(委託事業者)、フィリピン日系人会国際学校等現地学校

③内容

本市小中学生とPhilippine Nikkei Jin Kai International School(フィリピン日系人会国際学校)はじめ現地学校の児童・生徒とのオンライン交流

【日時・参加者】 4小中学校、8日間、164名

西信達中学校生徒会(9名) 2月6日・28日

信達小学校(100名) 2月14日・18日

新家東小学校(22名) 1月27日・2月25日

鳴滝小学校(33名) 1月21日・2月4日

【取組内容】

オンラインを通じた相手国現地児童・生徒との交流(言語交換、自国や市の紹介、発表など学年や参加人数に合わせ調整)

④効果

事前のアンケートでは海外の方との交流は初めてだが、海外の人と友達になりたいという児童・生徒が多かった。

初めての海外の方と直接オンラインで交流できる機会を得ることができ、初めは緊張していた子どもだが、フィリピンの文化、生活などを直接聞くことができ、また日本の文化や魅力を発信することで、お互いに異文化の理解を促進できた。またフィリピン共和国ダバオ市に行ってみたい、日本に招待したいなど国際交流への意欲をより一層高めることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2-3 事業内容

【事業名】万博推進事業イベント「SENNAN PHILIPPINE EXPO」

①スケジュール

2025年2月 関係機関等調整開始
2025年3月22日 イベント開催

②体制

市国際交流担当課、万博担当課、(株)SAI(委託事業者)、NPO法人 Papa Kimi Foundation Inc、H&L、在大阪フィリピン共和国総領事館観光部

③内容

万博の機運醸成、フィリピン共和国・ダバオ市の文化や伝統を楽しみながら学べる交流イベントを開催

【日時】2025年3月22日

【場所】SENNAN LONG PARK

【取組内容】

- ・フィリピン共和国・ダバオ市の紹介動画
- ・大阪大学の学生「フィリピンアーナ」によるダンスパフォーマンス
- ・フィリピン共和国伝統手芸品などの販売
- ・在大阪フィリピン共和国総領事館観光部ブース
- ・大阪・関西万博ブース

【参加者】500人（同日同会場内4,000人の集客）

【報道対応】3月23日読売新聞朝刊掲載

④効果

イベントには若者に有名なYouTuberをMCに起用したこともあり、多くの方に姉妹都市であるフィリピン共和国・ダバオ市を知ってもらうことができた。フィリピン共和国出身の方も市の取り組み紹介や万博クイズなどに参加し、交流していただいた。フィリピン共和国ダバオ産力カオを使ったチョコレート(市内事業者製造)の試食で、市内事業者とのつながりを紹介した。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2-4 事業内容

【事業名】万博推進事業「国際交流プログラム文化交流事業」

①スケジュール

2025年1月 市内小学校、現地学校調整開始
2025年2月～3月 文化交流事業実施

②体制

市教育委員会、万博担当課、1小学校、(公財)関西・大阪21世紀協会(委託事業者)、フィリピン日系人会国際学校

③内容

(公財)関西・大阪21世紀協会の万博における取り組みを紹介。文化や芸術を通じて、フィリピン共和国・ダバオ市との違いを知る

【日時・参加者】 1小学校、4日間、76名
一丘小学校 2月25日～27日・3月6日

【取組内容】

万博において、日本食文化の魅力を発信する(公財)関西・大阪21世紀協会の取り組みを紹介
ビデオレターのように事前にワークショップの素材(フルーツの絵やオノマトペ)や質問などを双方で動画撮影したのを使い文化交流を行う

④効果

開幕間近である万博について、(公財)21世紀協会の取り組み、またどんな内容があるのかなど子どもたちに知ってもらうことができた。

食、文化や芸術を通じて、フィリピン共和国・ダバオ市を身近に感じてもらうことができ、心に潤いや豊かさが生まれることが万博のテーマである「いのちを高める」ことへの取り組みともなった。

現地児童にも楽しみながら日本を学んでいただくことができた。また現地教員からは、ワークショップに非常に興味を持っていただき、継続した実施希望の声もいただいた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

交流事業に参加した児童・生徒の声から、実際に海外の方に接した経験のある子どもは少なく、直接海外の方と交流し、文化や生活を知る機会はなかったようである。また今回の交流事業では、海外の方との交流に対し、多くの子どもが「緊張」から始まっている。同時に「友達になりたい」という期待の声も平均してあがっていた。今回の事業での交流時間は短いですが、同年代の子ども同士が、直接オンラインで交流することで、お互いの文化や生活を知ることができ、それぞれの違いを発見できた。言語の面で難しい部分もある中、「もっと話したい」「相手国に行きたい」「日本に招待したい」など今後の交流に期待が持てる結果となった。また事業にはSDGsや万博に関連した内容を取り入れ、万博への興味関心を高めることもできている。

交流計画以外でも交流の機会は増えており、イベントを通じて市内事業者がフィリピン共和国ダバオ産カカオを使ったチョコレートの製造方法や同産コーヒー豆を使ったドリップコーヒーの紹介など行い、食を通じた交流、姉妹都市への興味関心を高めるきっかけを作っている。またフィリピン共和国の児童が本市を訪問した際にも、本市との食を通じたつながりなどを紹介することができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

オンラインでの交流では、教科書やニュースなどでしか情報を得ることがなかった子どもたちに、直接国際交流の機会を提供することにより、フィリピン共和国ダバオ市を近くで感じ、多様性を尊重し合う心を育むことができると感じた。

このようなプログラムの実施は、多くの市民に文化の違いだけではない、新たな価値観を与え、視野を広げる素晴らしい機会となる。特に、子どもたちにとって、未来への選択にも大きな影響を与え、国際感覚の涵養、地域の魅力発信、地域活性化に繋げる。

5 特に良かった点、苦労した点

●良かった点

- ・在大阪フィリピン共和国総領事館やダバオ市現地学校など関係機関とのつながりが得られたこと。
- ・児童・生徒たちが、事前に相手国や自国の学習をし、英語での紹介や発表に取り組めたこと。
- ・食文化でのつながり(フィリピン共和国ダバオ産を市内事業者により加工)をイベントなどを通じて知ってもらえたこと。

●苦労した点

- ・学校カリキュラムとの調整が難しい。
- ・フィリピン共和国の万博パビリオン担当との調整が時間も無く難しかった。
- ・市と連携してプログラムに取り組むフィリピン共和国出身のコミュニティなどが無い。

6 今後の展開

【2025年万博会期中、会期後に予定している事業】

1. 万博にて行われるフィリピン共和国のナショナルデーイベントに参加(2025年6月)
万博開幕日(4月13日)にガルシア＝アルバノ駐日フィリピン共和国特命全権大使と文化的交流等について、意見交換。
2. 万博フィリピン共和国パビリオンに本市子どもたちを招待し、対面にて文化交流を行う(会期中)
3. 万博フィリピン共和国パビリオンでの本市プロモーション活動(会期中)
4. オンラインでの国際交流プログラム事業を全小中学校において実施(会期中)
5. フィリピン共和国ダバオ市との交流をテーマとした万博機運醸成イベントを実施(2025年7月予定)
6. 子どもたちの国際交流及び環境保全に関する共創チャレンジを行う(会期中)
7. ナショナルデーイベント等に継続して参加する(会期後)
8. 本市小中学生がフィリピン共和国に訪問し、リアル交流を実施(会期後)
9. 観光・貿易・観光面など様々な分野で交流(会期後)

7 今後の展開における課題

万博会期中において、子どもたちが万博会場で対面での交流を予定しているが、調整が進んでいない。引き続き、関係機関含め調整していく。姉妹都市協定や交流事業は、参加する子どもたちやその保護者には周知できているが、市民の多くにまだ知られていない状況である。今後も市広報紙やイベントを通じた取り組みを継続して行っていく。

万博会期後において、市内小中学生が、フィリピン共和国ダバオ市を訪問し、リアル交流を行う予定であるが、初めての事業であるため、多くの調整が必要となる。



2-(2)オンライン交流事業



2-(3) SENNAN
PHILIPPINE EXPO



2-(4)国際交流プログラム
文化交流事業

三木市交流計画の進捗状況

自治体名	兵庫県三木市
相手国・地域	フランス

1 背景と目標等

ア 背景と目的

三木市人口 約7.3万人 『三木金物』『酒米の王者山田錦』『西日本一ゴルフ場数』、神戸市の北側に隣接するベッタタウンと古き良き日本の田園風景が広がる地域である。しかしながら、1997年の人口約8.8万人をピークに人口減少局面に入り、地域産業の衰退が大きな課題となっており、海外販路拡大に向けた糸口を早急に民間ベースだけでなく、行政も伴走支援する必要性が出てきた。そのため、2,820万人が来場を予定されている2025大阪・関西万博を契機に日本全国だけでなく、世界に広く三木市をPRすることで国際交流の拡充や海外販路開拓等につなげていきたい。

イ 目標

① 高校生同士の国際交流の持続可能な仕組みづくりの構築 ② 海外販路の開拓 ③ 新商品開発

2-1 事業内容

【事業名】高校生同士の日仏交流

①スケジュール

2024年3月フランスクロミエワインとチーズの見本市三木市PRブース出展

2024年9月三木高校生がクロミエ市訪仏 スーツケース図案議論

②体制 三木高等学校、クロミエ高校、三木市(サポート)、クロミエ市(サポート)

③内容 クロミエ高校と三木高校によるスーツケースプロジェクト:スーツケースの裏と表に両国のシンボルや人物、両市の特産品を工業科の生徒がデザイン、ペイント

④効果

自治体内への波及効果: 高校生の取組が持続可能な形に繋がってきた

実施により達成できた成果: 高校生同士の交流にとどまらずフランス首相にも紹介

相手国への波及効果: クロミエ高校だけでなく、産業や行政が共感しプロジェクトに参画

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、イ 万博参加国・地域の関係者、ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2-2 事業内容

【事業名】フランス人クリエイター×三木金物新商品開発、

①スケジュール

2024年4月フランス人クリエイターhall haus×永尾かね駒製作所肥後守新商品開発に向けたオンライン会議

2024年7月デザイン委託契約(民民連携)

2025年3月試作品完成

②体制 hall haus、永尾かね駒製作所、三木市伴走支援

③内容 三木金物の海外販路開拓を目指し、フランス人若手クリエイター100人に選ばれた事業者と伝統工芸技術を融合したコラボ商品開発によるブランド化

④効果 自治体内への波及効果: 自治体の役割が補助金支援からマッチングによる伴走型へ

実施により達成できた成果: 商品化と今後のブランド化の道筋が見えてきた

相手国への波及効果: 民間事業者同士がつながり持続可能なビジネス化にチャレンジ

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、イ 万博参加国・地域の関係者、ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2-3 事業内容

【事業名】フランスワイナリー課題解決にチャレンジする三木金物プロジェクト

①スケジュール

2023年11月ワイナリーに事業者と訪問し課題抽出及び実証のため三木金物を提案

2025年4月 ワイナリー実証結果を受けた改良検討開始

②体制 Achillee、ドウカン、関西洋鋸、三木市、兵庫県パリ事務所

③内容 フランスワイナリーが抱える剪定作業における腱鞘炎という課題を三木金物で解決するプロジェクト

④効果

自治体内への波及効果: 産業振興の新たな形の提案

じつにより達成できた成果: 民間事業者自ら渡し、ワイナリーでのニーズ把握による新商品開発に対する意識改革

相手国への波及効果: クロミエ高校だけでなく、産業や行政が共感しプロジェクトに参画

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者、ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

- 持続可能な高校生同士の交流から新たな商品開発に加え、両国のイベントでの相互PRの仕組みづくり
- フランス新クリエイターとの新商品開発による販路開拓
- フランスワイナリーが抱える腱鞘炎という社会課題を三木金物で解決することによる販路開拓

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- 持続可能な高校生同士の交流から新たな商品開発に加え、両国のイベントでの相互PRの仕組み
- フランス新クリエイターとの新商品開発による販路開拓による産業振興
- フランスワイナリーが抱える腱鞘炎という社会課題を三木金物で解決することによる販路開拓による産業振興

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

これまで接点がなかった事業者や人々との心の交流やビジネス化に携わるきっかけが出来たこと。

●苦勞した点

内閣官房国際交流プログラムを通じた未来の創造に対する理解度を得るまでの具体化や、成果の見える化

6 今後の展開

■持続可能な高校生同士の交流から新たな商品開発に加え、両国のイベントでの相互PRの仕組み化の伴走

■フランス新クリエイターとの新商品開発による販路開拓の伴走

■フランスワイナリーが抱える腱鞘炎という社会課題を三木金物で解決することによる販路開拓の伴走

7 今後の展開における課題

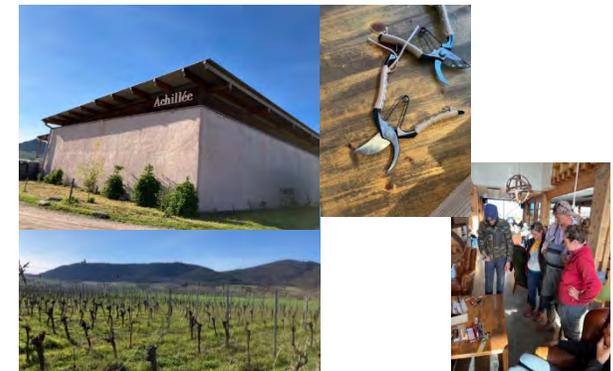
行政主体で把握、高校生や民間事業者が主体となるため、行政としての伴走支援の在り方



4月11日クロミエワインと
チーズの見本市



フランス人クリエイター×肥後守
新商品お披露目



フランスワイナリー課題解決
×三木金物

PLAN1【高校生等の日仏交流事業】

フランス クロミエ高校×三木高等学校

【内容】

両国の高校生同士が相互訪問を行う国際交流に加え、相互に訪問した若者がそれぞれの地域や文化を地域のおイベント等で相互紹介する仕組みを学生が紹介します。

- 1 両国のシンボルとなる人物や建物等をクロミエ高校生徒がスーツケースの裏表に描き、クロミエイベント会場で紹介
- 2



4月11日フランス フランソワ・バイル首相ブース来場



PLAN2【産業をつなぐ日仏交流】

新商品開発プロジェクト:フランス企業やクリエイター×折り畳みナイフ



【内容】

- 1 フランス人若手クリエイター100に選定されたhall.hausと折り畳みナイフ肥後守永尾かね駒製作所とのコラボ新商品製作にチャレンジ【Olympic(金物), Wave(木)】
- 2 フランスワイナリー課題解決三木金物プロジェクト実証
- 3 フランス人クリエイター1Dayモノづくり体験ツアー実施



2025大阪・関西万博9月13日フランスナショナルデーにおいて両国の交流を発信

【万博における日仏交流PRに関するその他の取組】

- 2025年4月11日～14日 会場:フランス クロミエ市
 - ☆クロミエワインとチーズの見本市でのスーツケースプロジェクトお披露目
 - ☆フランス人クリエイターhall hausと三木金物肥後守コラボ商品お披露目
 - ☆産業交流 三木市特産品の販売
- 2025年4月15日
 - フランスワイナリーでの剪定鋏実証事業(三木金物でフランスが抱える腱鞘炎解決)
- 2025年6月18日 会場:日本 万博会場内フェスティバル・ステーション
 - ☆日仏交流における取組が第7回はなやかKANSAI魅力アップアワード特別賞受賞に伴い、万博会場内で取組紹介
 - ・スーツケースプロジェクトを紹介(9月13日イベント紹介)
 - ・フランス人クリエイターhall hausと永尾かね駒製作所肥後守新商品紹介
- 2025年7月13日 会場:日本 京都フランス総領事館マルシェ
 - ・スーツケースプロジェクトを紹介(9月13日イベント紹介)
 - ・フランス人クリエイターhall hausと永尾かね駒製作所肥後守新商品紹介
- 2025年8月17日 会場:日本 万博会場内フェスティバル・ステーション
 - ☆日仏交流における取組を経済産業省近畿経済産業局とコラボしたイベントで紹介
 - ・スーツケースプロジェクトをフランス語を学ぶ三木高校生が紹介
 - ・フランス人クリエイターhall hausと永尾かね駒製作所肥後守新商品紹介
- 2025年9月13日 会場:日本 万博会場内関西パビリオン兵庫ブース
時間:13時～14時
 - ☆日仏交流における取組を兵庫県とコラボしたイベントで紹介
 - ・スーツケースプロジェクトをクロミエ・三木高校生が紹介
 - ・フランス人クリエイターhall hausと永尾かね駒製作所肥後守新商品紹介
- 2025年9月13日以降 予定
会場:日本 兵庫県津博物館及び三木市役所で展示
フランス 3月27日～クロミエチーズとワインの見本市三木ブース展示

1 背景と目標等

ア 背景と目的

令和3年12月にウズベキスタン・サマルカンド州との間で友好提携を締結したものの、当時はコロナ禍による入国制限などもあり、具体的な交流ができていなかったが、令和5年10月に奈良県知事、サマルカンド州知事、駐日ウズベキスタン共和国大使の三者間でオンライン会議を実施し、大阪・関西万博を契機に、両県州の交流をさらに活性化することで合意した。また同年11月には本県の取組が万博国際交流プログラムに採択された。

そうしたことを背景に、両県州間での具体的な交流が始まり、令和6年度には奈良県公式訪問団や奈良県青年団がサマルカンド州を訪問し、交流を深めた。令和7年度は大阪・関西万博会場及び奈良県内でのサマルカンド州と連携したイベントの実施やイベントの開催にあわせたサマルカンド州知事訪問団の訪日を予定しており、万博を契機に、友好提携後、実現できていなかった両県州知事の相互往来が実現する予定である。また、万博会場での両県州が連携したイベントの実施は、国際的にも本県やサマルカンド州をアピールする絶好の機会となることから、イベントを通じて両県州の魅力の発信につなげたい。

その他、万博閉幕後の令和8年度以降も、両県州知事の相互往来を継続させることにより、万博を契機に実施してきたこれまでの交流に加え、さらに幅広い分野での交流の深化につなげたい。

イ 目標

- ・万博を契機に、両県州知事の相互往来をはじめ、具体的な交流を着実に積み重ねる。
- ・両県州の連携イベントを通じて、両県州の魅力を発信する。
- ・ウズベキスタンは人口の6割が30歳以下と若い国であり、海外への人材の送り出しにも積極的であることに加え、ウズベキスタンの地方政府と友好提携を締結しているのは日本では本県だけであるという利点も生かし、将来的にはウズベキスタンからの優秀な人材の受入をはじめ、さらに幅広い分野での交流の深化につなげる。

【事業名】奈良県公式訪問団の派遣

①スケジュール

令和5年10月：奈良県知事、サマルカンド州知事、駐日ウズベキスタン大使の三者間オンライン会議を実施
⇒万博を契機に両県州の交流をさらに活性化させることで合意

令和6年 1月：サマルカンド州をはじめとする関係機関と実務者協議を実施
4月～：駐日ウズベキスタン大使館と定期的に実務者協議を実施
9月：サマルカンド州をはじめとする関係機関と実務者協議を実施

10月：奈良県公式訪問団を派遣

②体制

奈良県、奈良県立大学、在ウズベキスタン日本国大使館、JICAウズベキスタン事務所、
サマルカンド州、サマルカンド国立外国語大学、駐日ウズベキスタン大使館

③内容

○派遣時期：令和6年10月27日(日)～11月2日(土)

○場 所：ウズベキスタン・サマルカンド州、タシケント市

○取組内容：1. ウズベキスタン首相やサマルカンド州知事との会談
2. 奈良県立大学とサマルカンド国立外国語大学との間で学术交流に関する協定を締結
3. 現地旅行事業者や現地大学生に向けたに対する奈良県や万博のプロモーション

○報道対応：テレビ大阪ニュースにて報道 (https://youtu.be/vfxtHG_Nzlc?si=BrdQFzKT_DL0dtMq)

④効果

・サマルカンド州知事との間で大阪・関西万博にあわせ、両県州が連携したイベントの実施やサマルカンド州知事訪問団が来県することで合意
・両県州の大学間でのMOU締結を契機に、両校間の交流が開始
・ウズベキスタンでのプロモーション活動を通じた奈良県の存在感をアピール

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
⇒駐日ウズベキスタン大使館、ウズベキスタン文化財団

イ 万博参加国・地域の関係者 ⇒ウズベキスタン首相、サマルカンド州知事

2-2 事業内容

【事業名】奈良県青年団の派遣

①スケジュール

令和5年10月:奈良県知事、サマルカンド州知事、駐日ウズベキスタン大使の三者間オンライン会議を実施
⇒万博を契機に両県州の交流をさらに活性化させることで合意

令和6年 1月:サマルカンド州をはじめとする関係機関と実務者協議を実施
4月～:駐日ウズベキスタン大使館と定期的に実務者協議を実施

9月:奈良県青年団を派遣

②体制

奈良県、在ウズベキスタン日本国大使館、JICAウズベキスタン事務所、シルクロード国際観光大学、サマルカンド国立外国語大学、駐日ウズベキスタン大使館

③内容

○派遣時期:令和6年9月9日(月)～15日(日)

○場 所:ウズベキスタン・サマルカンド州、タシケント市

○取組内容:1. 現地で日本語を学ぶ大学生らとホームステイ等を通じて交流
2. 在ウズベキスタン日本国大使館、JICAウズベキスタン事務所への訪問

④効果

・両県州の今後の交流を担う若者同士の交流を通じて、一過性に終わる関係性ではなく、継続性のある関係性を構築
・現地での交流や大使館・JICAといった国際交流の最前線で活躍する人々から直接仕事の魅力等を伺うことを通じて、国際的感覚を養成
・文化や宗教面で普段慣れ親しんでいないウズベキスタンの生活様式や文化を肌で感じてもらい、帰国後も両国の架け橋として自身の経験を活かした活動に取り組みってもらうことで、多文化共生社会の実現に寄与

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者 ⇒駐日ウズベキスタン大使館

イ 万博参加国・地域の関係者 ⇒シルクロード国際観光大学、サマルカンド国立外国語大学

2-3 事業内容

【事業名】奈良県及びサマルカンド州在住の中学生同士のオンライン交流

①スケジュール

令和5年10月:奈良県知事、サマルカンド州知事、駐日ウズベキスタン大使の三者間オンライン会議を実施
⇒万博を契機に両県州の交流をさらに活性化させることで合意

令和6年 2月:駐日ウズベキスタン大使館職員による出前授業の実施

10月:中学生同士のオンライン交流を実施

②体制

奈良県、奈良県立国際中学校、サマルカンド第8学校

③内容

○実施時期:令和6年10月22日(火)

○場 所:奈良県立国際中学校(オンライン)

○取組内容:1. 両校生徒による双方の街や学校等の紹介
2. 生徒参加型のクイズ大会の実施

④効果

・参加生徒の国際交流や異文化理解の促進

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者 ⇒サマルカンド第8学校

2-4 事業内容

【事業名】日本語教育に資する図書の寄贈

①スケジュール

令和5年10月:奈良県知事、サマルカンド州知事、駐日ウズベキスタン大使の三者間オンライン会議を実施
⇒万博を契機に両県州の交流をさらに活性化させることで合意

令和6年 1月:サマルカンド州をはじめとする関係機関と実務者協議を実施

⇒サマルカンド州で日本語教育を実施する学校から日本語教育に資する図書の寄贈してほしい旨、依頼あり

7月～:県庁職員から日本語教育に資する図書の寄付を受付

9月:駐日ウズベキスタン大使館へ向けて発送 ※ウズベキスタンへは駐日ウズベキスタン大使館の協力により発送

10月:奈良県公式訪問団のサマルカンド州訪問にあわせ贈呈

②体制

奈良県、サマルカンド州、駐日ウズベキスタン大使館

③内容

○贈呈時期:令和6年10月31日(木)

○贈呈先:サマルカンド第8学校、サマルカンド国立外国語大学、シルクロード国際観光大学

④効果

・サマルカンド州内の日本語教育機関における教材の充実及び日本語教育のさらなる促進

・日本文化への興味・関心の醸成

・図書の贈呈を通じた信頼関係の構築

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者 ⇒駐日ウズベキスタン大使館

イ 万博参加国・地域の関係者 ⇒サマルカンド州、サマルカンド第8学校、サマルカンド国立外国語大学、シルクロード国際観光大学

2-5 事業内容

【事業名】サマルカンド州や両県州間の交流に関する県民向け広報

①スケジュール

令和5年10月:奈良県知事、サマルカンド州知事、駐日ウズベキスタン大使の三者間オンライン会議を実施
⇒万博を契機に両県州の交流をさらに活性化させることで合意

令和6年12月～:県庁及び県庁周辺の公共施設においてサマルカンド州や両県州間の交流を紹介するパネル展を実施

②体制

奈良県

③内容

○実施時期:令和6年12月～令和7年2月

○場 所:奈良県庁、奈良公園バスターミナル

○取組内容:1. サマルカンド州や両県州間の交流を紹介するパネルを制作のうえ、パネル展を実施

2. 令和6年10月に奈良県公式訪問団がウズベキスタン訪問の際に贈呈された記念品の展示

④効果

・県民に向けてサマルカンド州との交流意義を発信

・ウズベキスタンやサマルカンド州の魅力発信や認知度の向上

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

- ・令和6年10月の奈良県公式訪問団のサマルカンド州訪問により、サマルカンド州知事との間で、大阪・関西万博にあわせ、両県州が連携したイベントの実施やイベントにあわせたサマルカンド州知事訪問団の訪日で合意
- ・奈良県公式訪問団のサマルカンド州訪問にあわせ、奈良県立大学とサマルカンド国立外国語大学との間で学術交流に関する協定を締結
- ・令和6年9月の奈良県青年団のサマルカンド州訪問や同年10月の奈良県内の中学生とサマルカンド州内の中学生とのオンライン交流により、両県州の将来の友好交流を担う青少年交流が実現
- ・サマルカンド州や令和6年度中に実施した両県州間の交流を紹介するパネル展の実施により、県民に向けてウズベキスタンやサマルカンド州の魅力を発信するとともに、サマルカンド州との交流意義を発信

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- ・万博閉幕後も両県州知事の相互往来を継続させることにより、万博を契機に実施してきたこれまでの交流に加え、将来的にはウズベキスタンからの優秀な人材の受入をはじめ、さらに幅広い分野での交流の深化につなげる
- ・将来の友好交流を担う青少年同士の交流を通じて、国際交流や異文化理解の促進につなげるほか、文化や宗教面で普段慣れ親しんでいないウズベキスタンの生活様式や文化を感じてもらい、両国の架け橋として自身の経験を活かした活動に取り組んでもらうことにより、国籍や宗教等に関係ない多文化共生社会の実現につなげる

5 特に良かった点、苦労した点

●良かった点

- ・奈良県青年団の派遣にあたり、現地での交流やホームステイ体験などを通じて参加学生から「現地の方々と繋がりができたことをとても嬉しく思う」、「自分の視野を広げることができた」、「ウズベキスタンに対する印象が良くなった」など、参加学生にとって有意義な交流になったことを嬉しく思う。

●苦労した点

- ・奈良県知事訪問団の派遣にあたり、数ヶ月前から準備を進めてきたものの、直前になるまで調整が進まないことも多く、中には現地に到着してもまだ訪問先が決まっていないことがあるなど、相手方との調整に非常に苦労した。
- ・中学生同士のオンライン交流について、サマルカンド側のオンライン環境が十分に整っておらず、2回目以降、当初予定していた小規模のグループごとの交流ができず、今後、こういった内容で交流を進めていくべきか苦慮している。

6 今後の展開

(令和7年度)

- ・大阪・関西万博会場及び奈良県内でのサマルカンド州と連携したイベントの実施
- ・イベントの開催にあわせたサマルカンド州知事訪問団及びイベント出演者の訪日

(令和8年度以降)

- ・両県知事の相互往来を継続させることにより、万博を契機に実施してきたこれまでの交流に加え、さらに幅広い分野での交流の深化につなげる

7 今後の展開における課題

(令和7年度)

- ・サマルカンド州との調整については、駐日ウズベキスタン大使館を通じて行っているが、普段から担当者が本来業務で非常に多忙であり、調整がスムーズに進まない可能性がある。また、これまでの交流事業に係る調整でも直前にならなければ進展しなかったことも多かったことから、令和7年度事業においても同様の事態が起きることが予想される。
- ・サマルカンド州からの訪問団受入にあたって、ウズベク語ができる者が限られることから、通訳の確保に苦慮する可能性がある。

(令和8年度以降)

- ・新たな交流分野の一つとして検討しているウズベキスタンからの人材受入については、国が制度を所管していることもあり、本県だけの対応が難しい



(2)-1に関する写真



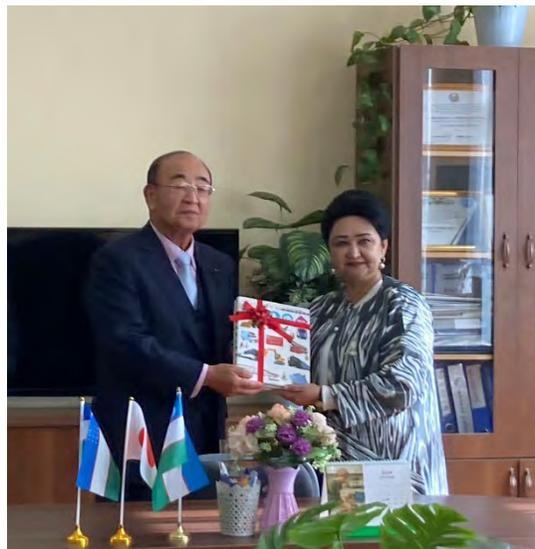
(2)-2に関する写真



(2)-3に関する写真



(2)-4に関する写真



(2)-5に関する写真



海士町交流計画の進捗状況

自治体名	海士町
相手国・地域	ブータン国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

今から約20年前、少子高齢化や学生の島外流出により生徒数が減少した結果、隠岐島前地域で唯一の高校、隠岐島前高校は廃校の危機にあった。この状況を打破するため、生徒が地域へ飛び出し地域課題の改善に取り組む中で学びを得る「地域課題解決型学習」を導入する等、魅力的な学校をつくるための様々な取組を行い、生徒数が回復するとともに、今日では学びの先進事例として注目されている。

ブータン国でも都市部への若年層の流出や知識やテスト重視の教育を改善するため、教育省が海士町の取り組みに着目しており、JICA草の根技術協力を通して地域課題解決型学習の展開に対して協力を行ってきた(2022年1月から2024年12月まで)。

離島と山間地という立地は異なるが、辺境という観点からは類似性を有する海士町とブータン国で「地域課題解決型学習」を通じて双方の社会課題を学び合い、責任ある行動をとることが出来る人材を育成することを目的として交流を行う。

イ 目標

交流計画を実施することにより、ブータン・日本双方の生徒が自ら設定した地域課題解決のための活動に取り組むとともに、双方の文化について理解を深める。

(2)-1 ブータン高校生(3名)の隠岐島前高校訪問

【ブータン高校生の隠岐島前高校訪問を通じた地域課題解決型学習に係る意見交換】万博国際交流プログラムによる実施

- ①スケジュール: 2024年1月19日現地出発、1月20日來日、1月25日離日、1月26日帰国
- ②体制: 海士町役場がJICAから受託して実施している草の根技術協力専門家と連携し、ブータン国教育省と調整を図りつつ実施
- ③内容: ブータン国チュカ県内高等学校3校から高校生1名ずつ計3名を隠岐島前高校(海士町)に招聘
隠岐島前高校における地域課題解決型学習の事例視察(芋の端材を使った菓子づくり、未利用魚の活用促進、音楽フェスを通じた賑わいづくり等)
隠岐島前高校生とブータン高校生の学習発表会・意見交換(隠岐島前高校生30名程度、ブータン高校生3名)
ブータン高校生は海士町内の3家庭に別れてホームステイ
- ④効果: (隠岐島前高校生、ブータン人高校生共通)自らの探求学習の取り組みを言語化・視覚化し、他の生徒と意見交換を行うことにより新たな探求視点や学びを得ることが出来た。同時に、自らの取り組みの良い面を確認・確信することができた。
(ブータン人生徒)地域住民や事業所に深く・長く関わり、関係づくりや信頼づくりを通して地域課題解決型学習が進められている点が新たな学びとなった。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア〜ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー2 隠岐島前高校生のブータン訪問

【隠岐島前高校生のブータン国チュカ県3高校訪問】 JICA草の根協力事業による実施

- ①スケジュール: 2024年7月30日出発、7月31日現地着、8月6日現地発、8月7日帰国
- ②体制: 海士町役場がJICAから受託して実施している草の根技術協力専門家と連携し、ブータン国教育省と調整を図りつつ実施
- ③内容: 隠岐島前高校生からブータン探求希望者を募り面接を通して4名を選定。その後、ブータン国の経済や文化を学びながら自らの探究課題について検討。
探究活動については教育コーディネーターが授業外活動で対応した。
隠岐島前高校における地域課題解決型学習の事例紹介(海士町内の廃棄物削減等)
ブータン側各校による地域課題解決型学習の事例紹介(廃棄物削減、地元の資源を活用した観光振興等)
隠岐島前高校生とブータン高校生の学習発表会・意見交換(ブータン側生徒30名×3校=90名、隠岐島前高校生4名)
隠岐島前高校生は現地のホストファミリーの家でホームステイ
- ④効果: (隠岐島前高校生、ブータン人高校生共通)自らの探求学習の取り組みを言語化・視覚化し、他の生徒と意見交換を行うことにより新たな探求視点や学びを得ることが出来た。同時に、自らの取り組みの良い面を確認・確信することができた。
(隠岐島前高校生)仏教に根差したブータンの文化から、持続的な社会についての学びを得ることができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

隠岐島前高校とブータン国チュカ県の3校の高校生同士の交流・学び合いを計画通り進めることが出来ている。また、両国の生徒がホームステイを通してそれぞれの国の一般的な生活ぶりやホストファミリーのおもてなしから、隠岐島前高校生にとっては自らの生活で当たり前だと思っていたことがブータンでは当たり前ではないこと、あるいは、ブータンの生活から見習うべきことについて、学びを得ることが出来た。
海士町が政策として掲げる「魅力ある人づくり」、そして、隠岐島前高校が目指す「グローバルな視点を有する人材育成」の観点からも、この交流計画は成果をあげていると言える。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

海士町がJICAに提案した、ブータンにおける地域課題解決型学習の地方展開に係るJICA草の根協力事業が審査の結果採択され、2025年から2028年までの3年間実施されることになっているため、引き続き、隠岐島前高校とブータン国内の各高校の協力関係は継続する。
また、JICAと連携して海外からの研修員を受入れ、海士町の地方創生に係る経験や知見を世界に共有しつつ、研修員から世界の知見を学ぶ国際協力・交流を継続していく。

5 特に良かった点、苦勞した点

- **良かった点** 日本・ブータンの高校生同士が、地域課題解決型学習を通じた学びや経験を発信・受信し合い、主体的な学び合いが展開できたこと、また、地域課題解決型学習が学習に止まらず地域に改善をもたらしていることも良かった点である。
- **苦勞した点** 国境を越えて高校生同士が交流するするためには、スケジュール検討、アポイント、交通手段確保、渡航手続き等、時間と労力を要する調整や手続きが必要だったが、幸い、草の根協力事業関係者やブータン国に滞在するJICAボランティアの協力を得ることが出来たため、乗り越えることが出来た。

6 今後の展開

2024年にブータンへ渡航した隠岐島前高校生徒によるブータン探求成果発表会を万博会場で実施したいと考えており、係る調整をブータン国関係者と調整中。

7 今後の展開における課題

日本にはブータンの大使館が存在しないため、ブータン本国との連絡調整となり、万博会場内の準備や段取りを計画することが難しい。一方で、この制約を踏まえながら、可能な対応を模索しているところである。



ブータンにて、隠岐島前高校生とブータン高校生による地域課題解決型学習の成果発表会



海士町にて、ブータン高校生が町を歩いて海士町の資源を探索する様子 ガイド役は隠岐島前高校生。

岡山県交流計画の進捗状況

自治体名

岡山県

相手国・地域

韓国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

交流先である韓国慶尚南道とは、地理的条件や産業構造等に類似点が多いことから、平成21年(2009年)に友好交流協定を締結し、令和6年(2024年)に友好提携15周年を迎えたことから、15周年記念関連事業を万博と関連して実施することで、慶尚南道とのさらなる交流の深化を図ることを目的としている。

イ 目標

行政訪問団派遣やパネル展を万博と関連して実施することで、慶尚南道の関係者と岡山県の関係者や学生が継続的な交流のきっかけとするとともに、万博の機運醸成を図る。

(2) 1 事業内容

【岡山県・慶尚南道友好提携15周年記念訪問団派遣】

①体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

相手方:慶尚南道国際通商課、事業サポート:在釜山日本国総領事館

②内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

日時:令和7年1月16日(木)~18日(土)

場所:韓国慶尚南道

内容:・慶尚南道知事を表敬訪問して、友好交流強化に関する協定を締結

・慶尚南道内の産業施設等の視察

参加者:岡山県知事、岡山県議会議員 其他県職員 計8名

慶尚南道知事、慶尚南道議会関係者、視察先企業担当者 等

報道対応:新聞社、テレビ局

③効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

・友好交流強化に関する協定を締結し、地域間交流の重要性を再認識した。

・県内自治体と慶尚南道内の自治体の友好締結に向けた話が出てくるなど、道・県内の自治体レベルでの交流拡大についての可能性が広がった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア~ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー2 事業内容

【岡山県・韓国慶尚南道友好提携15周年記念交流展】

- ①体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
実施主体:岡山県、事業サポート:慶尚南道国際通商課、慶尚南道東京事務所
- ②内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)
日時:令和7年3月3日(月)~14日(金)
場所:岡山国際交流センター(岡山市北区奉還町2丁目2-1)
内容:
 - ・慶尚南道の概要及び岡山県の慶尚南道との交流のあゆみをパネル展示
 - ・慶尚南道の観光パンフレット及びノベルティを配布
 - ・万博チラシを配布参加者:慶尚南道東京事務所、岡山国際交流センター利用者、県民の方
報道対応:新聞社、テレビ局
- ③効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
 - ・岡山県と慶尚南道との交流あゆみを県民の方々へ周知することができた。
 - ・慶尚南道のチラシや万博のチラシを配布することで、それらの認知度向上が図ることができた。
- ④当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア~ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

岡山県と韓国慶尚南道が友好提携15周年を迎えるにあたり、15年ぶりに岡山県知事が慶尚南道を訪問し、両知事が顔を合わせて話げられたことで、地域間交流の重要性を再認識することができた。
また、パネル展では、慶尚南道東京事務所の協力により、岡山県と慶尚南道のこれまでの歴史のふりかえりや慶尚南道のPRをすることができた。万博のチラシも配布することで、県民の方々へ認知度向上を図ることができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後の事業継続性や自治体の地方創生への寄与の状況
→15周年の節目で、友好交流強化に関する協定を締結し、両知事での会談が実現したことで、青少年交流を中心とした今後の交流のさらなる拡大が期待できる。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

15周年の節目の年に、行政訪問団の派遣とパネル展の実施という、記念事業を実施することができ、例年以上に活発な交流ができた点。

●苦勞した点

事業を実施する中で、万博との関連付けが難しかった。

6 今後の展開

今年度は、青少年交流として、7月31日から8月4日の期間、慶尚南道から学生20名を受け入れ、岡山県において、学校交流や文化体験・ホームステイなどを実施するとともに、最終日の8月4日に万博へ招待する予定。また、当交流事業の中で友好提携に関連した記念品を制作して、万博会場へ展示することを予定している。

昨年度の15周年関連事業の成果を踏まえ、万博と関連して青少年交流事業を実施することで、青少年の国際的視野を広めるとともに、万博の機運醸成を図りたい。

7 今後の展開における課題

制作を予定している記念品について、万博会場内へ展示することを企画しているが、実現可能性が未定の部分がある。



岡山県と慶尚南道の友好交流強化に関する協定締結



岡山県・韓国慶尚南道友好提携15周年記念交流展

福山市交流計画の進捗状況

自治体名	福山市
相手国・地域	リトアニア共和国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

福山市は、瀬戸内海沿岸のほぼ中央、広島県南東部に位置する中核市であり、高速道路や空港、瀬戸大橋・しまなみ海道とのアクセスも良い交通結節点である。ものづくりが盛んで、繊維・鉄鋼産業や物流企業等が多く集積する人口約46万人の産業都市である。

1945年8月8日の空襲によって市街地の約8割が焼失したが、市民が荒廃したまちに潤いを与え、人々の心に和らぎを取り戻そうと1000本の「ばら」を植えたことがきっかけで、「ばら」が本市の戦災復興のシンボルとなった。大阪・関西万博が開催される2025年は「世界バラ会議福山大会」を開催し、「ばら」とともに歩んだ本市のまちづくりやローズマインド(思いやり・優しさ・助け合いの心)を大切に育ててきた取組を世界に紹介する。

交流相手国のリトアニア共和国とは、本市にあるホロコースト記念館が毎年1月に実施している「ホロコースト犠牲者を想起する国際デー」追悼記念式典での中学校生徒等による「アンネのばら」の取組の紹介の継続や、世界バラ会議福山大会へのリトアニア共和国大使の招待、平和や「ばら」をテーマとした学校間の教育交流の実現を目的としている。

(2) -1 事業内容

【教育交流事業】

①スケジュール

2024年4月 リトアニア共和国ジーカス大使に交流計画の趣旨説明。8月 大使に紹介いただいた学校との教育交流を開始。福山市長がリトアニア共和国を訪問。ヨードビングギムナジウム校の視察やアリートゥス市長、カウナス市長との交流を実施。12月 一ツ橋中学校の生徒が在日リトアニア共和国大使館訪問

②体制

福山市、福山市教育委員会管理部・学校教育部・福山市立一ツ橋中学校、ヨードビングギムナジウム校

③内容

2024年5月 在日リトアニア共和国ジーカス大使の紹介により、リトアニア共和国アリートゥス市ヨードビングギムナジウム校と福山市立一ツ橋中学校の学校間で手紙のやりとりが始まる。8月リトアニア共和国から手紙の返事が届き、10月リトアニア共和国へ手紙を送る。10月12～16日の間、福山市長がリトアニア共和国を訪問。ヨードビングギムナジウム校の視察やアリートゥス市長、カウナス市長との面会等を実施。

12月3日 一ツ橋中学校の2年生が修学旅行で在日リトアニア共和国大使館を訪問

◆報道 10月7日市長定例記者会でのプレスリリース、12月2日中国新聞に中学生の大使館訪問記事掲載

④効果

学校間の手紙のやりとりや新聞報道、市長によるリトアニア共和国訪問の実現により、市民にリトアニア共和国との交流が開始されていることが広まった。

⑤交流相手の類型

ア、イ

(2)－2 事業内容

【講演会・ワークショップ事業】

①スケジュール

2024年8月 万博テーマ事業プロデューサーの中島さち子さんと協議。以降1～2月に1回の頻度で協議実施。12月22日(日) イベント実施。

②体制

福山市教育委員会管理部・学校教育部・福山市市長公室 受託者:株式会社SteAm

③内容

万博テーマ事業プロデューサーの中島さち子さんによる講演会・ワークショップ、在日リトアニア大使館へのオンラインインタビューを実施。

13:00～13:30 講演会万博テーマ事業プロデューサー 中島さち子 「いのち輝く未来社会のデザイン」の意味を模索する～平和とは何か～」

13:35～13:40 一ツ橋中学校生徒によるリトアニア共和国大使館訪問報告

13:40～14:20 オンラインインタビュー リトアニア共和国大使館一等書記官アイステ・シアドゥイキエネさんによるリトアニア共和国の紹介、万博パビリオンの紹介。
会場からアイステさんへのオンラインインタビュー実施。

14:20～15:00 ワークショップ クラゲをモチーフにしたイラスト作成、リトアニアの曲の演奏と踊り

参加者 約50名

◆報道関係 広報ふくやま12月号への掲載。12月25日山陽新聞にイベント記事が掲載。広報ふくやま2月号への成果広報を実施。

④効果

リトアニア共和国の話聴き、映像や音楽に触れることで、リトアニア共和国や大阪・関西万博への興味関心が高まった。

⑤交流相手の類型

ア、ウ

(2)－3 事業内容

【ホロコースト犠牲者を想起する国際デー交流事業】

①スケジュール

2025年1月26日 リトアニア共和国展示室(福山通運本社内)見学会、1月27日 ホロコースト記念館で追悼式典を開催

②体制

福山市立一ツ橋中学校、福山市中学校校長会在日リトアニア共和国大使館、ホロコースト記念館

③内容

1月26日 在福山リトアニア共和国名誉総領事館(福山通運本社内:福山市)の「リトアニア共和国の歴史や文化を紹介する展示室」の展示品開設をリトアニア共和国ジーカス大使が行い、福山市内中学校の校長や教頭らが参加した。解説に先立ち、一ツ橋中学校の生徒によるリトアニア共和国国歌斉唱や長浜小学校の児童らによる太鼓の披露も行われた。

1月27日 ホロコースト記念館で毎年開催される「ホロコースト犠牲者を想起する国際デー」にリトアニア共和国大使らを招き、一ツ橋中学校・幸千中学校の生徒らが吹奏楽の披露や英語による資料の説明等を行った。

◆報道提供 1月27日中国新聞に展示室見学会の記事が掲載

④効果

市内中学校の管理職に国際的な視野を広げるための教材が身近にあることを伝え、リトアニア共和国の歴史や文化を学ぶ機会の創出につなげることができた。

⑤交流相手の類型

ア、イ

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

交流計画に掲げた事業は着実に実施できている。講演会・ワークショップ参加者へのアンケートにおいても、リトアニア共和国への興味関心の高まりや、万博会場に行ってみたいと回答する割合が高かった。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博国際交流プログラムを契機に、リトアニア共和国との交流が徐々に拡大しているところであり、今後、様々な分野での交流を継続できるよう取り組む。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

- ・講演会・ワークショップで、万博テーマ事業プロデューサー（パビリオン「クラゲ館」のプロデューサー）や、リトアニア大使館職員との直接のやり取りを行ったことで、万博やリトアニア共和国への興味関心が高まった。
- ・市長によるリトアニア共和国訪問が実現し、1月には経済界が主催する「リトアニア共和国セミナー」が開催されたこと（※交流計画対象外）。

6 今後の展開

2025年度の万博会場での交流計画を実現し、市民への広報を通してリトアニア共和国との交流の定着に向けて取り組む。

7 今後の展開における課題

- ・7月6日の万博会場訪問に向けた行程・日程等の事前調整。



講演会・ワークショップ事業（12/22開催）

山口市交流計画の進捗状況

自治体名	山口市
相手国・地域	スペイン

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

山口市は人口約18万8千人であり、人口減少、少子高齢化といった課題を有する反面、在住外国人が増加しており、第二次国際化推進ビジョンを策定し、国際交流の推進と、多文化共生の推進を進めている。姉妹・友好都市、それに準ずる都市は、4か国6都市あり、特にスペイン・パンプローナ市とはフランシスコ・ザビエルとの縁により万博開催年の2025年に姉妹都市提携より45周年を迎え、これを契機としてシティセールスの観点からも広く国内外に山口市を発信するため様々な事業に取り組んでいるところである。

イ 目標

万博を契機に45周年記念事業を開催し山口市とパンプローナ市の長年に渡る交流の絆を再認識し、広く国内外に発信を行う。

(2)ー1 事業内容

【事業名】山口市・パンプローナ市姉妹都市締結45周年プレ事業国際交流講演会「日本とスペインの500年の交流史～相互のビジュアルイメージから学ぶ～」

- ①スケジュール(2024年5月から2024年6月)
- ②体制(スペインの歴史家マドリード・コンプルテンセ大学の教授フロレンティーノ・ロダオ・ガルシア氏を招聘)
- ③内容(6月1日、旧県会議事堂、フランシスコ・ザビエルをはじめとした日本とスペインとの交流史を山口でのエピソードを交えながら紹介、市民対象、地元メディア報道投込)
- ④効果(市民や国内外に向けて45周年記念事業として山口市とパンプローナ市との交流の絆を再認識し、周知することができた)
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー2 事業内容

【事業名】山口市・パンプローナ市姉妹都市締結45周年記念KDDI維新ホール「感謝デー」(スペインフィエスタ)

- ①スケジュール(2024年5月から2025年2月)
- ②体制(KDDI維新ホールと連携し実施)
- ③内容(2月15、16日、KDDI維新ホール感謝デーとの共催開催。スペインにて著名フラメンコダンサーであるビクトル・ブラボ氏を招いてのフラメンコ公演の他、スペイン料理の提供、パンプローナ市長からのビデオメッセージ紹介、及びパンプローナ市内にある日本文化協会による書道展や俳句団体による写真俳句の展示、日本語教室で日本語を学ぶ方からのビデオメッセージなど、多彩な内容により来場者に山口とスペイン・パンプローナの関りを紹介した。市民対象、地元メディア報道投込)
- ④効果(市民や国内外に向けて45周年記念事業として山口市とパンプローナ市との交流の絆を再認識し、周知することができた)
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー3 事業内容

【事業名】……スペインをはじめ世界が集う！大阪・関西万博の魅力

①スケジュール(2024年7月から2025年2月)

②体制(博覧会協会より職員を招聘)

③内容(2月16日、KDDI維新ホール感謝デー(スペインフィエスタ内)、スペイン館をはじめとした万博の魅力紹介、市民対象、地元メディア報道投げ込み)

④効果(スペイン館や大阪・関西万博の魅力を市民にPRすることができた)

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ウ 万博の企画・運営等に関わるに日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

山口市における万博の周知と、パンプローナ市との姉妹都市締結45周年記念を契機として山口市とパンプローナ市との交流の絆を再認識し、周知することができた。

2025年2月ナバラ州の地方紙「ナバラ・ニュース」にて、姉妹都市締結45周年を記念して実施した写真俳句展示の折に、山口市内の小学校との俳句を通じた交流が行われていたことが紹介され、日本の俳句を海外で楽しむ市民がいること、及び両市の市民交流について更なる周知が図られた。

2025年3月スペイン・ナバラ州のテレビ局が山口市とパンプローナ市との姉妹都市締結45周年を記念した特別番組を編成し、本市の観光PR動画の放送、山口県立大学からパンプローナ市内にあるナバラ州立大学に留学中の日本人学生へのインタビューを行うなど両市の交流について更なる周知が図られた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博開催年である2025年に山口市・パンプローナ市姉妹都市締結45周年における多彩な交流事業を実施することができ、第二次国際化推進ビジョンに掲げる本市が目指すべき姿「世界の人々に愛される国際交流都市 山口」への取組を進めることができた。また、姉妹都市締結50周年に向けての機運を高めることができた。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

スペイン文化や日本とスペインの交流の歴史に触れる機会となったこと、及び姉妹都市であるパンプローナ市民が関与する形で実施できたことで、山口市・パンプローナ市の両市民の交流を生むことができた。

●苦勞した点

様々な方が関わることで調整に時間を要した。

6 今後の展開

令和7年度も引き続き万博国際交流プログラムを活用したパンプローナ市との記念事業を行いたい。

7 今後の展開における課題

交流相手の類型Aについての調整が進んでいない。



日本とスペインの500年の交流史



KDDI維新ホール「感謝デー」
(パンプローナ日本文化協会による書道展)



スペインをはじめ世界が集う！
大阪・関西万博の魅力

東みよし町交流計画の進捗状況

自治体名	東みよし町
相手国・地域	カナダ

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

東みよし町では人口減少が続いており、また少子高齢化の傾向が強く表れています。打開策として子育て支援や人材育成に力を入れており、その一環として、大阪万博を契機とした「令和7年度人材育成国際研修プロジェクト」事業を新しく実施することとなりました。この事業では、町内在住の中学生を海外に派遣し、ホームステイや現地学生との感動体験を通して、グローバルな視点、自立心等を育み、国際社会で戦えるリーダー人材の育成を図ります。また、次年度以降も事業を継続・拡大し、国際化の進む近代に沿った教育を取り入れ、その他子育て支援と合わせ、子育て世帯に魅力的な町づくりの一助とする。

イ 目標

アを踏まえ、学生の視野を拡げ、英語力向上やリーダーシップを育む。

(2)ー1 事業内容

【事業名】東みよし町人材育成国際研修プロジェクトに関する交流イベントの実施

- ①オンラインによるCilliwack Secondary Schoolの学生と三好中学校の学生が交流
- ②体制：東みよし町役場企画課・学校教育課、東みよし町立三好中学校、カナダ国Cilliwack Secondary Schoolが協力
- ③内容：3月31日～オンラインで三好中学生とCilliwack Secondary School学生20名程度が、東みよし町含むにし阿波地域の情報を共有し交流
- ④効果：令和7年度人材育成国際研修プロジェクトへの参加を促す（三好中学校からの参加者多数）。相手国学生より、訪れてみたいとの声多数。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2(1)ア～ウから選択）
イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー2 事業内容

【事業名】東みよし町人材育成国際研修プロジェクトに関する交流イベントの実施

- ①徳島県万博推進課職員による、三加茂中学生への講演会の開催
- ②体制：東みよし町役場企画課、東みよし町立三加茂中学校徳島県万博推進課が協力
- ③内容：3月19日、徳島県万博推進課職員が三加茂中学校全校生徒に向け、校内で、動画等を活用した万博の意義や歴史についての講演を行った
- ④効果：10月に全校生徒が関西万博を訪れる。生徒たちの関西万博への期待と関心が高まった。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2(1)ア～ウから選択）
ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

相手国学生との交流や、万博での各国とのつながりや交流を知り、多様な文化理解や国際性を育み、興味や関心を高めた。また、今後の東みよし町人材育成国際研修プロジェクトへの積極的な参加も期待が高まった。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後も東みよし町人材育成国際研修プロジェクトに関するイベントを継続し、町の未来を担う若者の国際教育を推進。

5 特に良かった点、苦労した点

- 良かった点: 相手校の教師や生徒が提案に好意的で前向きに協力してくれた
- 苦労した点: 言語の違いによる交渉に苦労した

6 今後の展開

令和7年8月21日～8月27日間で、東みよし町の中学生10名をカナダ国へ派遣し、異文化交流を行う「令和7年度人材育成国際研修プロジェクト」を実施するため、現在参加者を募集を行った。5月26日に選考会を実施予定で、参加者が確定次第数回の研修を得て渡航予定。帰国後は10月13日に関西・大阪万博で、代表生徒が感想や学び等を発表する。

7 今後の展開における課題

- ・時差など生活時間のズレ、ホームシックや海外未経験で本場英語に慣れていない学生への心身面のサポート
- ・国際情勢による安全性の確保
- ・言語の壁



万博推進課による講演



人材育成国際研修プロジェクトイメージ

香川県交流計画の進捗状況

自治体名	香川県
相手国・地域	イタリア

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

香川県とイタリア・パルマ市との交流は、うどんとパスタの「麺」つながりからスタートした。現在は、県内で農業を学ぶ高校生をパルマ市へ派遣し、現地で食品加工工場や農業施設を訪問している。万博を契機とした国際交流を通じて、次世代を担う高校生の国際課的な感覚を育み、農業に対する興味関心がさらに深まるように取り組んでいく。

イ 目標

交流を通じて、香川県の魅力を伝えPRすることで、香川県の経済や地域の活性化を目指している。また、次世代を担う高校生の国際的な感覚を育み、地域の未来を担う人材を育成することを目指している。

(2) 1 事業内容

※(2)については事業内容ごとに記載をお願いします。

【大阪・関西万博香川県催事イベント】

- 2024年10月14日(月)@高松シンボルタワー1Fデックスギャラリー
- 日本の万博関係者および、県内15市町等による県民への万博の機運醸成
 - ・万博について学べる〇×クイズ
 - ・万博の香川県ブースでも出展、実施を予定しているさぬきうどんの試食提供や獅子舞の演舞
 - ・ミyakミyakによるキャラバン隊の訪問
 - ・万博関連グッズのガチャポン
- 来場者5,000名、四国新聞や複数の放送局でニュースとして取り上げられた
- 当該事業において交流した交流相手の類型
 - ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

(2) 2 事業内容

【全国ご当地うどんサミットinさぬき2024】

- 2024年12月7日(土)・8日(日)@サンメッセ香川
- 県民への万博の機運醸成
 - ・パラオ共和国からの訪問団とパラオうどんの調理および試食提供、県内のベトナム料理店とフォーの試食提供、イタリアパスタの試食提供
 - ・万博に関する県民の意識調査(アンケート)の実施およびステッカーの配布
 - ・ミyakミyakとの交流
 - ・交流相手国の紹介ブースの設置
- イベント来場者数:3万人、国際課ブースへの来場者数:約650組
- 当該事業において交流した交流相手の類型
 - イ 万博参加国・地域の関係者(スペインは直接的な交流は行わず、県民へ万博の周知を行った)

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

事業を通して、香川県とイタリア・パルマ市との交流の歴史や取組み等について、県民の方々へ広くPRすることができた。また、実際に世界的に有名なバリラ社(本社がパルマ市)のパスタを提供することで、イタリアの食文化にも興味をもってもらうことができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後も、イタリア・パルマ市との農業を通じた青少年交流事業は継続していく。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

県内イベント: 香川県とイタリア・パルマ市との交流の歴史や取組み等について、県民の方々へ広くPRすることができた。

●苦勞した点

交流事業: 交流国担当者との連絡・調整ができず、計画している交流事業の実施に対して影響がでている。

6 今後の展開

県内で農業を学ぶ高校生をパルマ市へ派遣し、現地で食品加工工場や農業施設を訪問する予定。
また、イタリアから香川県へ学生を招き、県内の高校生との交流を図る。

7 今後の展開における課題

交流国担当者との連絡・調整が課題である。



大阪・関西万博香川県催事イベント



交流相手国の紹介ブース



イタリアパスタの試食提供

香川県交流計画の進捗状況

自治体名

香川県

相手国・地域

ベトナム

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

人口減少が進む中、外国人住民の数は増加しており、人手不足を課題とする各産業でも外国人労働者は貴重な担い手となっている。そのような中、本県では、外国人と日本人が互いの文化や生活習慣を尊重し、地域で活躍できる香川づくりを目指し、多文化共生の意識啓発や、異文化交流などの事業を実施しており、県居住者の国籍別では最多であるベトナムとの交流を通して相互を深めることは、県民の国際理解を深めるためにも重要な取組みであると考えている。

イ 目標

本県の施策「外国人との共生推進」及び「環境を守り育てる地域づくりの推進」に資する取組みとして位置付ける。日本人ボランティアだけでなく、県内在住のベトナム人住民に参加してもらうことで相互理解を深め、多文化共生のまちづくりと、持続可能な未来づくりを共に推進することを目指す。

(2)-1 事業内容

【大阪・関西万博香川県催事イベント】

- 2024年10月14日(月)@高松シンボルタワー1Fデックスギャラリー
- 日本の万博関係者および、県内15市町等による県民への万博の機運醸成
 - ・万博について学べる〇×クイズ
 - ・万博の香川県ブースでも出展、実施を予定しているさぬきうどんの試食提供や獅子舞の演舞
 - ・ミyakumiyakuによるキャラバン隊の訪問
 - ・万博関連グッズのガチャポン
- 来場者5,000名、地元の新聞や複数の放送局でニュースとして取り上げられた
- 当該事業において交流した交流相手の類型 ⇒ ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

(2)-2 事業内容

【全国ご当地うどんサミット】

○12月7日～8日にサンメッセ香川(高松市内)にて開催された「全国ご当地うどんサミット」国際麺交流ブースを設置し、万博のPRを行いながら本県の交流相手国の麺料理を来場者に試食として提供した。

ベトナムの料理を提供した8日は、県内のベトナム人に協力を依頼し、ベトナムの麺料理「フォー」を大学生と一緒に準備した。また、ベトナム・ハイフォン市外務局から提供してもらった写真を使用してパネルを作成し、展示。交流相手国についての情報発信を行なった。

○参加者 県内在住ベトナム人 3名 大学生 3名 県職員

試食提供数 約130食

○人々が関心を持ちやすい「食」と、展示を通してベトナムに対する理解を深めることができた。知名度のある「麺」料理がある自治体、国ということで親和性がある。

○当該事業において交流した交流相手の類型 ⇒ イ 万博参加国・地域の関係者

(2)-3 事業内容

【ビーチクリーン活動】

○2025年3月29日(土)AM9:00-10:00 東かがわ市海岸

東かがわ市の海岸で行われた海岸清掃のボランティア活動にベトナム人が参加し、一緒に清掃を行なった。1時間ほどで、砂浜や防波堤に流れ着いたペットボトルやプラスチックごみ、漁具など、多くの海岸漂着ごみを回収することができた。(2月実施予定から3月に変更)

○参加者 ボランティア約20名、ベトナム人7名

○地域のボランティア活動に外国人住民が参加することは珍しく、日本人住民と外国人住民が関わる貴重な機会となった。また、参加してくれたベトナム人の方にとっては初めての海岸清掃活動であったが、予想以上に楽しく、良い経験になったと話していた。

○当該事業において交流した交流相手の類型 ⇒ イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

万博前には、大阪・関西万博についてのPRを行い、開幕に向けて機運を高めることと、県民のベトナムへの興味や関心を高める機会となった。ビーチクリーン活動ではベトナム人7名も参加し、30名近くの規模でボランティアを共同で実施したことは良い交流であったと考える。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後の事業継続性や自治体の地方創生への寄与の状況

ベトナム・ハイフォン市とは、昨年交流協定を締結しており、万博閉会後も交流事業を継続していく予定である。また、海洋ごみの削減を目標とした国際協力事業も開始しており、万博会場の訪問時には、環境に関する取組がスタートしている予定である。

5 特に良かった点、苦勞した点

- 良かった点 食をテーマにしたことや、県内のベトナム人住民の協力を得られたこと。
- 苦勞した点 スケジュール変更もあり、参加者、協力者との調整

6 今後の展開

ベトナムから訪問団を受け入れし県民と交流を行うとともに、万博会場を訪れ、各国のパビリオンや海をテーマにしたパビリオン「BLUE OCEAN DOME」でベトナムの文化や、海洋環境について学ぶ機会を作る。万博や国際交流プログラムの取組みについて、県民向けの情報発信を行う。

7 今後の展開における課題

訪問団受入に向けた調整や、万博会場でのパビリオン訪問の手配方法などが課題である。



全国ご当地うどんサミットで提供した「フォー」



ビーチクリーン活動

香川県交流計画の進捗状況

自治体名	香川県
相手国・地域	中華人民共和国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

香川県は、少子高齢化と人口減少という全国的な課題に直面しており、持続可能な地域づくりに向けて活力ある地域社会の実現が求められている。こうした状況の中、香川県は、友好都市関係にある中国・陝西省との文化・スポーツなど多岐にわたる分野での交流が続けられている。このような背景を踏まえ、大阪・関西万博を契機とした国際交流の深化は、香川県の地域活性化、県民の国際理解の促進、さらには未来を担う青少年の育成という観点からも極めて意義深い。本事業を通じ、万博の理念「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現にも貢献しつつ、県としての国際的なプレゼンス向上を目指す。

イ 目標

- ・香川県と陝西省の新たな分野における青少年交流を通じ、相互理解と信頼関係をさらに強化する。
- ・大阪・関西万博への参加と連携を通じて、県民の万博への関心を高め、国際化推進への意識醸成を図る。

(2) 1 事業内容

【友好県省提携30周年記念香川県友好代表訪問団派遣】※万博P認定前の事業ではあるが、事務局の了解を得て記載

- ①体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
香川県国際課および陝西省人民政府外事弁公室
- ②内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)
訪問期間: 令和6年11月11日(月)～11月14日(水)
場所: 陝西省西安市
主な取組内容: 陝西省委員会および省政府への表敬訪問、青龍寺遺跡保管所での献麺式、元国際交流員との交流会、文化交流(麺料理交流パフォーマンス等)
参加者: 香川県友好訪問団(知事、議長、友好協会、観光協会、うどん研究会等)、陝西省人民政府、西安市人民政府、青龍寺遺跡保管所等の文化機関
- ③効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
自治体内: 元国際交流員や技術研修員との再会を通じた人的ネットワークの再構築と次世代交流の基盤づくり
実施により達成できた成果: さらなる青少年文化交流の深化への合意形成、省の首長へ直接、県のPR・万博への誘致
相手国: 今後の双方向交流への関心向上、民間レベルの文化交流による当県に対する理解向上
- ④当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー2 事業内容

【県国際交流員を通じた万博PR】

①スケジュール

万博開始前に実施

②体制

香川県国際課(おもに県国際交流員)

③内容

期間: 令和6年2月中旬

場所: 陝西省

取組内容: 陝西省から派遣されている県国際交流員を通じて、同省内において万博及び当県のパンフレット配付などのPRを実施。

④効果

省内の方々に直接、万博や当県の魅力を紹介することにより、着実な認知度向上、万博参加・来県の期待向上

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

- ・陝西省との意見交換により、新たな交流のきっかけの創出
- ・万博PRに併せて当県のPRを実施したことにより、今後の訪県意欲の向上

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- ・万博閉会後も持続的な青少年交流と人材育成の枠組みが期待される。
- ・地域文化の国際認知の向上による訪日・訪県意欲の継続的な高まりに寄与。

5 特に良かった点、苦勞した点

- 良かった点
万博を契機として来県PRができた点
- 苦勞した点
日程調整、パンフレット配布の効果測定ができない点

6 今後の展開

- ・青少年交流の継続と多様化(新たに写真分野での交流を予定)
- ・食文化交流を通して県プロモーションを展開

7 今後の展開における課題

- ・交流層の固定化…現在行っているうどんやサッカー分野の交流については、対象層が固定化されつつある。
- ・発信力不足…交流の成果を積極的に県民に還元していく必要がある。



30周年事業での麺文化交流



陝西省でのパンフレット配布の様子

香川県交流計画の進捗状況

自治体名	香川県
相手国・地域	スペイン

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

香川県は少子高齢化や地域活性化の課題を抱えていますが、「アート県かがわ」として、例えば瀬戸内国際芸術祭などの芸術の力を活用し、地域の魅力を再発見し、地域活性化につながる取組を行っています。一方で、スペインは、ガウディやピカソといった巨匠を生んだ芸術大国です。万博を契機としたスペインとの国際交流は、香川県のアートとスペインの芸術を結びつけ、旅行博への出展を通じて、瀬戸芸や四国遍路の魅力をスペインにPRし、観光客の誘致を図り、国際的な文化交流の促進や交流人口の拡大を目指します。

イ 目標

国際的な観光客誘致と地域活性化を通じ、香川県の経済と文化の持続的発展を図ります。

(2) 1 事業内容

【大阪・関西万博香川県催事イベント】

- 2024年10月14日(月)@高松シンボルタワー1Fデックスギャラリー
- 日本の万博関係者および、県内15市町等による県民への万博の機運醸成
 - ・万博について学べる〇×クイズ
 - ・万博の香川県ブースでも出展、実施を予定しているさぬきうどんの試食提供や獅子舞の演舞
 - ・ミyakミyakによるキャラバン隊の訪問
 - ・万博関連グッズのガチャポン
- 来場者5,000名、地元の新聞や複数の放送局でニュースとして取り上げられた
- 当該事業において交流した交流相手の類型
 - ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

(2) 2 事業内容

【全国ご当地うどんサミットinさぬき2024】

- 2024年12月7日(土)・8日(日)@サンメッセ香川
- 県民への万博の機運醸成
 - ・パラオ共和国からの訪問団とパラオうどんの調理および試食提供、県内のベトナム料理店とフォーの試食提供、イタリアパスタの試食提供
 - ・万博に関する県民の意識調査(アンケート)の実施およびステッカーの配布
 - ・ミyakミyakとの交流
 - ・交流相手国の紹介ブースの設置
- イベント来場者数:3万人、国際課ブースへの来場者数:約650組
- 当該事業において交流した交流相手の類型
 - イ 万博参加国・地域の関係者(スペインは直接的な交流は行わず、県民へ万博の周知を行った)

(2)ー3 事業内容

【スペイン旅行見本市FITUR2025出展に伴うスペイン訪問】

- 2025年1月22日(水)～26日(日)@IFEMA Feria de Madrid
- 訪日旅行等に関心が高いスペイン国民への香川県PR
 - ・BtoB商談会、BtoC観光案内
 - ・直島の黄色かぼちやのぬいぐるみを使ったフォトイベント(SNS投稿や香川県Instagramのアカウントフォロー)
 - ・JNTO JAPANブースのイベントステージで香川の魅力に関するプレゼンテーション
- 現地関係者と次年度事業に関する打ち合わせ
- SNS180ポスト
- 当該事業において交流した交流相手の類型
 - イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

- 事業1、2では、多くの県民に大阪・関西万博をPRし、万博の機運を高めることができました。
- 現地旅行見本市では、香川県ブースへは2日間で約600人が訪れ、写真イベントで180ポストを獲得、またJNTOのステージイベントで30分に渡り香川県の魅力についてプレゼンテーションしたことで、多くの人に香川県の情報を伝えることができました。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

現地旅行見本市でのPR活動により、香川県の魅力が現地の方々に認知され、観光客および交流人口の増加が期待されます。大阪・関西万博閉会後も、両国の接点であるアート(瀬戸内国際芸術祭、直島など)や巡礼旅(お遍路)などの魅力を継続的に情報発信することで認知度を向上させ、来県者の増加を図り、これら観光資源を活用した国際交流を通じ、地域経済の活性化と地方創生寄与することが期待されます。

5 特に良かった点、苦勞した点

- 良かった点: FITURでは、交流相手国であるスペインの多くの一般顧客と直接話をする事ができて良かったです。特に、香川県はスペインでの知名度が低いため、直島の黄色かぼちゃをイメージしたぬいぐるみを展示し、写真イベントを行うことで、それをきっかけにブースを訪れ、観光案内を聞いてくれる来場者も多く、集客につなげることができました。またステージイベントでプレゼンテーションを行うことで、広く香川県の魅力をPRできました。
- 苦勞した点: 旅行博でのPR活動では、言語の違いからコミュニケーションが難しく、情報伝達に苦勞しました。

6 今後の展開

令和7年度も引き続き現地のイベントへ出展し、文化体験を通じた交流イベントを通じて香川県の魅力を伝え、PRを行います。また、県内の美術・デザイン・建築を専攻している学生を対象に、スペイン派遣を実施し、青少年の育成に寄与します。

7 今後の展開における課題

今後の展開における課題としては、香川県は特定の市や組織等との交流協定がないので、事業継続のための予算確保が課題です。また、香川県を訪れる外国人旅行者の増加に伴い、高い満足度を得るための受入環境整備にも取り組む必要があります。(スペイン語での情報発信など)



プレイベントで万博推進局のブースを訪れる県民



うどんサミットで万博をPR



FITURで実施したフォトイベント

香川県交流計画の進捗状況

自治体名	香川県・丸亀市
相手国・地域	スペイン

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

丸亀市は、人口減少や少子高齢化といった課題を抱える中で、市民一人ひとりの多様な幸せ(well-being)を実現することを目指し、交流人口や関係人口の創出に取り組んでいます。その一環として、世界有数の美食の街である姉妹都市 スペイン・サンセバステリアン市(以下「サンセ市」という。)&「食」を通じた交流を深めており、2019年には、両市の友好関係の構築を目的として、姉妹都市提携の調印日である4月9日を『丸亀市×サンセバステリアン市「チャコリの日』』と制定しました。

このような継続的な交流の中で、万博を契機に、コロナ禍により中止となっていたサンセ市のシェフ招聘事業を実施し、料理教室の開発や本市オリジナルのピンチョスの開発など、新たな事業を展開することで、国際的な交流の促進や交流人口の拡大を目指していきます。

イ 目標

行政だけでなく、一般市民、民間レベルにおける交流促進を図ることで、本市とサンセ市の友好関係をより強固にします。

(2) 1 事業内容

【令和6年度 丸亀市×スペイン・サンセバステリアン市 姉妹都市友好事業】

サンセ市の人気バル「ガンダリアス」のオーナー・シェフを招聘し、地元生産者との交流、市民・料理人を対象とした料理教室の開催、万博出展など令和7年度事業での活用を見据えた「オリジナル丸亀ピンチョス」の開発を行いました。

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

- ・2024年12月 事業着手(補正予算可決、シェフの航空券等の手配、事業内容の折衝など)
- ・2025年2月18日(火)～23日(日) オーナー・シェフの丸亀市滞在期間

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

- ・丸亀市:丸亀市・地域商社(株式会社OIKAZE)・(一財)丸亀市観光協会・丸亀市国際交流協会 ほか
- ・サンセ市:ガンダリアス・本市出身の現地コーディネーター ほか

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

(1)食材視察、生産者との交流

日にち:2025年2月19日(水) 場所:丸亀市内 参加者:生産者(農業、水産業、飲食店経営者など)

(2)プロ向け料理教室

日にち:2025年2月20日(木) 場所:四国ガスショールーム ピポット丸亀 参加者:10名(満員) 報道:四国新聞社、読売新聞社、NHK

(3)万博出展を目指した「オリジナル丸亀ピンチョス」の開発

日にち:2025年2月21日(金) 場所:四国ガスショールーム ピポット丸亀 参加者:地元飲食店シェフ

(4)一般向け料理教室

日にち:2025年2月22日(土) 場所:ひまわりセンター 参加者:48名(満員) 報道:四国新聞社、読売新聞社

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

市民・事業者への国際交流の機運醸成、市内飲食店シェフの料理技術の向上、観光資源の開発、サンセ市での交流拠点(ガンダリアス)候補地の確保など

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

行政だけではなく、地域商社や料理教室の参加者等が「ガンダリアス」のオーナー・シェフと交流することにより、国際的な交流の機運が高まったほか、サンセ市への関心が高まり、市民や事業者による自発的な交流などが期待できます。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博閉会後においても、本事業を契機に隔年で両市のシェフ等が行き来するなど、地域商社を中心とした民間レベルでの交流継続が期待されるほか、オリジナル丸亀ピンチョスを市内飲食店等で継続的に販売することで、うどん・骨付鳥に次ぐ新たな本市の特産品(地域のレガシー)として、交流人口の拡大につなげたいと考えています。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

- ・オーナーとシェフが丸亀市を大いに気に入ってくれたこと。
- ・丸亀市、地域商社、国際交流協会、現地コーディネーター等による実施体制が構築されたこと。

●苦勞した点

- ・スペイン語通訳を香川県内で見つけることが難しく、愛知県から招聘したこと。
- ・料理教室等で仕入れた材料が専門的で、両国の材料に対する認識の違いもありその手配に労力を要したこと。

6 今後の展開

開発した「オリジナル丸亀ピンチョス」を「まるがめピンチョス祭り」(チャコリの日の盛り上げイベント)でお披露目するほか、瀬戸内国際芸術祭や万博での販売など、様々な機会を捉えたPRに努め、サンセ市との「食」を通じた更なる交流の活性化につなげていきたいです。
また、隔年での両市の継続的な往来交流が実現できるよう、関係者等と検討を重ねていきます。

7 今後の展開における課題

万博出展に向けては、サンセ市が属するバスク州の参加が条件となっていますが、現時点でその参加が不透明であることから、出展を見送る可能性が高いと考えています。そこで、万博出展がかなわない場合は、香川県と連携し瀬戸内国際芸術祭で行われる交流会などでピンチョスをふるまうなど、代わりとなる事業の検討が必要と考えています。



一般向け料理教室



プロ向け料理教室



地元生産者との交流

愛南町交流計画の進捗状況

自治体名	愛南町
相手国・地域	カナダ

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

南宇和高校の海外研修先がカナダ国のバンクーバーであったり、愛南漁業協同組合がカナダ国のバンクーバーへ輸出事業を実施してあったりと愛南町とカナダ国の繋がりは少なからずあったが、万博国際交流プログラム事業を契機に万博終了後も継続・発展した交流を図りたい。

イ 目標

万博国際交流プログラムを通し、「愛南町総合計画」の施策である「次世代につなぐ子ども・子育て支援の充実」において、南宇和高校の社会研修も踏まえた文化交流の一助となることを目指すと共に、「水産業の振興」において、愛南町と愛南漁業協同組合、南宇和高校、地元水産加工会社が連携し、「チーム愛南」として持続可能な漁業の推進を目指す。

(2)ー1 事業内容

【チーム愛南(高校生含)によるカナダ国の産品を使った商品開発を通じた交流】

- ①カナダ国と愛南町の産品を使った商品を開発。5月31日(土)に開発した商品のPR等を通じた交流。
- ②南宇和高校地域振興研究部が主となり、開発した商品を通じて、カナダ国留学生と交流。
- ③令和7年5月31日(土)地方創生SDGsフェス会場で、開発した商品のPRを通じて、南宇和高校地域振興研究部とカナダ国留学生の交流を実施。
- ④万博を契機としたカナダ国と愛南町の産品を使って開発した商品を通じた交流を図ることにより、参加した生徒の見聞を広めることができ、さらに、今後はカナダ国との国際交流を深めることができる。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー2 事業内容

【カナダ国外交官出前講座】

- ①令和7年3月10日(月)
- ②カナダ大使館 スティーブン・ラポインター等書記官(広報) ※体調不良のため、急遽、カナダ大使館広報部補佐官三上尋子氏に変更。
- ③カナダ大使館、南宇和高校、愛南町役場をZOOMでつなぎ、オンライン出前講座を開催。
- ④普段知る機会の少ないカナダ国のことを出前講座で講演いただき、カナダ国に対して認識を深めることができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

(2)ー3 事業内容

【日本側の万博関係者による高校生を対象とした講演会】

- ①令和7年3月10日(月)
- ②内閣官房国際博覧会推進本部事務局 石居莉果氏
- ③内閣官房国際博覧会推進本部事務局、南宇和高校、愛南町役場をZOOMでつなぎ、オンライン講演会を開催。
- ④大阪・関西万博の最新の動向等について、認識を深めることができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

(2)ー4 事業内容

【カナダ国パビリオンでの交流】

- ①令和7年6月1日(日)午後5時～
- ②南宇和高校地域振興研究部と商品開発の協力者、カナダ国留学生等。
- ③カナダ国パビリオンを訪問し、交流を深める。
- ④カナダ国パビリオンを通じて、交流を図ることにより、一層、カナダ国を知ることができ、今後の交流に繋がる。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

南宇和高校地域振興研究部と地元水産加工会社、愛南漁業協同組合、愛南町が「チーム愛南」となり、交流事業の相手国のカナダ国に関する食や文化に触れることにより、カナダ国に対して、親近感や思いを持ち、より一層、カナダ国と今後の交流事業実施の契機となっている。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博の国際交流プログラム事業実施に伴い、カナダ大使館やカナダ国留学生と交流を図ることにより、より一層、今後の国際交流の幅が広がる。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

知る機会の少なかったカナダ国について、見聞を深めることができた。

●苦勞した点

町がカナダ国と交流を図る交流計画を作成したが、国相手になると調整に時間を要した。

6 今後の展開

万博国際交流プログラム事業を契機に、より一層、カナダ国との交流を深めていきたい。

7 今後の展開における課題

カナダ国と愛南町の産品を使った商品はできたが、万博終了後もPR等を通じて、カナダ国との交流を発展させていきたい。



カナダ国と愛南町の産品を
使った商品開発



カナダ国外交官出前講座



日本側の万博関係者による
高校生を対象とした講演会

佐賀県交流計画の進捗状況

自治体名	佐賀県
相手国・地域	オランダ王国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

佐賀県とオランダ王国の歴史的つながりをきっかけに、平成28年「クリエイティブ連携・交流協定」締結。これまでオランダ王国とクリエイティブ産業を中心に、スポーツや文化等様々な分野で交流を実施してきた。これまで、オランダ王国と築いてきた関係を深化させることはもちろん、新たなフィールドでの連携に挑戦し、新たな価値の創造を目指している。

イ 目標

佐賀県内においては、ダッチデザインによる新たな視点の取り込みや、人々が等しく幸せに生きる権利を有する共生社会の先進国であるオランダから学び、地域や社会の磨き上げを推進。また、オランダにおいても事業を実施することで、現地において佐賀県を発信し、認知度の向上を図ることで、佐賀県が掲げる「世界に誇れる佐賀づくり」、ひいては地方創生を進めていくことを目標としている。

(2) 1 事業内容

【事業名】オランダパラスポーツ関係者招聘

①スケジュール: 令和6年11月20～21日実施

②実施体制:

駐日オランダ大使館からの提案で、元国際パラリンピック委員会理事リタ・ファン・ドリエル氏を招聘。佐賀県と県内特別支援学校、パラスポーツ関係者等と連携して、受入れ及び交流を実施。

③内容

実施: 令和6年11月20～21日

1) 県内特別支援学校訪問

2) コーフボール講習会 × 2回 (参加者計: 37名)

3) 意見交換及びディスカッション (テーマ: パラスポーツの普及と地域における共生社会)

県パラスポーツ協会等パラスポーツ関係者6名及び県職員 (スポーツ課) 3名

④効果 (自治体内への波及効果): 2024年佐賀県で開催された、全国障害者スポーツ大会の“ポスト全障スポ”として、これからの県内におけるパラスポーツの在り方や、パラスポーツを通じたインクルーシブ社会の実現について、ビジョンを現場で共有することができた。特に、インクルーシブ社会の実現を推進するオランダ現地の声を聴いたり、実際にコーフボールを体験して意見交換をすることで、当事者がより一層自分事としてインクルーシブ社会の実現を考えるきっかけとなった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型: 万博参加国・地域の関係者

(2)ー2 事業内容

【事業名】オランダデルフト市等訪問

①スケジュール: 令和6年12月10～16日実施実施

②実施体制: 佐賀県

③内容

実施: 令和6年12月10～16日

1) デルフト市立プリンセンホフ博物館と九州陶磁文化館学芸員と、今後の交流可能性について意見交換及びディスカッションを実施

2) Creative Residency Arita (CRA) 関係者と同プログラムOB・OGによるネットワーキングミーティングを実施

④効果(自治体内への波及効果): プリンセンホフ博物館と佐賀県九州陶磁文化館による、今後の交流について意見交換及びディスカッションを実施。プリンセンホフ博物館改修終了後の展示について検討したり、プリンセンホフ博物館の佐賀県訪問や万博会場でのトークショーの実施等具体的な交流・連携に向けた協議を実施できた。また、2)では、CRA事業で構築したネットワークの強化を図ることができ、今後の佐賀・オランダ双方における情報発信等についても、意見交換をすることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型: ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

(2)ー3 事業内容

【事業名】オランダデルフト市等訪問

①スケジュール: 令和6年10月～令和7年3月

②実施体制: 佐賀県

③内容

実施: 令和6年10月～令和7年3月実施

佐賀県の諸富家具とオランダデザイナーによる、コラボ家具を制作。

家具は、万博オランダパビリオンにおける文化プログラムで使用されるため、

令和7年3月 オランダデザイナーを佐賀県に招聘し、制作する家具の最終調整やミーティングを実施した。

④効果: 万博で使用するため、解体・組み立て方法や、展示・保管についてなど、詳細は調整中であるものの、概ね家具の完成までの見通しがたった。デザイナーの招聘について、県内メディアに取り上げられ、これから家具が完成し、実際に万博で使用されるまで一連の流れで発信するため、継続的に取材を受けている。今後は、万博オランダパビリオンで家具を実際に使用し、オランダと佐賀県の連携について発信するとともに、佐賀県のものづくり文化についてもオランダを中心とした国内外に発信していく機会に期待している。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型: 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

特に事業1及び2では、これまでオランダと行ってきた焼き物やスポーツを通じた交流を発展させるきっかけとなった。また、事業3についても、家具という新たなフィールドでの連携を生み出し、県内にダッチデザインによる新たな視点の取り込みに寄与している。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

特に事業2及び3に関しては、トークイベントの実施やコラボ家具の制作・展示等、万博における取組を生み出し、それらをきっかけとした今後の連携の検討に繋がリレガシーの創造に寄与している。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

万博をきっかけに新たな交流関係が築かれ、当事者（博物館や、制作に携わったクリエイター、伝統工芸品事業者、パラスポーツ関係者等）間で、今後の連携継続に前向きであること。

また、この万博に関わる交流関係構築をきっかけに、万博における同国の特設展示での家具の制作・展示等の提案を受けるなど、これまで無かった新しい連携に波及し、駐日大使館等オランダ政府関係者にも高く評価されていること。

6 今後の展開

・事業3で制作した家具をオランダパビリオン文化プログラムで使用。ナショナルデーに関連する、日蘭コラボ特設展示「Bridging Future and Past」において、展示什器として使用予定。

・事業2で協議した、トークショーを令和7年度オランダパビリオンで実施予定。また、その後に、プリンセンホフ博物館が佐賀県を訪問し、今後の連携や、同館における展示への協力に向けた協議を行う予定。

7 今後の展開における課題

・継続的な取組となるために各事業関係者のより自発的な動き（自走化）につなげていく必要がある。

そのため、それぞれの事業を県内及びオランダを中心とした国内外に当交流がもたらす成果を発信していくこと。また、それらを継続してメディアに取り上げてもらうことで、県内及び国内外における佐賀とオランダの連携の機運を醸成していきたい。また、その過程において、人的ネットワークの強化や、新たな連携機会の発掘などを積極的に行っていきたい。



パラスポーツ関係者による学校訪問（体育授業）



パラスポーツ関係者との意見交換会



制作した家具の試作品

雲仙市交流計画の進捗状況

自治体名	長崎県雲仙市
相手国・地域	デンマーク王国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

雲仙市の人口は約4万人で少子高齢化と人口減少が地域課題であり、主な産業は農業と観光業である。本市で有機農法をベースに在来種野菜の種を40年以上繋ぎながら育て全国から注目を集めている農業者「岩崎政利」氏がいる。岩崎氏の取り組みと在来種野菜に魅了され移住してきた料理人等がレストランや野菜の直売所を開業し、交流人口と関係人口の拡大につながっている。本市はこれらの動きに着目し関係人口の創出事業を行ってきた。また岩崎氏を軸とした官民の取り組みが評価され2024年に美食都市アワードに雲仙市が選ばれた。今回、万博を契機として、さらなる関係人口の拡大を目的とし有機農業先進国でかつ美食都市コペンハーゲンを首都に有する「デンマーク王国」と交流を行うとともに、岩崎氏の在来種野菜を展示するシグネチャーパビリオン「EARTH MART」の関係者などの著名人をゲストにしたトークセッションを行う。

イ 目標

アを踏まえ、交流計画を実施することにより国内のみならず国外の関係人口の創出を目標とする。

(2) 1 事業内容

【事業名】…食と未来に関するトークセッション(万博会期前実施)

- ①スケジュール 令和7年3月10日 京都市・紫明会館 第1回トークセッション開催。
- ②体制 雲仙市、市内有機野菜直売所店主
- ③内容 食と未来に関するトークセッション。これまで食の企画などを手掛け、大阪・関西万博において「食」に関するシグネチャーパビリオンのプロデュースを行っている小山薫堂氏の哲学や人生観をトークにより深掘りし、企画の極意を聞き出した。
- ④効果 (自治体内への波及効果) 市民や市外の関係人口に対して万博開幕に向けた機運醸成
(実施により達成できた成果) 現地参加者 21名、オンライン視聴回数 1万9千回(3月21日時点)
(相手国への波及効果) 現時点でなし
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
 - ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
 - イ 万博参加国・地域の関係者
 - ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

(2) 2 事業内容

【事業名】…食と未来に関するトークセッション(万博会期中、期間後実施)

- ①スケジュール 令和7年5月～11月 関西地区、関東地区等 6回程度 日程等調整中
- ②体制 雲仙市、業務委託先(オーガニックベース)
- ③内容 未来の食と文化に関するトークセッション。これまで雲仙市で開催してきたトークイベント「種を蒔くデザイン展」に登壇してきた著名人らによるトークイベント。
- ④効果 (自治体内への波及効果) 在来種野菜の魅力を発信し雲仙市の関係人口を創出(予定)
(実施により達成できた成果) 現時点でなし
(相手国への波及効果) 現時点でなし

- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
- ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
 - イ 万博参加国・地域の関係者
 - ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

(2)ー3 事業内容

【事業名】・・・雲仙市内におけるデンマーク王国関係者との交流(万博会期中実施)

- ①スケジュール 令和7年7月～9月頃 雲仙市内 3日間程度 の開催に向けて招待者の日程調整中
- ②体制 雲仙市、業務委託先(オーガニックベース)
- ③内容 農地・直売所視察見学、在来種野菜の種採り体験、在来種野菜の試食会、デンマーク王国関係者と市民との交流会
招待者:デンマーク王国大使館職員2名程度、デンマーク王国内のレストランで勤務する、もしくは勤務したことがある料理人2～3名程度。
- ④効果 (自治体内への波及効果)市民の国際交流促進とシビックプライドの醸成、在来種野菜の魅力発信、市外国外の関係人口創出(予定)
(実施により達成できた成果)現時点でなし
(相手国への波及効果)現時点でなし
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
 - ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
 - イ 万博参加国・地域の関係者
 - ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

- 国内のみならず国外の関係人口の創出 現地参加者 21名、オンライン視聴回数 1万9千回(3月21日時点)
今後デンマークを主とした国外への魅力発信により国外からの観光客の増加につなげる。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

主な交流相手であるデンマーク王国内のレストランで勤務する、もしくは勤務したことがある料理人との交流は、大阪・関西万博閉会後も市民レベルでの交流は続いていくこととなり、関係人口創出事業、有機農業推進事業、外国人観光客需要拡大事業等の市の施策に受け継ぎ、引き続き地方創生に寄与していくものであると考える。また、草の根においても市民同士の交流は続くことが考えられ、市民からの要望があった場合はデンマーク王国や海外料理人との交流を促進していきたい。シグネチャーパビリオン「EARTH MART」における在来種野菜の展示を見られた方々が雲仙市を訪れることにもつながることを期待しているとともに、市民においては大阪・関西万博に雲仙市の在来種野菜が展示されたということに誇りを感じ、今後語り継がれることになることが期待される。

5 特に良かった点、苦勞した点

●良かった点

会期前の事業はトークイベント1回のみであるが、パビリオン関係者とのトークにより万博を契機とした交流の機運醸成につなげることができた。

●苦勞した点

デンマーク大使館とのファーストコンタクトまでの手続き

6 今後の展開

- ・交流計画に基づく会期中、会期後の交流事業の実施
- ・令和8年度以降における事業の企画、予算化

7 今後の展開における課題

- ・本市とイベント業務委託先と連携し関係先との調整を短期間で行う必要がある。
- ・市民および国内、国外への広報、告知によるイベント等交流事業への参加者確保、関係人口の創出
- ・継続的な財源確保



雲仙市の在来種野菜生産者 岩崎政利氏



雲仙市で種を受け継いだ在来種野菜



令和7年3月10日トークイベント(京都)

東彼杵町交流計画の進捗状況

自治体名	東彼杵町
相手国・地域	オランダ王国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

東彼杵町は人口7,309人(令和7年3月31日現在)と長崎県において2番目に人口の少ない自治体であり、令和4年町内全域が過疎地域に登録された。本町は「TEAMEXPO2025」プログラム／共創パートナー登録や「地方創生SDGsフェス」への出展など、万博を契機として地域のさらなる活性化を目指しており、本国際交流事業の実施により、小学生を主役として巻き込み、彼らのコミュニケーション能力の向上、シビックプライドの醸成を目指す。

イ 目標

参加する子どもたち一人ひとりが、東彼杵町とその特産である「そのぎ茶」を自らの言葉で、オランダ王国及びその他万博関係者へ紹介することができる。

(2) 1 事業内容

【関係者打合せ】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

2025年2月13日に関係者による当該事業全体の実施内容のすり合わせのためのオンライン打合せを実施

②体制

- ・相手国:オランダ王国大使館広報・政治・文化部副部長 Bas Valckx氏、オランダ王国総領事広報担当・野口彰英氏
- ・学校:彼杵小学校校長 吉永信一郎、PTA会長 松山幸一郎、千綿小学校校長 中路知恵、PTA会長 永島大輔
- ・役場:地域プロジェクトマネージャー 小森竜樹、総務課企画係長 山下晋弘、企画係主査 森縁

③内容

- ・関係者の紹介、顔合わせ
- ・2025年9月11日(木)実施のオランダパビリオンミーティングルームで実施する修学旅行そのぎ茶会の内容確認
- ・オランダ王国総領事野口氏から事前準備を含めたオランダ王国側における広報についてのご提案

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

訪問児童となる学年の保護者へ当該事業のビジョンを共有できた。
内容詳細をオランダ王国大使館及び総領事の担当者と共有し、実施可能であることが確認できた。
オランダ王国側公式のメディア媒体を使っての広報についてご提案いただいた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

- ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
- イ 万博参加国・地域の関係者
- ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

(2)ー3 事業内容

【オランダ王国パビリオン訪問児童へのオリエンテーション】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

2025年3月19日 彼杵小学校と千綿小学校を訪問

②体制

- ・学校:千綿小学校校長 中路知恵、5年生担任教諭及び5年生 16名、彼杵小学校校長 吉永信一郎、5年生担任教諭及び5年生 44名
- ・役場:地域プロジェクトマネージャー 小森竜樹

③内容

- ・地域プロジェクトマネージャーの小森がオランダ王国パビリオンに訪問する対象学年児童に対し、「特別授業」と称しオリエンテーションを実施

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

- ・オランダ王国パビリオン訪問児童と大阪・関西万博に関わっていく東彼杵町のビジョンを共有できた。
- ・オランダ王国パビリオン訪問児童が大阪・関西万博を自分ごととして認識できた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

- イ 万博参加国・地域の関係者
- ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

・オランダ大使館及び総領事とのオンライン打合せを通して、事業実施イメージ及び課題を共有することができた。

【オランダ王国側】の課題は、①川原慶賀の絵画(3枚)の複製寄贈について、ライデン国立民族学博物館学芸員へ確認する。②9月11日のパビリオンでの修学旅行そのぎ茶会について、パビリオンスタッフへ周知し参加を呼びかける。③オランダ王国大使の訪問日程を調整する。【本町側】は、①県内メディアに対し、本事業を周知する。パビリオン内で取材希望があれば総領事へ連絡する。②総領事が公式SNSで発信できるように、子どもたちの映り込みが可能か確認する。

・オランダ王国パビリオン訪問児童に対し、「大阪・関西万博」への東彼杵町の関わりを示し、子どもたち自身も主体的に関わっていこうという機運醸成ができた。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博閉会後の事業継続性や自治体の地方創生への寄与の状況

会期終了後のオランダ王国大使の東彼杵町訪問についても、大使館側で調整いただける旨を確認することができた。本町では、これに対して町のランドマークにもなっている千綿駅での茶会や川原慶賀の絵に描かれた街並みのツアーなど実施し、今後のオランダ王国からの観光客を呼び込む足がかりとする。

また、ライデン国立民族学博物館所蔵の川原慶賀の絵3枚のレプリカ寄贈についても、前向きにご検討いただけていることを確認できた。寄贈いただくことが叶えば、来年度以降オランダ王国にて寄贈式を実施する計画もご提案いただいた。

5 特に良かった点、苦勞した点

- 良かった点 関係者間で事業実施のイメージのすり合わせができたことで、課題が明らかになった点。子どもたちが大阪関西万博に興味をもつきっかけづくりができた点。
- 苦勞した点 特にない。

6 今後の展開

- 4月15日 町広報誌にて、国際交流事業の内容を含む大阪・関西万博とのかかわりを町民等へ向け周知
- 4月18日 参加児童の保護者に対し、オランダ王国パビリオン訪問の説明会を実施
- 4月22日 長崎いけどき松本氏と修学旅行そのぎ茶会の内容等の検討
- 5月2日 町内小学校校長、6年生担任教諭、地域プロジェクトマネージャー及び企画係職員により今後のスケジュールについて打合せ
- 6月～9月 長崎いけどきから参加児童に対し事前講座を実施(計3回を予定)
- 9月10日 オランダ王国パビリオン内ミーティングルーム(予定)にて最終リハーサル
- 9月11日 オランダ王国パビリオンにて修学旅行そのぎ茶会を実施
- 10月(予定)オランダ王国大使の東彼杵町訪問

7 今後の展開における課題

現状ではパビリオン内ミーティングルームの環境が前日にしか確認できない。事前に現地確認できるか、大使館及び総領事の担当者に確認する。



2025年3月19日千綿小学校5年生に対し特別授業を行う地域プロジェクトマネージャー小森



2025年3月19日彼杵小学校5年生に対し特別授業を行う地域プロジェクトマネージャー小森

大分県交流計画の進捗状況

自治体名	大分県
相手国・地域	英国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

大分県は英国ウェールズと国際交流推進に関するMOUを締結し、交流を進めているが、県民の認知度は依然として低く、さらなる取組が求められている。また、日本と英国は共に島国で、海は切り離せない存在である一方、海洋生物や環境保護に関する相互理解の機会は限られている。そこで、水族館同士の連携を活かし、県内の子どもたちに双方の海や生物、環境について学ぶ場を提供することで、世界的な環境意識とウェールズへの理解を深める契機としたい。

イ 目標

- ・県内小学生の環境意識と、県とウェールズとの交流についての認知度向上。両地域での交流関係者のネットワーク拡大。

(2) 事業内容

【事業名】ウェールズ「アングルシー水族館」と水族館「うみたまご」の現地交流

- ①2024年春ごろより、訪問に向け県・ウェールズ政府・現地水族館で訪問に向けた調整～2024年7月に現地水族館から受入承諾～2024年8月現地訪問
- ②全体調整：県国際政策課 交流主体（県委託先）：水族館「うみたまご」 受入主体：アングルシー水族館 調整協力：ウェールズ政府・北ウェールズ観光局
- ③日時：2024年8月21日～23日 訪問先：アングルシー水族館およびその周辺 参加者：うみたまご職員2名、県国際政策課1名、アングルシー水族館職員3名
取組内容：水族館での概要説明・ワークショップ体験・今後の交流に向けた意見交換 / 周辺海岸での生物探索ワークショップ体験
- ④両地域の水族館の子供向けワークショップについての知見の共有、大分とウェールズとの海域に対する理解の深化
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
ア、イ

(2) 事業内容

【事業名】県内小学生向けワークショップの実施

- ①2024年8月 現地訪問終了後、県・うみたまごで詳細案を計画～以降、関係者間調整～2024年12月参加者募集開始～2025年1月ワークショップ開催
- ②全体調整：県国際政策課 実施主体（県委託先）：水族館「うみたまご」 開催協力：アングルシー水族館、ウェールズ政府、日本文理大学、APU、県中部振興局
- ③【1回目】日時：2025年1月19日 会場：津久見市民会館 【2回目】日時：2025年1月25日 会場：宇佐文化会館ウサノビア
広報：うみたまごWEBサイト・SNS / 県北部地域・南部地域の全小学校へチラシを配布
取組内容：スゴロクゲームをベースに、大分県とウェールズとの海の違いを学ぶミニ講座や、サメの歯を用いたキーホルダー作成など工作を実施。
県国際政策課の説明の中で、万博協会提供の資料をもとに本事業の趣旨を参加者へプレゼンテーションした。
- ④県内小学生の世界の海洋環境に対する意識の向上、生物・環境への興味喚起、県とウェールズとの交流、万博開催についての認知拡大
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2(1)ア～ウから選択）
ア、イ、ウ

3 交流計画が掲げる目標に対する成果

2024年度の事業を通じ、当初掲げていた目標は概ね達成できたと考える。特にワークショップでは、子どもたちが主体的に学び、楽しみながら海や環境、生き物への関心を深める姿が多く見られ、期待以上の反応が得られた。また、多くの協力者の理解と協力を得られたことで、単なる交流・ワークショップの枠を超え、地域の特色やウェールズの魅力を伝える中身の濃い事業となり、手応えを感じる成果となった。

4 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

子どもたちが海外の自然や文化、環境課題に触れることで、多文化理解や地球規模の視点を育むとともに、地域の魅力や海洋環境の大切さを再認識する機会を提供できたことは、万博以降も大分県とウェールズの交流の継続・発展、そして持続可能な地域づくりへの確かな財産になると考える。

5 特に良かった点、苦労した点

●**良かった点** 水族館と県の連携だけにとどまらず、県内の大学(立命館アジア太平洋大学、日本文理大学)の教授・留学生や、県の水産部門など幅広い分野での協働が実現し、内容の充実したワークショップの開催が実現した。

●**苦労した点** 水族館同士の交流の中で、互いの環境教育に関するノウハウを共有できた一方で、日本と英国との水族館による生物展示に関する価値観の違いを感じる場面もあり、広範にわたる交流実現への難しさを感じた。

6 今後の展開

今回の事業を通じて得られた成果や課題を踏まえ、今後は従来から築いてきた県とウェールズ政府との良好な関係性を土台に、相互理解を深める機会づくりを引き続き進めていきたいと考えている。水族館同士の連携については、双方の考え方や取組方針に違いもあることから、次年度は新たな形での交流の可能性を検討する。

7 今後の展開における課題

交流のテーマ設定や実施方法について、双方の価値観や取組方針の違いを踏まえた調整が課題であるとする。また、県民への認知度向上や参加の裾野拡大も引き続きの課題であり、教育現場や地域団体との連携強化、オンラインを活用した交流手法の検討など、多様なアプローチが求められる。



ウェールズでの交流



大分県でのワークショップの様子①



大分県でのワークショップの様子②